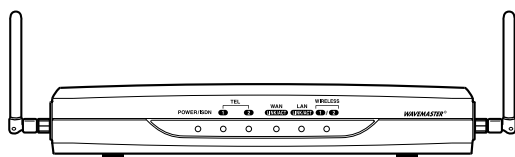
取扱説明書[活用編]

WIRELESS ACCESS POINT

AP-5100VoIP

IEEE802.11a･g規格同時通信対応
IP電話対応

各章について

各メニューの設定画面について説明しています。
設定画面は、用途別に下記の各メニューに分類されています。

Icom Inc.

はじめに

本書は、本製品で設定できるさまざまな機能について、各メニューの設定画面について詳しく説明しています。
取扱説明書[導入編]に記載されていない詳細な機能を設定するときなど、本書と併せてご覧ください。

表記について

本書は、次の規則にしたがって表記しています。

「　」表記：本製品の各メニューと、そのメニューに属する設定画面の名称を(「」)で囲んで表記します。
［　］表記：各設定画面の設定項目名を([ ])で囲んで表記します。
〈　〉表記：設定画面上に設けられたコマンドボタンの名称を(〈〉)で囲んで表記します。

※Microsoft® Windows® XP Professional、Microsoft® Windows® XP Home Editionは、Windows XPと表記します。
Microsoft® Windows® 2000 Professionalは、Windows 2000と表記します。
Microsoft® Windows® Millennium Editionは、Windows Meと表記します。
Microsoft® Windows® 98 Second Editionは、Windows 98 SEと表記します。
※FOMA®は、FOMAと表記します。
※i-mode®は、i-modeと表記します。
※本書は、Ver1.24のファームウェアを使用して説明しています。
※本書中の画面は、OSのバージョンや設定によって、お使いになるパソコンと多少異なる場合があります。

登録商標について

◎アイコム株式会社、アイコム、Icom Inc.、ICOMロゴは、アイコム株式会社の登録商標です。
◎WAVEMASTERは、アイコム株式会社の登録商標です。
◎Microsoft、Windowsは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
本文中の画面の使用に際して、米国Microsoft Corporationの許諾を得ています。
◎Adobe、Adobe Acrobatは、Adobe Systems Incorporated(アドビシステムズ社)の商標です。
◎Atheros、Total 802.11、Super A/Gロゴは、Atheros Communications, Inc.の商標です。
◎FOMA、i-modeは、株式会社NTTドコモの登録商標です。
◎その他、本書に記載されている会社名、製品名は、各社の商標および登録商標です。

「電話設定」メニュー

第1章

この章では、
「電話設定」メニューで表示される設定画面について説明します。(※次のページにつづきます。)

☞次ページへつづく

※下記は、前ページからの「つづき」です。

1-1.「接続設定」画面

■VoIP接続設定

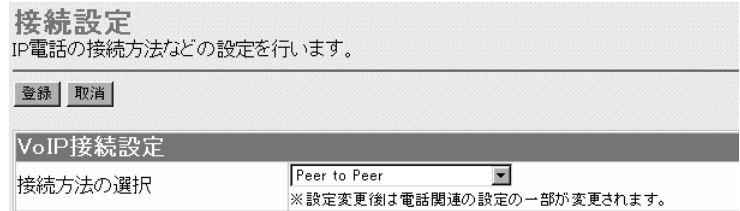
IP電話の回線接続方法を設定します。

電話設定
- 接続設定
- 電話設定:TEL1
- 電話設定:TEL2
- ISDN設定
- SIP設定
- 簡易サーバ設定
- VoIP詳細設定
- 着信設定
- VoIP電話帳

接続設定
IP電話の接続方法などの設定を行います。

登録　取消

VoIP接続設定

接続方法の選択	Peer to Peer ※設定変更後は電話関連の設定の一部が変更されます。

〈登録〉ボタン …………………… 「接続設定」画面で変更したすべての設定内容が有効になります。

〈取消〉ボタン …………………… 「接続設定」画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

接続方法の選択 ………………… IP電話への接続方法は、相手のSIP URI(相手先のIPアドレス)を登録して1対1での通話、ご契約の商用IP電話接続業者が指定するSIPサーバの利用、簡易中継サーバの利用があります。

(出荷時の設定：Peer to Peer)

◎Peer to Peer：
SIPサーバを使用せず、相手のSIP URI(相手先のIPアドレス)を登録して、1対1で通話するとき設定します。

◎フュージョン･コミュニケーションズ：
フュージョン･コミュニケーションズのSIPサーバに接続して「FUSION IP-Phone」サービスを使用するとき設定します。

◎サーバ接続：
簡易中継サーバ(親機)の子機として、簡易中継サーバと接続するとき設定します。
※2005年1月現在、簡易中継サーバ(親機)として使用できるのは、AP-5100VoIP(本製品)、SR-5200VoIP2、SR-5200VoIPです。

1-1.「接続設定」画面(つづき)

■使用回線の設定

本製品で使用する回線(加入電話/VoIP)についての設定です。

電話設定
■ 接続設定
■ 電話設定:TEL1
■ 電話設定:TEL2
■ ISDN設定
■ SIP設定
■ 簡易サーバ設定
■ VoIP詳細設定
■ 着信設定
■ VoIP電話帳

使用回線の設定		
標準発信先	①	自動切替(VoIP優先) ▼
電話回線発信番号	②	0000

①標準発信先 ……………………

本製品を簡易中継サーバ(☞P37)に設定するときは、[使用回線の設定]項目に表示されません。

受話器を取ったとき、発信する回線を設定します。

(出荷時の設定：自動切替(VoIP優先))

※VoIP電話帳に登録した電話番号をダイヤルした場合は、その電話番号と共に登録された「発信先」に発信します。

◎電話回線 ：電話をかけたとき、加入電話回線で発信します。
アナログ電話回線を本製品の[LINE]ポートに接続していない場合や、ISDN回線を本製品の[ISDN U]/[ISDN ST]ポートに接続していない場合は、IP電話での発信に自動で切り替わります。

◎VoIP ：電話をかけたとき、IP電話で発信します。

◎自動切替(VoIP優先)：最初にIP電話で発信し、発信できなかったときは、「ISDN回線」「アナログ電話回線」の優先順位により加入電話回線で発信します。

②電話回線発信番号 …………

[標準発信先]欄で「電話回線」以外を設定したとき有効な設定で、発信先をIP電話から加入電話回線に切り替えるとき、電話機からダイヤルする番号を4桁以内の数字で入力します。

(出荷時の設定：0000)

この欄で設定した番号に続けて一般加入電話回線の電話番号をダイヤルすると、加入電話回線の相手と通話できます。

※IP電話で通話中は、機能しません。

1-1.「接続設定」画面(つづき)

■電話回線の設定

ご使用のアナログ電話回線についての設定です。

電話設定
- 接続設定
- 電話設定:TEL1
- 電話設定:TEL2
- ISDN設定
- SIP設定
- 簡易サーバ設定
- VoIP詳細設定
- 着信設定
- VoIP電話帳

電話回線の設定			
回線種別	①	DP(20pps)	
回線側音量	②	受話音量 標準	送話音量 標準

①**回線種別** ……………………

本製品の[LINE]ポートに接続するアナログ電話回線の種類を設定します。　(出荷時の設定：DP(20pps))

※設定した回線種別が実際の回線と異なると、アナログ電話から発信できませんので、ご注意ください。

◎PB　：接続する加入電話回線のダイヤル方式がPB(トーン信号)のとき

◎DP(20pps)：接続する加入電話回線のダイヤル方式がDP(パルス信号)で、パルス速度が20ppsのとき

◎DP(10pps)：接続する加入電話回線のダイヤル方式がDP(パルス信号)で、パルス速度が10ppsのとき

②**回線側音量** ……………………

【受話音量】：アナログ電話使用時、回線側から自分の受話器に聞こえる音量を、「大」「標準」「小」から設定します。
(出荷時の設定：標準)

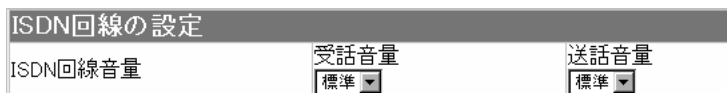
【送話音量】：アナログ電話使用時、回線側から相手の受話器に聞こえる音量を、「大」「標準」「小」から設定します。
(出荷時の設定：標準)

1-1.「接続設定」画面(つづき)

■ISDN回線の設定

ご使用のISDN電話回線についての設定です。

電話設定
- 接続設定
- 電話設定:TEL1
- 電話設定:TEL2
- ISDN設定
- SIP設定
- 簡易サーバ設定
- VoIP詳細設定
- 着信設定
- VoIP電話帳

ISDN回線の設定		
ISDN回線音量	受話音量 標準	送話音量 標準

ISDN回線音量……………………

【受話音量】：ISDN回線で電話使用時、回線側から自分の受話器に聞こえる音量を、「大」「標準」「小」から設定します。
(出荷時の設定：標準)

【送話音量】：ISDN回線で電話使用時、回線側から相手の受話器に聞こえる音量を、「大」「標準」「小」から設定します。
(出荷時の設定：標準)

1-1.「接続設定」画面(つづき)

■市外局番の設定(フュージョン・コミュニケーションズを設定時)

電話設定
- 接続設定
- 電話設定:TEL1
- 電話設定:TEL2
- ISDN設定
- SIP設定
- 簡易サーバ設定
- VoIP詳細設定
- 着信設定
- VoIP電話帳

ご使用の一般加入電話回線の市外局番を設定します。

市外局番の設定	
市外局番	

※この項目は、「接続設定」画面の[VoIP接続設定]項目(☞P5)で、「フュージョン・コミュニケーションズ」を設定したとき表示されます。

市外局番 ……………………… 本製品をお使いになる地域に割り当てられている一般加入電話回線の市外局番を入力します。　(出荷時の設定：空白)
入力は、「0」から始まる2～7桁の番号を半角で入力します。
電話機から電話番号(市内局番+加入者番号)だけをダイヤルすると、ここで入力した市外局番をダイヤルした電話番号(市内局番+加入者番号)の先頭に付加して発信します。
※「0」から始まる番号をダイヤルした場合を除きます。
※SIPサーバへの発信を介して、市内にある一般加入電話の相手に発信するとき、この市外局番が必要になります。

1-1.「接続設定」画面(つづき)

■付加機能設定

IP電話で通話中、アナログ電話からの着信に対する設定です。

電話設定
- 接続設定
- 電話設定:TEL1
- 電話設定:TEL2
- ISDN設定
- SIP設定
- 簡易サーバ設定
- VoIP詳細設定
- 着信設定
- VoIP電話帳

付加機能設定	
VoIP通話中に電話回線からの着信を受ける	○しない ◉する

※本製品を簡易中継サーバ(☞1-5章)に設定するときは、「接続設定」画面に表示されません。

VoIP通話中に電話回線からの着信を受ける ……………………

IP電話で通話中に、アナログ電話回線の相手から着信を受けられるようにするかしないかを設定します。　(出荷時の設定:する)
IP電話で通話中にアナログ電話回線の相手から着信があると、音(「プルプルプル」を繰り返す)でお知らせします。
このとき、フッキングすると、IP電話の相手との通話を切断して、アナログ電話の相手との通話に切り替わります。
※IP電話でダイヤル中の場合は、着信を受けることができません。
※IP電話で通話中に、IP電話の相手からの着信を受けるようにする場合は、「VoIP詳細設定」画面の[着信転送設定]項目にある[通信中着信]欄(☞P58)で設定できます。

1-1.「接続設定」画面(つづき)

■内線通話の使用設定

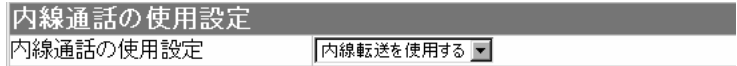
電話設定
- 接続設定
- 電話設定:TEL1
- 電話設定:TEL2
- ISDN設定
- SIP設定
- 簡易サーバ設定
- VoIP詳細設定
- 着信設定
- VoIP電話帳

内線通話や内線転送についての設定です。

内線通話の使用設定	
内線通話の使用設定	内線転送を使用する ▼

※本製品を簡易中継サーバ(☞1-5章)に設定するときは、「接続設定」画面に表示されません。

内線通話の使用設定 …………

〈ご参考〉
内線通話の使用設定にかかわらず、内線転送またはセレクト着信(一方のポート着信時)に、呼び出されていないほうの電話機から[＊][＊]をダイヤルすることにより応答できます。
※本製品を簡易中継サーバ(☞1-5章)に設定するときは、使用できません。

[TEL1]ポートと[TEL2]ポートに接続された電話機どうしで、内線通話や内線転送する場合、その使用形態を選択します。
(出荷時の設定：内線転送を使用する)

◎内線を使用しない　：内線通話を使用しない場合の設定です。

◎内線のみ使用する　：内線通話だけを使用するとき設定します。[TEL1]ポートまたは[TEL2]ポートに接続された電話機から、[＊][0]とダイヤルすると、もう一方を呼び出すとき設定します。

◎内線転送を使用する：内線通話をするときや、一般加入電話やIP電話からの着信を、内線通話を使用してもう一方に転送するとき設定します。
転送するときは、電話機のフックを短く押して(フッキング)してから、[＊][0]とダイヤルします。
※「内線転送を使用する」を設定すると、キャッチホンが使用できません。

1-1.「接続設定」画面(つづき)

■VoIP端末集中管理ソフトウェア設定

電話設定
- 接続設定
- 電話設定:TEL1
- 電話設定:TEL2
- ISDN設定
- SIP設定
- 簡易サーバ設定
- VoIP詳細設定
- 着信設定
- VoIP電話帳

弊社製VoIP端末集中管理ソフトウェアを使用するとき設定します。

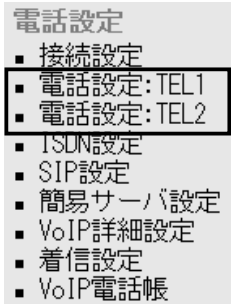
VoIP端末集中管理ソフトウェア設定	
集中管理ソフトウェアを使用	◉しない ○する

集中管理ソフトウェアを使用 ……………………………… ネットワーク上のパソコンから、本製品を集中管理するとき設定します。 (出荷時の設定:しない)
「する」に設定するときは、SNMP機能(☞5-4章)が使用できるよう設定されていることを確認します。
また、コミュニティID(GET)の設定も必要です。

1-2.「電話設定：TEL1 TEL2」画面

■基本設定

電話設定
- 接続設定
- 電話設定:TEL1
- 電話設定:TEL2
- ISDN設定
- SIP設定
- 簡易サーバ設定
- VoIP詳細設定
- 着信設定
- VoIP電話帳

[TEL1]ポートに接続する電話機の基本設定です。

電話設定:TEL1
TELポートの設定を行います。

登録　取消

基本設定			
接続機器の種類 ①	電話機 VoIPでのFAX通信は保証いたしません		
電話機のダイヤル方式 ②	全方式に対応		
ナンバーディスプレイを使用 ③	◉しない ○する		
ポート使用設定 ④	発着信で使用		
音量 ⑤	受話音量 標準	送話音量 標準	
呼出音 ⑥	電話回線呼出音 呼出音1	機器内線呼出音 呼出音1	VoIP外線呼出音 呼出音1
エコーキャンセラーを使用 ⑦	○しない ◉する		

※本製品は、[TEL]ポートを2つ搭載しており、ポートごとの設定画面にわかれています。設定画面の内容は、各ポートごとで同じですので、本書では、[TEL1]側の設定画面を使用して説明しています。

〈登録〉ボタン ……………………
「電話設定：TEL1」画面で変更したすべての設定内容が有効になります。

〈取消〉ボタン ……………………
「電話設定：TEL1」画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

①接続機器の種類 ……………
本製品の[TEL1]ポートに接続する機器の種類を設定します。
(出荷時の設定：電話機)
◎電話機：アナログ電話機を接続するとき
◎FAX　：G3ファクシミリを使用するとき
※IP電話によるファクシミリの動作は、保証いたしません。

②電話機のダイヤル方式 ……
本製品の[TEL1]ポートに接続する電話機のダイヤル信号の種類を設定します。　(出荷時の設定：全方式に対応)
◎全方式に対応：電話機のダイヤル方式を自動認識させるとき
◎PB　　　　　：電話機のダイヤル方式がPB(トーン信号)のとき
◎DP(20pps)　：電話機のダイヤル方式がDP(パルス信号)で、パルス速度が20ppsのとき
◎DP(10pps)　：電話機のダイヤル方式がDP(パルス信号)で、パルス速度が10ppsのとき

1-2.「電話設定：TEL1 TEL2」画面

■基本設定(つづき)

電話設定
- 接続設定
- 電話設定:TEL1
- 電話設定:TEL2
- ISDN設定
- SIP設定
- 簡易サーバ設定
- VoIP詳細設定
- 着信設定
- VoIP電話帳

電話設定:TEL1
TELポートの設定を行います。

[登録] [取消]

基本設定			
接続機器の種類 ①	電話機 VoIPでのFAX通信は保証いたしません		
電話機のダイヤル方式 ②	全方式に対応		
ナンバーディスプレイを使用 ③	◉しない ○する		
ポート使用設定 ④	発着信で使用		
音量 ⑤	受話音量 標準	送話音量 標準	
呼出音 ⑥	電話回線呼出音 呼出音1	機器内線呼出音 呼出音1	VoIP外線呼出音 呼出音1
エコーキャンセラーを使用 ⑦	○しない ◉する		

※本製品は、[TEL]ポートを2つ搭載しており、ポートごとの設定画面にわかれています。設定画面の内容は、各ポートごとで同じですので、本書では、[TEL1]側の設定画面を使用して説明しています。

③ナンバーディスプレイを使用 ………………………

ナンバーディスプレイ機能を、本製品の[TEL1]ポートに接続する電話機で使用するかしないかを設定します。
(出荷時の設定：しない)

※本製品の[TEL1]ポートに接続する電話機でナンバーディスプレイサービスを使用する場合、ナンバーディスプレイ対応の電話機が必要です。

④ポート使用設定 ……………

[TEL1]ポートに接続された電話機やFAXの発信や着信を制限するとき設定します。 (出荷時の設定：発着信で使用)

◎発着信で使用：制限はなく、発着信に使用します。
◎着信専用　　：電話をかけたりFAXを送ったりできません。
◎発信専用　　：電話を受けたりFAXを受信したりできません。
◎使用しない　：接続された電話機やFAXは、動作しません。

⑤音量 …………………………

【受話音量】：一般加入電話およびIP電話使用時、自分の受話器から聞こえる音量を、「大」「標準」「小」から設定します。
(出荷時の設定：標準)

【送話音量】：一般加入電話およびIP電話使用時、相手の受話器に聞こえる音量を、「大」「標準」「小」から設定します。
(出荷時の設定：標準)

1-2.「電話設定：TEL1 TEL2」画面

■基本設定(つづき)

電話設定
- 接続設定
- 電話設定:TEL1
- 電話設定:TEL2
- ISDN設定
- SIP設定
- 簡易サーバ設定
- VoIP詳細設定
- 着信設定
- VoIP電話帳

電話設定:TEL1
TELポートの設定を行います。

登録　取消

基本設定			
接続機器の種類 ①	電話機 VoIPでのFAX通信は保証いたしません		
電話機のダイヤル方式 ②	全方式に対応		
ナンバーディスプレイを使用 ③	⦿しない ○する		
ポート使用設定 ④	発着信で使用		
音量 ⑤	受話音量 標準	送話音量 標準	
呼出音 ⑥	電話回線呼出音 呼出音1	機器内線呼出音 呼出音1	VoIP外線呼出音 呼出音1
エコーキャンセラーを使用 ⑦	○しない ⦿する		

※本製品は、[TEL]ポートを2つ搭載しており、ポートごとの設定画面にわかれています。設定画面の内容は、各ポートごとで同じですので、本書では、[TEL1]側の設定画面を使用して説明しています。

⑥呼出音 ………………………

【電話回線呼出音】：一般加入電話回線からかかってきた電話の着信音パターンを選択します。

(出荷時の設定：呼出音1)

※本製品に接続する電話機によっては、呼び出し音が変化しないことがあります。

【機器内線呼出音】：本製品に接続されたもう一方の電話からかかってきたときの着信音パターンを選択します。　(出荷時の設定：呼出音1)

※本製品に接続する電話機によっては、呼び出し音が変化しないことがあります。

【VoIP外線呼出音】：IP電話からかかってきた電話の着信音パターンを選択します。　(出荷時の設定：呼出音1)

※本製品に接続する電話機によっては、呼び出し音が変化しないことがあります。

※本製品を簡易中継サーバ(☞1-5章)に設定を変更したときは、下記のように表示が変わり、VoIP外線呼出音の設定内容を、本製品に着信したときの呼出音として設定されます。
また、上記のように区別して設定できません。

呼出音	呼出音1

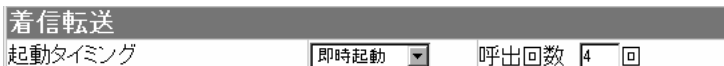
⑦エコーキャンセラーを使用 ………………………

IP電話で通信するときに起こるエコー(反響)を低減する機能を使用するかしないかの設定です。　(出荷時の設定：する)

1

1-2.「電話設定：TEL1 TEL2」画面(つづき)

■着信転送

着信転送を設定している場合に設定します。

電話設定
- 接続設定
- 電話設定:TEL1
- 電話設定:TEL2
- ISDN設定
- SIP設定
- 簡易サーバ設定
- VoIP詳細設定
- 着信設定
- VoIP電話帳

着信転送			
起動タイミング	即時起動	呼出回数	4 回

※本製品は、[TEL]ポートを2つ搭載しており、ポートごとの設定画面にわかれています。設定画面の内容は、各ポートごとで同じですので、本書では、[TEL1]側の設定画面を使用して説明しています。

起動タイミング

着信転送が設定された状態で電話がかかってきたとき、実際に転送先の電話へ発信を開始するタイミングを設定します。

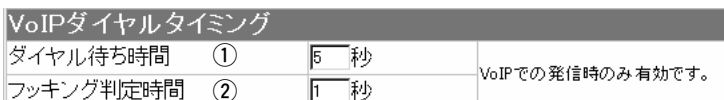
(出荷時の設定：即時起動)

◎即時起動　：着信すると同時に、転送先への発信を開始します。

◎呼出後起動：着信すると、[呼出回数]欄に設定した回数(出荷時の設定：4回)だけ呼び出し音が鳴ったあと、転送先への発信を開始します。
設定できる範囲は、「1～99(回)」です。

※着信転送の設定は、「VoIP詳細設定」画面の[着信転送設定]項目にあります。

■VoIPダイヤルタイミング

電話番号をダイヤルして、IP電話で発信を開始するまでの待ち時間について設定します。

電話設定
- 接続設定
- 電話設定:TEL1
- 電話設定:TEL2
- ISDN設定
- SIP設定
- 簡易サーバ設定
- VoIP詳細設定
- 着信設定
- VoIP電話帳

VoIPダイヤルタイミング			
ダイヤル待ち時間	①	5 秒	VoIPでの発信時のみ有効です。
フッキング判定時間	②	1 秒	

※本製品は、[TEL]ポートを2つ搭載しており、ポートごとの設定画面にわかれています。設定画面の内容は、各ポートごとで同じですので、本書では、[TEL1]側の設定画面を使用して説明しています。

①ダイヤル待ち時間 …………

本製品の[TEL1]ポート接続された電話機からIP電話をかけたとき、ダイヤル操作終了から発信開始までの時間を設定します。

(出荷時の設定：5)

設定できる範囲は、「1～99(秒)」です。

※ダイヤル操作中、ここで設定した時間を過ぎて操作がないと、発信が開始しますので、ご注意ください。

②フッキング判定時間 ………

本製品の[TEL1]ポート接続された電話機のフックボタンを押して(受話器を置いて)から、実際に通話回線が切断(オンフック)されるまでの時間を設定します。　(出荷時の設定：1)

ここで設定した時間よりフックボタンを押し続ける時間が短い場合は、フッキングと認識します。

設定できる範囲は、「1～9(秒)」です。

1-2.「電話設定：TEL1 TEL2」画面(つづき)

■トーン設定

IP電話使用時に受話器から聞こえるトーンについて設定します。

電話設定
- 接続設定
- 電話設定：TEL1
- 電話設定：TEL2
- ISDN設定
- SIP設定
- 簡易サーバ設定
- VoIP詳細設定
- 着信設定
- VoIP電話帳

トーン設定		
ダイヤルトーン	①	トーン1
ウェイトトーン	②	有効
VoIP接続トーン	③	有効

※本製品は、[TEL]ポートを2つ搭載しており、ポートごとの設定画面にわかれています。設定画面の内容は、各ポートごとで同じですので、本書では、[TEL1]側の設定画面を使用して説明しています。

①ダイヤルトーン ……………　IP電話を使って電話をかけ、受話器をあげた時に聞こえるダイヤルトーンの種類を設定します。　(出荷時の設定：トーン1)
トーン1：「ツーツツ」
トーン2：「ツー」(一般加入電話回線発信時に聞こえる音と同じ)

②ウェイトトーン ……………　IP電話を使って電話をかけ、相手先とつながるまでの間に受話器より聞こえるウェイトトーンを有効にするかしないかを設定します。　(出荷時の設定：有効)

③VoIP接続トーン ……………　IP電話で電話をかけ、相手先とつながる時に受話器より聞こえる接続音を有効にするかしないかを設定します。
(出荷時の設定：有効)
※本製品を簡易中継サーバ(☞1-5章)に設定するときは、[トーン設定]項目に表示されません。

1

1-3.「ISDN設定」画面

■契約者回線電話番号設定

ISDN回線から着信において、指定した内線番号の電話に直接着信させるときの設定です。

※簡易中継サーバ機能(☞1-5章)を「する」に設定するまで使用できません。

※i·ナンバーとINSダイヤルインのどちらかのサービスをご契約の場合に使用できます。

電話設定
- 接続設定
- 電話設定:TEL1
- 電話設定:TEL2
- ISDN設定
- SIP設定
- 簡易サーバ設定
- VoIP詳細設定
- 着信設定
- VoIP電話帳

ISDN設定

INSダイヤルインサービスを利用するための設定を行います。

本機能は簡易中継サーバ機能が有効な場合のみご利用になれます。

登録　取消

契約者回線番号設定	
電話番号 ①	
i・ナンバーポート番号 ②	◉使用しない　○1
発信者番号を通知 ③	○しない　◉する
着信内線番号 ④	

〈登録〉ボタン ……………………　「ISDN設定」画面で変更したすべての設定内容が有効になります。

〈取消〉ボタン ……………………　「ISDN設定」画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。

なお〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

①電話番号 ………………………　ISDN回線でご契約の電話番号を、市外局番から入力します。

(入力例：06-1111-1111)

※ご契約のi·ナンバーサービスをご利用の場合は、[ポート番号1]で通知された電話番号を設定します。

※i·ナンバーサービスでは、下記の例ように契約者回線番号を含めて、最大3個まで電話番号を取得できます。

[ポート番号1] 06-1111-1111(契約者回線番号)

[ポート番号2] 06-1111-2222

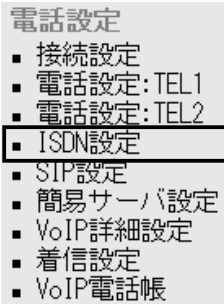
[ポート番号3] 06-1111-3333

※i·ナンバーサービスとは、NTTとの契約により代表電話番号とは別に、各端末機器に個別の電話番号(i·ナンバー)を割り当て、端末ごとに鳴り分け・着信させるサービスです。

②i·ナンバーポート番号 ……　i·ナンバーサービスから取得した[ポート番号1]の電話番号を[電話番号](①)欄に入力したとき、「1」に設定します。

(出荷時の設定：使用しない)

1-3.「ISDN設定」画面

■契約者回線電話番号設定(つづき)

電話設定
- 接続設定
- 電話設定:TEL1
- 電話設定:TEL2
- ISDN設定
- SIP設定
- 簡易サーバ設定
- VoIP詳細設定
- 着信設定
- VoIP電話帳

ISDN設定

INSダイヤルインサービスを利用するための設定を行います。
本機能は簡易中継サーバ機能が有効な場合のみご利用になれます。

登録　取消

契約者回線番号設定		
電話番号	①	
i・ナンバーポート番号	②	⊙使用しない　○1
発信者番号を通知	③	○しない　⊙する
着信内線番号	④	

③発信者番号を通知 ………… 契約者回線番号を使用して電話をかけたときに、[電話番号](①)欄(ISDN回線でご契約の電話番号)に設定した電話番号を、相手側に通知するかしないかを選択します。　(出荷時の設定：する)

④着信内線番号 ……………… [電話番号](①)欄(ISDN回線でご契約の電話番号)に設定した電話番号に電話がかかってきたとき、着信させる電話機の内線電話番号を入力します。
※着信内線番号を設定しない(空白の)ときは、「簡易サーバ設定」画面にある[簡易中継サーバ設定]項目の[デフォルト着信内線番号]欄に設定した内線電話番号の電話機に着信します。

1

1-3.「ISDN設定」画面(つづき)

■INSダイヤルイン設定

電話設定
- 接続設定
- 電話設定:TEL1
- 電話設定:TEL2
- ISDN設定
- SIP設定
- 簡易サーバ設定
- VoIP詳細設定
- 着信設定
- VoIP電話帳

INSダイヤルイン、またはi·ナンバーでご契約の電話番号を追加登録するときの設定です。

※簡易中継サーバ機能(☞1-5章)を「する」に設定するまで使用できません。

INSダイヤルイン設定	
番号	[ ] 追加
ダイヤルイン番号	[ ]
i・ナンバーポート番号	⦿使用しない ○2 ○3
発信者番号を通知	○しない ⦿する
着信内線番号	[ ]

①**番号** ……………………………

ご契約の電話番号をこの項目に登録する番号を設定します。
最大20件まで登録できますので、「1～20」の範囲で入力してください。
※登録した内容は、[現在の登録]項目(☞P21)に表示されます。
※番号を指定しない場合は、登録に使用されていない番号の中で、小さいものから順に、自動的に指定します。
※この番号は、「簡易サーバ設定」画面にある[TELポート内線設定]項目(☞P39)、または[子機内線設定]項目の[発信設定]欄(☞P41)で、発信先の指定に使用します。

〈追加〉ボタン

各欄(①～⑤)で設定した内容を[現在の登録]項目に登録するボタンです。

②**ダイヤルイン番号** …………

ご契約のダイヤルイン番号、またはi·ナンバーサービスで取得の電話番号を、市外局番から入力します。

③**i·ナンバーポート番号** ……

i·ナンバーサービスから指定の[ポート番号2]または[ポート番号3]の電話番号を[電話番号](①)欄に入力したとき、その電話番号に指定されているポート番号を設定します。

(出荷時の設定：使用しない)

④**発信者番号を通知** …………

ISDN回線から発信したときに、[ダイヤルイン番号](②)欄に設定した電話番号を、相手側に通知するかしないかを選択します。(出荷時の設定：する)

⑤**着信内線番号** ………………

[ダイヤルイン番号](②)欄に設定した電話番号に電話がかかってきたとき、着信させる電話機の内線電話番号を入力します。
※着信内線番号を設定しない(空白の)ときは、「簡易サーバ設定」画面にある[簡易中継サーバ設定]項目の[デフォルト着信内線番号]欄に設定した内線電話番号の電話機に着信します。

1-3.「ISDN設定」画面(つづき)

■現在の登録

電話設定
- 接続設定
- 電話設定:TEL1
- 電話設定:TEL2
- ISDN設定
- SIP設定
- 簡易サーバ設定
- VoIP詳細設定
- 着信設定
- VoIP電話帳

[INSダイヤルイン設定]項目から登録した内容を表示します。
追加した内容を最大20件まで、下記のように表示します。

現在の登録

①	②	番号	ダイヤルイン番号	i・ナンバーポート番号	発信者番号	着信内線番号
編集	削除	1	06-1111-2222	2	通知する	1234
編集	削除	2	06-1111-3333	3	通知する	1235

①〈編集〉ボタン ………………… ボタンの右に表示された内容を修正するときクリックします。
クリックすると、[INSダイヤルイン設定]項目(☞P20)にその内容を表示します。

②〈削除〉ボタン ………………… ボタンの右に表示された内容を削除するときクリックします。

1-4.「SIP設定」画面

■Peer to Peer設定

電話設定
- 接続設定
- 電話設定:TEL1
- 電話設定:TEL2
- ISDN設定
- SIP設定
- 簡易サーバ設定
- VoIP詳細設定
- 着信設定
- VoIP電話帳

相手の[SIP URI](相手先のIPアドレス)を登録して、1対1でIP電話するとき、自分のSIPアドレスを設定します。
簡易中継サーバ機能を使用するかしないかの設定(☞1-5章)で、下記のように画面が異なります。

〈簡易中継サーバ機能を使用しない〉(出荷時の設定)

〈登録〉ボタン ……………………　「SIP設定」画面で変更したすべての設定内容が有効になります。

〈取消〉ボタン ……………………　「SIP設定」画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

〈簡易中継サーバ機能を使用する〉

Peer to Peer設定				
登録の追加				
番号	①	[　] 追加		
SIP URI	②	sip:		
着信内線番号	③	[　]		
現在の登録	④			
⑤	⑥	番号	SIP URI	着信内線番号
編集	削除	1	sip:telephone@icom.co.jp	5200

①番号 ……………………………　自分の[SIP URI]を登録する番号を設定します。
最大20件まで登録できますので、「1～20」の範囲で入力してください。
※番号を指定しない場合は、登録に使用されていない番号の中で、小さいものから順に、自動的に指定します。
※この番号は、「簡易サーバ設定」画面にある[TELポート内線設定]項目(☞P39)、または[子機内線設定]項目の[発信設定]欄(☞P41)で、発信先の指定に使用します。

〈追加〉ボタン
[登録の追加](①～③)欄で設定した内容を[現在の登録](④)欄に表示します。

②SIP URI ………………………　自分のSIP URIを、「sip：[SIPユーザー名]@[本製品のIPアドレス]」、または「sip：[SIPユーザー名]@[ホスト名.ドメイン名]」の書式で入力します。　(出荷時の設定：sip:)
※「sip:」も含めて半角127文字まで設定できます。
※「sip:」は、必ず[SIP URI]として、先頭に付けてください。

(☞次ページにつづく)

1-4.「SIP設定」画面

■Peer to Peer設定

電話設定
- 接続設定
- 電話設定:TEL1
- 電話設定:TEL2
- ISDN設定
- SIP設定
- 簡易サーバ設定
- VoIP詳細設定
- 着信設定
- VoIP電話帳

〈簡易中継サーバ機能を使用する〉(つづき)

②SIP URI(つづき)……………

※[SIPユーザー名]の部分を数字だけに設定する場合は、必ず英字1文字をその数字の先頭(例：a2525)に入力してください。

※「@」以前の部分には、任意の英数字を入力します。

※「@」以後の部分には、本製品の[WAN側IPアドレス(本製品を固定IPアドレスで使用時)]、またはダイナミックDNSサービスに登録して取得したホスト名(例：telephone)と指定されたドメイン名(例：icom.co.jp)を半角英数字で入力します。
また、本製品のLAN側と通信する場合には、[本製品のLAN側IPアドレス]を入力します。

③着信内線番号 ………………

登録した相手の[SIP URI]から電話がかかってきたとき、どの内線番号の電話に着信させるかを登録します。
(ダイヤルインサービス)

※着信内線番号には、「簡易サーバ設定」画面の[TELポート内線設定]項目(☞P39)および[子機内線設定]項目(☞P40)で設定した内線番号とグループ番号、[代表着信設定]項目(☞P48)で設定した代表着信内線番号のどれかを設定できます。

④現在の登録 …………………

[登録の追加](①〜③)欄から追加した内容を表示します。
追加した内容を最大20件まで表示します。
ここで表示する[SIP URI]と一致したときは、指定した着信内線番号に着信します。

※[SIP URI]と一致しないときは、「簡易中継サーバ設定」画面の[簡易中継サーバ設定]項目にある[デフォルト着信内線番号]欄(☞P38)に設定した内線番号に着信します。

⑤〈編集〉ボタン ………………

ボタンの右に表示された内容を修正するときクリックします。
クリックすると、[登録の追加](①〜③)欄にその内容を表示します。

⑥〈削除〉ボタン ………………

ボタンの右に表示された内容を削除するときクリックします。

1-4.「SIP設定」画面

■**直接発信設定**(Peer to Peerを設定時)

電話設定
- 接続設定
- 電話設定:TEL1
- 電話設定:TEL2
- ISDN設定
- SIP設定
- 簡易サーバ設定
- VoIP詳細設定
- 着信設定
- VoIP電話帳

直接発信でIP電話するとき、相手先のIPアドレスを登録します。

※「VoIP電話帳」画面の[現在の登録]欄で、[発信先の選択]欄が「直接発信プレフィクス」に設定されている相手に電話したとき、この設定が使用されます。

直接発信設定
自動切替を使用 ① ◉しない ○する
ホストアドレス設定 ②

01	02	03	04	05
06	07	08	09	10
11	12	13	14	15
16	17	18	19	20
21	22	23	24	25

※この項目は、「接続設定」画面の[VoIP接続設定]項目(☞P5)で、「Peer to Peer」(SIPプロトコルによる1対1の通信)を設定したとき表示します。
※直接発信の設定例については、本書1-9章をご覧ください。

①**自動切替を使用** ……………

「VoIP電話帳」に登録されていない番号へダイヤルしたとき、直接発信へ自動切替するかしないかの設定です。

(出荷時の設定：しない)

◎しない　：自動切替をしません。
直接発信を利用するためには、「直接発信プレフィクス」で設定した番号を先頭につけてダイヤルする必要があります。

◎する　：自動切替をします。
ダイヤルした番号が電話帳に見つからないとき、「直接発信プレフィクス」番号を先頭に補完して直接発信をします。
※「直接発信プレフィクス」番号を先頭につけてダイヤルした場合でも従来どおりの直接発信になります。

②**ホストアドレス設定** ………

ここに設定した相手のIPアドレスは、下記の場合に使用されます。
◎「VoIP電話帳」画面の[登録の追加]項目にある[発信先の選択]欄(☞P71)で、「直接発信プレフィクス」に指定された電話番号をダイヤルしたとき
◎「自動切替を使用」項目を、「する」に設定し、直接発信するとき

発信したい相手側のIPアドレスを入力します。
登録したIPアドレスの相手が通話中のときや接続できないときは、それ以外に登録しているIPアドレスの相手を順番に呼び出します。
[01]の相手から番号順に発信を開始し、登録内容を一巡しても接続できない場合は、発信を中止します。

1-4.「SIP設定」画面(つづき)

■直接発信設定(Peer to Peer以外を設定時)

電話設定
- 接続設定
- 電話設定:TEL1
- 電話設定:TEL2
- ISDN設定
- SIP設定
- 簡易サーバ設定
- VoIP詳細設定
- 着信設定
- VoIP電話帳

直接発信でIP電話するとき、相手先のIPアドレスを登録します。

直接発信設定

ホストアドレス設定

01	02	03	04	05
06	07	08	09	10
11	12	13	14	15
16	17	18	19	20
21	22	23	24	25

※この項目は、「接続設定」画面の[VoIP接続設定]項目(☞P5)で、「Peer to Peer」以外を設定したとき表示します。

※直接発信の設定例については、本書1-9章をご覧ください。

ホストアドレス設定　…………

ここに設定した相手のIPアドレスは、「VoIP電話帳」画面)の[登録の追加]項目にある[発信先の選択]欄(☞P71)で、「直接発信プレフィクス」に指定された電話番号をダイヤルしたとき、使用されます。

発信したい相手側のIPアドレスを入力します。

登録したIPアドレスの相手が通話中のときや接続できないときは、それ以外に登録しているIPアドレスの相手を順番に呼び出します。

[01]の相手から番号順に発信を開始し、登録内容を一巡しても接続できない場合は、発信を中止します。

1-4.「SIP設定」画面(つづき)

■**SIPサーバ設定**(フュージョン・コミュニケーションズを設定時)

SIPサーバにアクセスするための設定です。
「フュージョン･コミュニケーションズ」から指定された項目を設定します。
簡易中継サーバ機能を使用するかしないかの設定(☞1-5章)で、画面が異なります。

電話設定
- 接続設定
- 電話設定：TEL1
- 電話設定：TEL2
- ISDN設定
- SIP設定
- 簡易サーバ設定
- VoIP詳細設定
- 着信設定
- VoIP電話帳

〈簡易中継サーバ機能を使用しない〉(出荷時の設定)

SIPサーバ設定		
IP加入電話番号表示	①	
SIPプロキシーサーバ	②	
SIPドメイン	③	
アカウントID	④	
IP加入電話パスワード	⑤	
接続状況	⑥	接続中… 更新

※この項目は、「接続設定」画面の[VoIP接続設定]項目(☞P5)で、「フュージョン･コミュニケーションズ」を設定したとき表示します。
※簡易中継サーバ機能を使用するときの説明は、次ページをご覧ください。

①**IP加入電話番号表示** ……… フュージョン・コミュニケーションズから付与された自分の電話番号を表示します。
※電話番号表示は、[SIPサーバ設定]項目の[アカウントID]を登録することで表示されます。

②**SIPプロキシーサーバ** …… フュージョン・コミュニケーションズから指定されたSIPプロキシーサーバのIPアドレス、またはホスト名を入力します。
入力は、半角英数字で63文字までです。

③**SIPドメイン** ……………… フュージョン・コミュニケーションズから指定されたSIPサーバのドメイン名を入力します。
入力は、半角英数字で63文字までです。

④**アカウントID** ……………… SIPサーバへの接続認証に使用するアカウントIDです。
フュージョン・コミュニケーションズから指定されたものを入力してください。
入力は、半角英数字で63文字までです。

⑤**IP加入電話パスワード** …… SIPサーバへの接続認証に使用するパスワードです。
フュージョン・コミュニケーションズから指定されたものを入力してください。
入力は、半角英数字で63文字までです。

⑥**接続状況** …………………… SIPサーバとの接続状態を、「接続中」、「接続成功」、「接続失敗」で表示します。
SIPサーバ未設定時は、何も表示されません。
設定内容を登録後、〈更新〉ボタンをクリックしても「接続成功」と表示されない場合は、設定内容を確認してください。

1-4.「SIP設定」画面

■SIPサーバ設定(フュージョン・コミュニケーションズを設定時)つづき

〈簡易中継サーバ機能を使用する〉

電話設定
- 接続設定
- 電話設定：TEL1
- 電話設定：TEL2
- ISDN設定
- SIP設定
- 簡易サーバ設定
- VoIP詳細設定
- 着信設定
- VoIP電話帳

SIPサーバ設定

登録の追加

項目		
番号	①	[追加]
IP加入電話番号表示	②	
SIPプロキシーサーバ	③	
SIPドメイン	④	
アカウントID	⑤	
IP加入電話パスワード	⑥	
着信内線番号	⑦	
サーバ発信プレフィクス	⑧	プレフィクス：　置換ダイヤル：

現在の登録 ⑨[更新] ⑩[再接続] ⑪

⑫	⑬	番号	IP加入電話番号	SIPドメイン	着信内線番号	接続状況
編集	削除	1	05098765432	fusion.sip.0038.net	1010	接続成功

※この項目は、「接続設定」画面の[VoIP接続設定]項目(☞P5)で、「フュージョン･コミュニケーションズ」を設定したとき表示します。
※簡易中継サーバ機能を使用しないときの説明は、前ページをご覧ください。

①番号 ……………………………

フュージョン・コミュニケーションズから付与された、各電話番号に対するSIPサーバの設定を登録する番号を設定します。
最大20件まで登録できますので、「1～20」の範囲で入力してください。
※番号を指定しない場合は、登録に使用されていない番号の中で、小さいものから順に、自動的に指定します。
※この番号は、「簡易サーバ設定」画面にある[TELポート内線設定]項目(☞P39)、または[子機内線設定]項目の[発信設定]欄(☞P41)で、発信先の指定に使用します。

〈追加〉ボタン

[登録の追加](①～⑧)欄で設定した内容を[現在の登録]項目に登録するボタンです。

②IP加入電話番号表示 ………

フュージョン・コミュニケーションズから付与された自分の電話番号を表示します。
※電話番号表示は、[SIPサーバ設定]項目の[アカウントID]を登録することで表示されます。

③SIPプロキシーサーバ ……

フュージョン・コミュニケーションズから指定されたSIPプロキシーサーバのIPアドレス、またはホスト名を入力します。
入力は、半角英数字で63文字までです。

④SIPドメイン ………………

フュージョン・コミュニケーションズから指定されたSIPサーバのドメイン名を入力します。
入力は、半角英数字で63文字までです。

1-4.「SIP設定」画面

■SIPサーバ設定(フュージョン・コミュニケーションズを設定時)

〈簡易中継サーバ機能を使用する〉つづき

電話設定
- 接続設定
- 電話設定:TEL1
- 電話設定:TEL2
- ISDN設定
- SIP設定
- 簡易サーバ設定
- VoIP詳細設定
- 着信設定
- VoIP電話帳

SIPサーバ設定

登録の追加

番号	①	[ ] 追加
IP加入電話番号表示	②	
SIPプロキシーサーバ	③	[ ]
SIPドメイン	④	[ ]
アカウントID	⑤	[ ]
IP加入電話パスワード	⑥	[ ]
着信内線番号	⑦	[ ]
サーバ発信プレフィクス	⑧	プレフィクス:[ ] 置換ダイヤル:[ ]

現在の登録 ⑨ 更新 ⑩ 再接続 ⑪

⑫	⑬	番号	IP加入電話番号	SIPドメイン	着信内線番号	接続状況
編集	削除	1	05098765432	fusion.sip.0038.net	1010	接続成功

⑤アカウントID ………………

SIPサーバへの接続認証に使用するアカウントIDです。
フュージョン・コミュニケーションズから指定されたものを入力してください。
入力は、半角英数字で63文字までです。

⑥IP加入電話パスワード ……

SIPサーバへの接続認証に使用するパスワードです。
フュージョン・コミュニケーションズから指定されたものを入力してください。
入力は、半角英数字で63文字までです。

⑦着信内線番号 ………………

登録した相手から電話がかかってきたとき、どの内線番号の電話に着信させるかを登録します。(ダイヤルインサービス)
※着信内線番号には、「簡易サーバ設定」画面の[TELポート内線設定]項目(☞P39)および[子機内線設定]項目(☞P40)で設定した内線番号とグループ番号、[代表着信設定]項目(☞P48)で設定した代表着信内線番号のどれかを設定できます。

⑧サーバ発信プレフィクス …

[子機内線設定]項目(☞P40)に登録した電話機、または本製品のTELポートに接続する電話機から発信する場合に、「簡易サーバ設定」画面の[子機内線設定]にある[発信設定]欄(☞P41)で割り当てた発信先SIPサーバと異なるSIPサーバを使用して発信するための設定です。
プレフィクスを付けて発信することで、選択したSIPサーバを使った発信に切り替えできます。
プレフィクスと置換ダイヤルを、4桁以内の数字で入力します。
電話機から[プレフィクス]の番号(例:0)+[電話番号]でダイヤルしたとき、プレフィクス(例:0)を取り除いた[電話番号]で外線に発信します。
※置換ダイヤルが設定されている場合は、プレフィクスを取り除いた後の電話番号に先頭に置換ダイヤルを付けて発信します。

(☞次ページへつづく)

1-4.「SIP設定」画面

■SIPサーバ設定(フュージョン・コミュニケーションズを設定時)

電話設定
- 接続設定
- 電話設定:TEL1
- 電話設定:TEL2
- ISDN設定
- SIP設定
- 簡易サーバ設定
- VoIP詳細設定
- 着信設定
- VoIP電話帳

〈簡易中継サーバ機能を使用する〉つづき

SIPサーバ設定

登録の追加

項目		
番号	①	[追加]
IP加入電話番号表示	②	
SIPプロキシーサーバ	③	
SIPドメイン	④	
アカウントID	⑤	
IP加入電話パスワード	⑥	
着信内線番号	⑦	
サーバ発信プレフィクス	⑧	プレフィクス：　置換ダイヤル：

現在の登録⑨ [更新]⑩ [再接続] ⑪

⑫	⑬	番号	IP加入電話番号	SIPドメイン	着信内線番号	接続状況
[編集]	[削除]	1	05098765432	fusion.sip.0038.net	1010	接続成功

⑧サーバ発信プレフィクス
(つづき) ……………………

「0」が先頭についた発信をフュージョン・コミュニケーションズに指定する場合は、[置換ダイヤル](例：0)と併せて設定すると、プレフィクスで付けた番号(例：5098765432)を取り除いて、[置換ダイヤル]の番号(例：0)+[電話番号](例：05098765432)で発信します。

※「184」を[置換ダイヤル]に設定した場合、電話番号を通知しないようにすることもできます。

⑨現在の登録 ……………………

[登録の追加]欄で追加した内容を表示します。
追加した内容を最大20件まで表示します。
ここで登録する[IP加入電話番号表示](②)と一致したときは、ここで指定した着信内線番号に着信します。
[IP加入電話番号表示](②)と一致しないときは、「簡易中継サーバ設定」画面の[簡易中継サーバ設定]項目にある[デフォルト着信内線番号]欄(☞P38)に設定した内線番号に着信します。

⑩〈更新〉ボタン ………………

現在の登録に表示された内容を更新します。
更新しても、[接続状況]欄に「接続成功」と表示されない場合は、登録した設定内容を確認してください。

⑪〈再接続〉ボタン ……………

登録されているSIPサーバに再接続します。

⑫〈編集〉ボタン ………………

ボタンの右に表示された内容を修正するときクリックします。
クリックすると、[登録の追加](①〜⑧)欄にその内容を表示します。
※[SIPプロキシーサーバ](③)、[アカウントID](⑤)、[IP加入電話パスワード](⑥)、[サーバ発信プレフィクス](⑧)欄の内容は、登録されていますが、[現在の登録]欄に表示されません。

⑬〈削除〉ボタン ………………

ボタンの右に表示された内容を削除するときクリックします。

1-4.「SIP設定」画面(つづき)

■**SIPサーバ設定**(サーバ接続を設定時)

簡易中継サーバにアクセスするための設定です。
ネットワーク管理者から指定された項目を設定します。
簡易中継サーバ機能を使用するかしないかの設定(☞1-5章)で、画面が異なります。

〈簡易中継サーバ機能を使用しない〉(出荷時の設定)

電話設定
- 接続設定
- 電話設定:TEL1
- 電話設定:TEL2
- ISDN設定
- SIP設定
- 簡易サーバ設定
- VoIP詳細設定
- 着信設定
- VoIP電話帳

SIPサーバ設定		
IP電話番号	①	
SIPサーバアドレス 1	②	
SIPサーバアドレス 2	③	
SIPサービスドメイン	④	
ユーザID	⑤	
パスワード	⑥	
登録時間	⑦	3600 秒
再登録周期	⑧	通常時 50 % 異常時 50 %
接続状況	⑨	接続中… 更新

※この項目は、「接続設定」画面の[VoIP接続設定]項目(☞P5)で、「サーバ接続」を設定したとき表示します。
※簡易中継サーバ機能を使用するときの説明は、32ページをご覧ください。

①**IP電話番号** ……………………
簡易中継サーバの子機として使用するIP電話番号を設定します。
入力する電話番号は、7桁(半角数字)まで任意に設定できます。
※ここで設定した番号は、簡易中継サーバ(親機)側の「簡易サーバ設定」画面にある[子機内線設定]項目の[現在の登録]項目(☞P42)に登録されているときだけ、IP電話を使用できます。

②**SIPサーバアドレス1** ………
簡易中継サーバのIPアドレス、またはホスト名を入力します。
入力は、半角英数字で63文字までです。

③**SIPサーバアドレス2** ………
[SIPサーバアドレス1](②)に接続できないとき、次に接続する簡易中継サーバのIPアドレス、またはホスト名を入力します。
※応答がないときは、[SIPサーバアドレス1](②)と[SIPサーバアドレス2]への接続を、接続されるまで繰り返します。

④**SIPサービスドメイン** ……
簡易中継サーバ側に設定されている[内線ドメイン]を入力します。
入力は、半角英数字で63文字までです。
※[内線ドメイン]欄は、「簡易サーバ設定」画面の[簡易中継サーバ設定]項目(☞P1-5章)にあります。

⑤**ユーザID** ……………………
[IP電話番号]欄(①)で設定した同じ番号を入力します。
入力は、半角英数字で63文字までです。

⑥**パスワード** …………………
簡易中継サーバへの接続認証に使用するパスワードです。
簡易中継サーバ側の「簡易サーバ設定」画面にある[子機内線設定]項目(☞P40)で設定した[パスワード]を入力します。
入力は、半角英数字で63文字までです。

1-4.「SIP設定」画面

■SIPサーバ設定(サーバ接続を設定時)

〈簡易中継サーバ機能を使用しない〉つづき

電話設定
- 接続設定
- 電話設定:TEL1
- 電話設定:TEL2
- ISDN設定
- SIP設定
- 簡易サーバ設定
- VoIP詳細設定
- 着信設定
- VoIP電話帳

SIPサーバ設定		
IP電話番号	①	
SIPサーバアドレス 1	②	
SIPサーバアドレス 2	③	
SIPサービスドメイン	④	
ユーザID	⑤	
パスワード	⑥	
登録時間	⑦	3600 秒
再登録周期	⑧	通常時 50 %　異常時 50 %
接続状況	⑨	接続中…　更新

⑦登録時間 ……………………… 本製品の接続情報を簡易中継サーバ側で保持する時間を設定します。(出荷時の設定：3600)

⑧再登録周期 …………………… 本製品の接続情報を簡易中継サーバに再登録する周期の設定です。(出荷時の設定：通常時：50、異常時：50)
周期は、通常(接続成功)時と異常(接続失敗)時について、設定した登録時間(⑦)に対する比で指定します。
設定できる範囲は、「10～90(%)」です。

⑨接続状況 ……………………… 簡易中継サーバとの接続状態を、「接続中」、「接続成功」、「接続失敗」で表示します。
SIPサーバ未設定時は、何も表示されません。
設定内容を登録後、〈更新〉ボタンをクリックしても「接続成功」と表示されない場合は、設定内容を確認してください。

1-4.「SIP設定」画面

■SIPサーバ設定(サーバ接続を設定時)つづき

〈簡易中継サーバ機能を使用する〉

電話設定
- 接続設定
- 電話設定:TEL1
- 電話設定:TEL2
- ISDN設定
- SIP設定
- 簡易サーバ設定
- VoIP詳細設定
- 着信設定
- VoIP電話帳

SIPサーバ設定

登録の追加

項目		設定
番号	①	[ ] 追加
IP電話番号	②	
SIPサーバアドレス 1	③	
SIPサーバアドレス 2	④	
SIPサービスドメイン	⑤	
ユーザID	⑥	
パスワード	⑦	
登録時間	⑧	3600 秒
再登録周期	⑨	通常時 50 % 異常時 50 %
着信内線番号	⑩	
サーバ発信プレフィクス	⑪	プレフィクス: 置換ダイヤル:

現在の登録⑫ 更新 ⑬ 再接続 ⑭

⑮	⑯	番号	IP電話番号	SIPサービスドメイン	着信内線番号	接続状況
編集	削除	1	100	5200domain	5200	接続中…

※この項目は、「接続設定」画面の[VoIP接続設定]項目(☞P5)で、「サーバ接続」を設定したとき表示します。

※簡易中継サーバ機能を使用しないときの説明は、30ページをご覧ください。

①番号 ……………………………

各電話番号に対するSIPサーバの設定を登録する番号を設定します。

最大20件まで登録できますので、「1～20」の範囲で入力してください。

※番号を指定しない場合は、登録に使用されていない番号の中で、小さいものから順に、自動的に指定します。

※この番号は、「簡易サーバ設定」画面にある[TELポート内線設定]項目(☞P39)、または[子機内線設定]項目の[発信設定]欄(☞P41)で、発信先の指定に使用します。

〈追加〉ボタン

[登録の追加](①～⑪)欄で設定した内容を[現在の登録]項目に登録するボタンです。

②IP電話番号 …………………

簡易中継サーバの子機として使用するIP電話番号を設定します。

入力する電話番号は、7桁(半角数字)まで任意に設定できます。

※ここで設定した番号は、簡易中継サーバ(親機)側の「簡易サーバ設定」画面にある[子機内線設定]項目の[現在の登録]項目(☞P42)に登録されているときだけ、IP電話を使用できます。

③SIPサーバアドレス1 ………

簡易中継サーバのIPアドレス、またはホスト名を入力します。

入力は、半角英数字で63文字までです。

1-4.「SIP設定」画面

■SIPサーバ設定(サーバ接続を設定時)

〈簡易中継サーバ機能を使用する〉つづき

電話設定
- 接続設定
- 電話設定:TEL1
- 電話設定:TEL2
- ISDN設定
- SIP設定
- 簡易サーバ設定
- VoIP詳細設定
- 着信設定
- VoIP電話帳

SIPサーバ設定		
登録の追加		
番号	①	追加
IP電話番号	②	
SIPサーバアドレス 1	③	
SIPサーバアドレス 2	④	
SIPサービスドメイン	⑤	
ユーザID	⑥	
パスワード	⑦	
登録時間	⑧	3600 秒
再登録周期	⑨	通常時 50 %　異常時 50 %
着信内線番号	⑩	
サーバ発信プレフィクス	⑪	プレフィクス：　置換ダイヤル：

現在の登録⑫ 更新 ⑬ 再接続 ⑭

⑮	⑯	番号	IP電話番号	SIPサービスドメイン	着信内線番号	接続状況
編集	削除	1	100	5200domain	5200	接続中…

④SIPサーバアドレス2………　[SIPサーバアドレス1](③)に接続できないとき、次に接続する簡易中継サーバのIPアドレス、またはホスト名を入力します。
※応答がないときは、[SIPサーバアドレス1](③)と[SIPサーバアドレス2]への接続を、接続されるまで繰り返します。

⑤SIPサービスドメイン……　簡易中継サーバ側に設定されている[内線ドメイン]を入力します。
入力は、半角英数字で63文字までです。
※[内線ドメイン]欄は、「簡易サーバ設定」画面の[簡易中継サーバ設定]項目(☞P1-5章)にあります。

⑥ユーザID……………………　[IP電話番号]欄(①)で設定した同じ番号を入力します。
入力は、半角英数字で63文字までです。

⑦パスワード…………………　簡易中継サーバへの接続認証に使用するパスワードです。
簡易中継サーバ側の「簡易サーバ設定」画面にある[子機内線設定]項目で設定した[パスワード](☞P40)を入力します。
入力は、半角英数字で63文字までです。

⑧登録時間……………………　本製品の接続情報を簡易中継サーバ側で保持する時間を設定します。
(出荷時の設定：3600)

⑨再登録周期…………………　本製品の接続情報を簡易中継サーバに再登録する周期の設定です。
(出荷時の設定：通常時：50、異常時：50)
周期は、通常(接続成功)時と異常(接続失敗)時について、設定した登録時間(⑧)に対する比で指定します。
設定できる範囲は、「10～90(%)」です。

1

1-4.「SIP設定」画面

■SIPサーバ設定(サーバ接続を設定時)

〈簡易中継サーバ機能を使用する〉つづき

電話設定
- 接続設定
- 電話設定:TEL1
- 電話設定:TEL2
- ISDN設定
- SIP設定
- 簡易サーバ設定
- VoIP詳細設定
- 着信設定
- VoIP電話帳

SIPサーバ設定		
登録の追加		
番号	①	[追加]
IP電話番号	②	
SIPサーバアドレス 1	③	
SIPサーバアドレス 2	④	
SIPサービスドメイン	⑤	
ユーザID	⑥	
パスワード	⑦	
登録時間	⑧	3600 秒
再登録周期	⑨	通常時 50 %　異常時 50 %
着信内線番号	⑩	
サーバ発信プレフィクス	⑪	プレフィクス：　置換ダイヤル：
現在の登録⑫ [更新] ⑬ [再接続] ⑭		

⑮	⑯	番号	IP電話番号	SIPサービスドメイン	着信内線番号	接続状況
編集	削除	1	100	5200domain	5200	接続中…

⑩着信内線番号 ………………

登録した相手から電話がかかってきたとき、どの内線番号の電話に着信させるかを登録します。(ダイヤルインサービス)

※着信内線番号には、「簡易サーバ設定」画面の[TELポート内線設定]項目(☞P39)および[子機内線設定]項目(☞P40)で設定した内線番号とグループ番号、[代表着信設定]項目(☞P48)で設定した代表着信内線番号のどれかを設定できます。

⑪サーバ発信プレフィクス …

[子機内線設定]項目の[現在の登録]項目(☞P42)に登録されている電話機、または本製品のTELポートに接続する電話機から発信する場合に、「簡易サーバ設定」画面の[子機内線設定]にある[発信設定]欄(☞P37)で割り当てた発信先SIPサーバと異なるSIPサーバを使用して発信するための設定です。

プレフィクスを付けて発信することで、選択したSIPサーバを使った発信に切り替えできます。

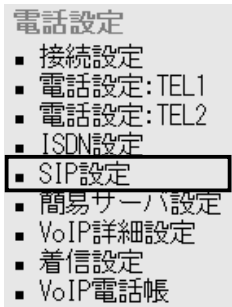
プレフィクスと置換ダイヤルを、4桁以内の数字で入力します。

電話機から[プレフィクス]の番号(例：0)+[電話番号]でダイヤルしたとき、プレフィクス(例：0)を取り除いた[電話番号]で外線に発信します。

※置換ダイヤルが設定されている場合は、プレフィクスを取り除いた後の電話番号に先頭に置換ダイヤルを付けて発信します。
「0」が先頭についた発信をサーバ接続に指定する場合は、[置換ダイヤル](例：0)と併せて設定すると、プレフィクスで付けた番号(例：5098765432)を取り除いて、[置換ダイヤル]の番号(例：0)+[電話番号](例：05098765432)で発信します。

※「184」を[置換ダイヤル]に設定した場合、電話番号を通知しないようにすることもできます。

1-4.「SIP設定」画面

■SIPサーバ設定(サーバ接続を設定時)

〈簡易中継サーバ機能を使用する〉つづき

電話設定
- 接続設定
- 電話設定：TEL1
- 電話設定：TEL2
- ISDN設定
- SIP設定
- 簡易サーバ設定
- VoIP詳細設定
- 着信設定
- VoIP電話帳

SIPサーバ設定

登録の追加

項目		設定
番号	①	[追加]
IP電話番号	②	
SIPサーバアドレス 1	③	
SIPサーバアドレス 2	④	
SIPサービスドメイン	⑤	
ユーザID	⑥	
パスワード	⑦	
登録時間	⑧	3600 秒
再登録周期	⑨	通常時 50 %　異常時 50 %
着信内線番号	⑩	
サーバ発信プレフィクス	⑪	プレフィクス：　置換ダイヤル：

現在の登録⑫[更新]⑬[再接続]⑭

⑮	⑯	番号	IP電話番号	SIPサービスドメイン	着信内線番号	接続状況
編集	削除	1	100	5200domain	5200	接続中…

⑫現在の登録 ……………………
[登録の追加]欄で追加した内容を表示します。
追加した内容を最大20件まで表示します。
ここで登録する[IP電話番号](②)と一致したときは、ここで指定した着信内線番号に着信します。
[IP電話番号](②)と一致しないときは、「簡易中継サーバ設定」画面の[簡易中継サーバ設定]項目にある[デフォルト着信内線番号]欄(☞P38)に設定した内線番号に着信します。

⑬〈更新〉ボタン ………………
現在の登録に表示された内容を更新します。
更新しても、[接続状況]欄に「接続成功」と表示されない場合は、登録した設定内容を確認してください。

⑭〈再接続〉ボタン ……………
登録されている簡易中継サーバに再接続します。

⑮〈編集〉ボタン ………………
ボタンの右に表示された内容を修正するときクリックします。
クリックすると、[登録の追加](①〜⑧)欄にその内容を表示します。
※[SIPサーバアドレス1](③)、[SIPサーバアドレス2](④)、[ユーザID](⑥)、[パスワード](⑦)、[登録時間](⑧)、[再登録周期](⑨)、[サーバ発信プレフィクス](⑪)欄の内容は、登録されていますが、[現在の登録]欄に表示されません。

⑯〈削除〉ボタン ………………
ボタンの右に表示された内容を削除するときクリックします。

1-4.「SIP設定」画面(つづき)

■**SIP設定**(サーバ接続を設定時)　**IP電話の番号通知についての設定です。**

電話設定
- 接続設定
- 電話設定:TEL1
- 電話設定:TEL2
- ISDN設定
- SIP設定
- 簡易サーバ設定
- VoIP詳細設定
- 着信設定
- VoIP電話帳

SIP設定
SIPに関する設定を行います。

登録　取消

SIP設定	
番号通知	○しない　◉する

※この項目は、「接続設定」画面の[VoIP接続設定]項目(☞P5)で、「サーバ接続」を設定したとき表示されます。

〈登録〉ボタン ……………………　[SIP設定]項目で変更したすべての設定内容が有効になります。

〈取消〉ボタン ……………………　[SIP設定]項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

番号通知 ………………………　IP電話使用時、IP電話番号を相手に通知するかしないかを設定します。　(出荷時の設定：する)
※[SIPサーバ設定]項目(☞P30、P32)で設定されたIP電話番号が通知の対象になります。
※相手先によっては、通知される場合があります。
※一般加入回線を使用して電話をかける場合、この設定は無効です。
※サーバ接続を設定している(簡易中継サーバの子機)とき、外線への番号通知は、本製品と接続された簡易中継サーバ(親機)側の番号通知設定にしたがいます。

1-5.「簡易サーバ設定」画面

■簡易中継サーバ設定

電話設定
- 接続設定
- 電話設定:TEL1
- 電話設定:TEL2
- ISDN設定
- SIP設定
- 簡易サーバ設定
- VoIP詳細設定
- 着信設定
- VoIP電話帳

本製品を簡易中継サーバとして使用するとき設定します。
本製品を簡易中継サーバに設定すると、本製品とIP電話で内線通話したり、子機から商用IP電話接続業者のSIPサーバや一般加入電話回線を使用したりして外線通話できます。

簡易中継サーバ設定
本機を簡易中継サーバとして動作させるための設定を行います。

登録　取消　登録して再起動　　簡易中継サーバ機能を使用する/しないは再起動後に有効になります。

簡易中継サーバ設定	
簡易中継サーバ機能を使用 ①	⊙しない　○する
内線ドメイン ②	
デフォルト着信内線番号 ③	

※簡易中継サーバの子機として使用する場合は、この画面の設定は不要です。

〈登録〉ボタン ……………………
[簡易中継サーバ機能を使用]欄以外の設定内容が有効になります。
※[簡易中継サーバ設定]項目の[簡易中継サーバ機能を使用]欄の変更内容は、画面上で確定されるだけですので、〈登録して再起動〉をクリックするまで有効になりません。

〈取消〉ボタン ……………………
「簡易サーバ設定」画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

〈登録して再起動〉ボタン ……
本製品を再起動して、「簡易サーバ設定」画面で変更したすべての設定内容が有効になります。

①簡易中継サーバ機能を使用
本製品を簡易中継サーバとして使用するとき設定します。
(出荷時の設定：しない)
簡易中継サーバとして使用すると、弊社製VoIP対応機器を本製品の子機として、最大18台まで接続できますので、同時に使用できるIP通話数を拡張できます。
※2005年1月現在、簡易中継サーバ(親機)として使用できるのは、AP-5100VoIP(本製品)、SR-5200VoIP2、SR-5200VoIPです。
※2005年1月現在、簡易中継サーバの子機として使用できるのは、AP-5100VoIP、SR-5200VoIP2、SR-5200VoIP、SR-5000VoIP、SE-50VoIP、VP-43、FOMA N900iLです。

②内線ドメイン ………………
簡易中継サーバとその子機間が共通で使用するSIPサービスドメイン名を任意に設定します。
※子機側は、「SIP設定」画面の[SIPサーバ設定]項目にある[SIPサービスドメイン]欄(☞P30、P33)に、ここで設定した値を入力します。

1

1-5.「簡易サーバ設定」画面

■簡易中継サーバ設定(つづき)

電話設定
- 接続設定
- 電話設定:TEL1
- 電話設定:TEL2
- ISDN設定
- SIP設定
- 簡易サーバ設定
- VoIP詳細設定
- 着信設定
- VoIP電話帳

簡易中継サーバ設定
本機を簡易中継サーバとして動作させるための設定を行います。

登録 取消 登録して再起動 簡易中継サーバ機能を使用する/しないは再起動後に有効になります。

簡易中継サーバ設定	
簡易中継サーバ機能を使用 ①	◉しない ○する
内線ドメイン ②	
デフォルト着信内線番号 ③	

③**デフォルト着信内線番号** …

「デフォルト着信」で使用される着信先電話番号を設定します。
※下記の4つのときの着信を、「デフォルト着信」と定義します。
◎アナログ公衆電話回線からの着信
◎ISDN回線からの着信で、着信内線番号の指定がない場合
◎SIPサーバ設定で、着信内線番号の指定がない場合
◎Peer to Peer設定で、着信内線番号の指定がない場合
※デフォルト着信内線番号として、[TELポート内線設定]項目(☞P39)および[子機内線設定]項目(☞P40)で設定した内線番号とグループ番号、[代表着信設定]項目(☞P48)で設定した代表着信内線番号のどれかを設定できます。
※Peer to Peer設定のいずれも該当しないときは、着信拒否になります。

■特番設定

IP電話を一斉内線呼び出しする番号を設定します。

電話設定
- 接続設定
- 電話設定:TEL1
- 電話設定:TEL2
- ISDN設定
- SIP設定
- 簡易サーバ設定
- VoIP詳細設定
- 着信設定
- VoIP電話帳

特番設定	
内線一斉発信番号 ①	
コールピックアップ(代理応答)②	

①**内線一斉発信番号** …………

簡易中継サーバ(親機)とその子機から、ほかのIP電話を一斉に呼び出すための番号を設定します。
入力は、半角数字で7桁までです。

②**コールピックアップ**
(代理応答) …………………

この欄で設定した番号をダイヤルすると、ほかの子機への呼び出しに応答できます。
入力は、半角数字で7桁までです。

1-5.「簡易サーバ設定」画面(つづき)

■TELポート内線設定

電話設定
- 接続設定
- 電話設定:TEL1
- 電話設定:TEL2
- ISDN設定
- SIP設定
- 簡易サーバ設定
- VoIP詳細設定
- 着信設定
- VoIP電話帳

内線で簡易中継サーバ(親機)に接続されたIP電話を呼び出すとき設定します。

TELポート内線設定

	①内線番号	②グループ番号	③発信設定(SIPサーバ)	④発信設定(Peer to Peer)	⑤発信設定(ISDN)
TEL1			1	1	
TEL2			1	1	

①**内線番号** ……………………… 本製品の[TEL1]/[TEL2]ポートに接続された電話機の内線着信番号を設定します。
入力は、半角数字で7桁までです。

②**グループ番号** ……………… 本製品の[TEL1]/[TEL2]ポートに接続された電話機の内線着信グループ番号を設定します。
入力は、半角数字で7桁までです。
※[内線番号](①)や、ほかの[グループ番号](②)と同じ番号を設定できます。
グループ番号および内線番号が同じIP電話が一斉に着信します。

③**発信設定(SIPサーバ)**……… 商用IP電話接続業者への接続先を、「SIP設定」画面にある[SIPサーバ設定]項目に登録している場合、[現在の登録]欄に表示された登録番号(1～20)を設定します。　(出荷時の設定：1)
該当するTELポートに接続された電話機から、その番号に登録されたSIPサーバに発信します。

④**発信設定(Peer to Peer)** … Peer to Peerへの接続先を、「SIP設定」画面にある[Peer to Peer設定]項目に登録している場合、[現在の登録]欄に表示された登録番号(1～20)を設定します。　(出荷時の設定：1)
該当するTELポートに接続された電話機から、その番号に登録された[SIP URI]で発信します。

⑤**発信設定(ISDN)** …………… ISDN回線への発信先を、「ISDN設定」画面にある[INSダイヤルイン設定]項目(☞P20)に登録している場合、[現在の登録]項目(☞P21)に表示された登録番号(1～20)を設定します。
該当するTELポートに接続された電話機から、その番号に登録されたダイヤルイン、またはi·ナンバーの電話番号で発信します。
※何も設定しない(出荷時の設定)ときは、「ISDN設定」画面にある[契約者回線番号設定]項目の[電話番号]欄(☞P18)に設定した契約電話番号の回線で発信します。

1-5.「簡易サーバ設定」画面(つづき)

■**子機内線設定**

電話設定
- 接続設定
- 電話設定:TEL1
- 電話設定:TEL2
- ISDN設定
- SIP設定
- 簡易サーバ設定
- VoIP詳細設定
- 着信設定
- VoIP電話帳

本製品を簡易中継サーバの親機として使用する場合、簡易中継サーバの子機に接続している電話機の電話番号と発信先のサーバを登録するとき設定します。

最大18台まで、子機を登録できます。

子機内線設定		
番号	①	[ ] 追加
名前	②	[ ]
内線番号	③	[ ]
グループ番号	④	[ ]
パスワード	⑤	[ ]
発信設定	⑥	SIPサーバ:1 ⑦Peer to Peer:1 ⑧ISDN:
CGI認証	⑨	ID: パスワード:
個体識別情報	⑩	ser:

①**番号** ……………………………

簡易中継サーバーの子機を登録する番号を設定します。
「1～18」の範囲で入力してください。

〈追加〉ボタン

[登録の追加](①～⑩)欄で設定した内容を[現在の登録]項目に登録するボタンです。

②**名前** ……………………………

必要に応じて、登録する子機を使用するユーザーの名前を任意に設定します。
入力は、半角31(全角15)文字までです。
※名前を設定しない(空白の)ときは、「サービスメニュー」の[社員録一覧]に表示されません。

(N900iLご利用設定ガイド☞3-8章)

③**内線番号** ………………………

登録する子機の内線着信番号を設定します。
入力は、半角数字で、7桁までです。

④**グループ番号** ………………

子機に登録された電話機の内線着信グループ番号を設定します。
入力は、半角数字で7桁までです。
※[内線番号](③)や、ほかの[グループ番号](④)と同じ番号を設定できます。
グループ番号および内線番号が同じIP電話が一斉に着信します。

⑤**パスワード** …………………

子機から簡易中継サーバの親機(本製品)への接続を認証するパスワードです。
入力は、半角英数字で31文字までです。
※子機側は、「SIP設定」画面の[SIPサーバ設定]項目にある[パスワード]欄に、ここで設定したパスワードを入力します。

1-5.「簡易サーバ設定」画面

■子機内線設定(つづき)

電話設定
- 接続設定
- 電話設定:TEL1
- 電話設定:TEL2
- ISDN設定
- SIP設定
- 簡易サーバ設定
- VoIP詳細設定
- 着信設定
- VoIP電話帳

子機内線設定		
番号	①	[ ] 追加
名前	②	[ ]
内線番号	③	[ ]
グループ番号	④	[ ]
パスワード	⑤	[ ]
発信設定	⑥	SIPサーバ：1 ⑦Peer to Peer：1 ⑧ISDN：[ ]
CGI認証	⑨	ID：[ ]　パスワード：[ ]
個体識別情報	⑩	ser：[ ]

⑥発信設定(SIPサーバ)………　商用IP電話接続業者への接続先を、「SIP設定」画面にある[SIPサーバ設定]項目(☞P26〜P29)に登録している場合、[現在の登録]欄に表示された登録番号(1〜20)を設定します。

(出荷時の設定：1)

子機側に接続された電話機から、その番号に登録されたSIPサーバに発信します。

⑦発信設定(Peer to Peer)…　Peer to Peerの接続に使用する自分の[SIP URI]を、「SIP設定」画面にある[Peer to Peer設定]項目(☞P22〜P23)に登録している場合、[現在の登録]欄に表示された登録番号(1〜20)を設定します。　(出荷時の設定：1)

子機側に接続された電話機から、その番号に登録された[SIP URI]で発信します。

⑧発信設定(ISDN)……………　ISDN回線への発信先を、「ISDN設定」画面にある[INSダイヤルイン設定]項目(☞P20)に登録している場合、[現在の登録]項目(☞P21)に表示された登録番号(1〜20)を設定します。

子機側に接続された電話機から、その番号に登録されたダイヤルイン、またはi·ナンバーの電話番号で発信します。

※何も設定しない(出荷時の設定)ときは、「ISDN設定」画面にある[契約者回線番号設定]項目の[電話番号]欄(☞P18)に設定した契約電話番号の回線で発信します。

⑨CGI認証　……………………　FOMA端末を使用するユーザーが、各端末より「サービスメニュー」にログインするためのIDとパスワードを設定します。

(N900iLご利用設定ガイド☞3章)

⑩個体識別情報　………………　FOMA端末の個体識別情報(utn)を設定します。

※utn対応端末だけの機能です。

設定すると、個体識別情報が一致しない端末からは「サービスメニュー」にログインできません。　(N900iLご利用設定ガイド☞3章)

1

1-5.「簡易サーバ設定」画面(つづき)

■現在の登録

電話設定
- 接続設定
- 電話設定:TEL1
- 電話設定:TEL2
- ISDN設定
- SIP設定
- 簡易サーバ設定
- VoIP詳細設定
- 着信設定
- VoIP電話帳

[子機内線設定]項目から登録した内容を表示します。
追加した内容を最大18件まで、下記のように表示します。

現在の登録

①	②	番号	名前	内線番号	グループ番号	発信設定 (SIPサーバ/ Peer to Peer/ ISDN)	CGI認証 ID	③
編集	削除	1	子機1	1002	1000	1 / 1 /		詳細

①〈編集〉ボタン ………………… ボタンの右に表示された内容を修正するときクリックします。
クリックすると、[子機内線設定]項目(☞P40)にその内容を表示します。
※[子機内線設定]項目で登録した[パスワード]、[CGI認証パスワード]、[個体識別情報]欄の内容は登録されていますが、[現在の登録]項目に表示されません。

②〈削除〉ボタン ………………… ボタンの右に表示された内容を削除するときクリックします。

③〈詳細〉ボタン ………………… 子機を使用するユーザーの詳細情報を設定します。
クリックすると、[子機内線詳細情報設定]項目(☞P43)にその内容を表示します。

1-5.「簡易サーバ設定」画面(つづき)

■子機内線詳細情報設定

本製品を簡易中継サーバの親機として使用する場合、簡易中継サーバの子機に登録している電話機の詳細情報を設定します。

電話設定
- 接続設定
- 電話設定:TEL1
- 電話設定:TEL2
- ISDN設定
- SIP設定
- 簡易サーバ設定
- VoIP詳細設定
- 着信設定
- VoIP電話帳

※子機内線設定から登録した[現在の登録]項目(☞P42)で、〈詳細〉ボタンをクリックすると右の画面を表示します。

子機内線詳細情報設定
子機を使用するユーザの情報などを登録します。

登録　取消

子機内線詳細情報設定		
番号	①	1
名前	②	子機1
ﾖﾐｶﾞﾅ	③	
外線番号1	④	090
外線番号2	⑤	
不在転送	⑥	○しない ◉外線番号1 ○外線番号2
E-Mailアドレス1	⑦	
E-Mailアドレス2	⑧	

〈登録〉ボタン ……………………
[子機内線詳細情報設定]項目で変更したすべての設定内容が有効になります。

〈取消〉ボタン ……………………
[子機内線詳細情報設定]項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

①番号 …………………………
[現在の登録]項目(☞P42)で簡易中継サーバの子機として登録されている番号を表示します。
この欄では番号の変更はできません。

②名前 …………………………
[現在の登録]項目(☞P42)で簡易中継サーバの子機として登録されている名前を表示します。
この欄では名前の変更はできません。

③ヨミガナ ……………………
必要に応じて、(②)欄の名前に読みがなをつけます。
入力は、半角31文字までです。
※全角カナは半角に変更されて登録されます。

④外線番号1 …………………
登録した子機の外線着信番号(携帯電話の番号など)を入力します。
(出荷時の設定：空白(転送なし))
入力は、半角数字で、31桁までです。
※子機を使用するユーザーに着信できない場合の着信時転送先となります。(空白の場合は転送しません。)

⑤外線番号2 …………………
登録した子機の外線着信番号(部署の外線番号など)を入力します。
入力は、半角数字で、31桁までです。
※子機を使用するユーザーに着信できない場合の着信時転送先となります。(空白の場合は転送しません。)

1-5.「簡易サーバ設定」画面

■子機内線詳細情報設定(つづき)

電話設定
- 接続設定
- 電話設定:TEL1
- 電話設定:TEL2
- ISDN設定
- SIP設定
- 簡易サーバ設定
- VoIP詳細設定
- 着信設定
- VoIP電話帳

子機内線詳細情報設定

子機を使用するユーザの情報などを登録します。

登録 取消

子機内線詳細情報設定		
番号	①	1
名前	②	子機1
ﾖﾐｶﾞﾅ	③	
外線番号1	④	090
外線番号2	⑤	
不在転送	⑥	○しない ◉外線番号1 ○外線番号2
E-Mailアドレス1	⑦	
E-Mailアドレス2	⑧	

⑥不在転送 ……………………… 本製品の簡易中継サーバの子機として登録されているIP携帯端末(VP-43：弊社製)やFOMA端末が無線伝送エリア外に移動して接続できないときの転送先を設定します。

(出荷時の設定：外線番号1)

※[外線番号1]欄、または[外線番号2]欄にチェックを入れたときは、この欄に設定された電話番号の相手に電話を転送します。

⑦E-Mailアドレス1 ………… 子機として使用する携帯端末のメールアドレス(i-mode メールアドレスなど)を登録します。

※FOMA N900iLのWLANブラウザでサービスメニューにログインしたとき、その社員録に表示されます。

⑧E-Mailアドレス2 ………… 子機を使用するユーザーの社内インターネットメールサーバーでのメールアドレスを登録します。

※FOMA N900iLのWLANブラウザでサービスメニューにログインしたとき、その社員録に表示されます。

1-5.「簡易サーバ設定」画面(つづき)

■メール通知転送設定

電話設定
- 接続設定
- 電話設定:TEL1
- 電話設定:TEL2
- ISDN設定
- SIP設定
- 簡易サーバ設定
- VoIP詳細設定
- 着信設定
- VoIP電話帳

※子機内線設定から登録した[現在の登録]項目(☞P42)で、〈詳細〉ボタンをクリックすると右の画面を表示します。

メール通知転送機能の設定と転送先のサーバについて設定します。
着信メールがあるとその内容を、「サービスメニュー」の「メール一覧」画面に表示しますので、「メール一覧」画面から確認できます。
(N900iLご利用設定ガイド☞3-2章)
※転送されるメール内容は、半角1023(全角511)文字までです。
インスタントメッセージ(IM)の場合は、半角300文字までです。
※制限を超えた文字列については、表示されません。

メール通知転送設定		
IMでの通知機能を使用	①	◉しない ○する
IMからの迂回機能を使用	②	◉しない ○する
不在着信通知機能を使用	③	◉しない ○する
メール転送機能を使用	④	◉しない ○する ○オフライン時のみ
転送先メールアドレス	⑤	
確認間隔	⑥	10 分
発信元メールアドレス	⑦	
受信メールサーバ(POP)	⑧	
送信メールサーバ(SMTP)	⑨	
メールアカウント	⑩	
メールパスワード	⑪	

①IMでの通知機能を使用 ……
指定のメールアドレスに着信メールがあったときに、メールの内容をインスタントメッセージでFOMA端末に通知するかしないかを選択します。　(出荷時の設定：しない)
この機能を使用すると、着信メールをすぐに確認できます。

②IMからの迂回機能を使用 …
インスタントメッセージがFOMA端末に届かなかったときに、メッセージの内容を転送先メールアドレスにメールで通知するかしないかを選択します。　(出荷時の設定：しない)

③不在着信通知機能を使用 …
FOMA端末を使用するユーザーが、電話の着信に応答しなかった場合に、不在着信をメールで通知するかしないかを選択します。
(出荷時の設定：しない)
※FOMA端末が圏外のとき、またはFOMA端末の電源を切っているときには、通知されません。

④メール転送機能を使用 ……
指定のメールアドレスに着信メールがあったときに、転送先メールアドレスにメール転送するかしないかを選択します。
(出荷時の設定：しない)

⑤転送先メールアドレス ……
転送先のメールアドレスを、任意の英数字、半角127文字以内で入力します。

⑥確認間隔 ……………………
メールサーバに自動接続する間隔を設定します。
設定できる範囲は、「3～65535(分)」です。(出荷時の設定：10)
※IMでの通知機能、不在着信通知機能、メール転送機能を使用しているときに有効な設定です。

1-5.「簡易サーバ設定」画面

■メール通知転送設定(つづき)

電話設定
- 接続設定
- 電話設定:TEL1
- 電話設定:TEL2
- ISDN設定
- SIP設定
- 簡易サーバ設定
- VoIP詳細設定
- 着信設定
- VoIP電話帳

メール通知転送設定		
IMでの通知機能を使用	①	◉しない ○する
IMからの迂回機能を使用	②	◉しない ○する
不在着信通知機能を使用	③	◉しない ○する
メール転送機能を使用	④	◉しない ○する ○オフライン時のみ
転送先メールアドレス	⑤	
確認間隔	⑥	10 分
発信元メールアドレス	⑦	
受信メールサーバ(POP)	⑧	
送信メールサーバ(SMTP)	⑨	
メールアカウント	⑩	
メールパスワード	⑪	

⑦**発信元メールアドレス** ……　メールを送信する際に使用する発信者のメールアドレスを、任意の英数字、半角127文字以内で入力します。

⑧**受信メールサーバ(POP)** …　受信メールサーバのサーバアドレスを入力します。
サーバアドレスは、任意の英数字、半角127文字以内で入力します。

⑨**送信メールサーバ(SMTP)**　送信メールサーバのサーバアドレスを入力します。
サーバアドレスは、任意の英数字、半角127文字以内で入力します。

⑩**メールアカウント** …………　メールサーバ上のユーザーIDまたはメールアカウントを入力します。
入力は、任意の英数字、半角127文字以内です。

⑪**メールパスワード** …………　メールサーバにアクセスするときのパスワードまたはメールパスワードを任意の英数字、半角31文字以内で入力します。

1-5.「簡易サーバ設定」画面

■メールフィルタ

電話設定
- 接続設定
- 電話設定:TEL1
- 電話設定:TEL2
- ISDN設定
- SIP設定
- 簡易サーバ設定
- VoIP詳細設定
- 着信設定
- VoIP電話帳

メール着信通知機能を使って「メール一覧」画面に表示、または転送するメールを限定したい場合に、その比較対象にする条件を設定します。

※子機内線設定から登録した[現在の登録]項目(☞P42)で、〈詳細〉ボタンをクリックすると上記の画面を表示します。

①**使用** ……………………………

最大6(5＋1)件のフィルターを登録できます。
フィルターを複数使う場合、着信メールとフィルターの設定内容をこの番号の小さな順に比較します。
1～5番の条件に該当しない場合は、最下欄の[該当しないメールを]で指定する内容にしたがいます。
指定のフィルター条件を有効にする場合は、該当する番号欄のチェックボックスをクリックします。

②**フィルタ動作** ………………

比較する対象になる条件を、この欄の[▼]印をクリックして表示するプルダウンメニューから選択します。
下記の[A]～[D]のプルダウンメニューの内容は、以下のようになっています。

[A]の[B]が[C]と[D]メールを[E]する

●[A]：比較対象条件

To　　　　：宛先の文字列が対象
Cc　　　　：カーボンコピー(同報通信)の文字列が対象
From　　　：差出人の文字列が対象
Subject　：件名の文字列が対象

●[B]：比較対象条件

一部　　　：文字列の一部が対象
先頭　　　：文字列の先頭が対象
末尾　　　：文字列の末尾が対象

●[C]：比較対象条件

入力できる文字列は、任意の英数字、半角127(全角63)文字以内です。

●[D]：比較対象条件

する　　　：比較対象条件と一致するメールが対象
しない　　：比較対象条件と一致しないメールが対象

●[E]：比較対象条件／該当しないメールを

転送＋表示：転送して表示する
表示　　　：表示する
無視　　　：表示しない

1-5「簡易サーバ設定」画面(つづき)

■代表着信設定

ここに登録された代表着信内線番号に着信したとき、その着信に該当するグループに登録した内線番号の中から、空いている内線番号の電話機に着信する機能です。

電話設定
- 接続設定
- 電話設定:TEL1
- 電話設定:TEL2
- ISDN設定
- SIP設定
- 簡易サーバ設定
- VoIP詳細設定
- 着信設定
- VoIP電話帳

代表着信設定

登録の追加

項目		設定
番号	①	[追加]
グループ名称	②	
代表着信内線番号	③	
動作設定	④	順次着信
内線番号の登録	⑤	1 2 3 4 5 6 7 8

現在の登録 ⑥

⑦	⑧	番号	グループ名称	代表着信内線番号	動作設定	内線番号の登録
編集	削除	1	5100VoIP	5100	順次着信	12 14 16 18 20 22 24 26

①番号 ……………………………

各内線グループが登録される番号を設定します。
最大10件まで登録できますので、「1～10」の範囲で入力してください。

②グループ名称 ………………

必要に応じて、登録する代表着信内線番号を使用するグループの名前を任意に設定します。
入力は、半角31(全角15)文字までです。

③代表着信内線番号 …………

各代表着信グループに対する内部識別用の内線番号を設定します。
入力は、半角数字で7桁までです。
外線から代表着信内線番号に着信させるときは、ダイヤルイン着信で指定した[着信内線番号]欄(☞P23、P28、P34)と同じ番号を設定します。
アナログ公衆電話回線等からの代表着信は、[デフォルト着信内線番号]欄(☞P38)と同じ番号を設定します。

④動作設定 ……………………

代表着信番号の電話機に着信が集中しないように、[内線番号の登録](⑤)欄の1～8のテキストボックスに登録された内線電話への着信の方法を選択できます。　(出荷時の設定：順次着信)

◎順次着信：1のテキストボックスに登録された内線電話が最初に着信しますが、通話中の場合は、次の番号に登録された内線電話に着信します。

◎巡回着信：1のテキストボックスに登録された内線電話が最初に着信しますが、次回着信があったときは、次の番号に登録された電話機に着信します。
その電話機が通話中の場合だけ、その次の番号の電話機に順次着信します。

◎一斉着信：代表着信グループに登録された内線電話が一斉に着信します。

1-5.「簡易サーバ設定」画面

■代表着信設定(つづき)

電話設定
- 接続設定
- 電話設定:TEL1
- 電話設定:TEL2
- ISDN設定
- SIP設定
- 簡易サーバ設定
- VoIP詳細設定
- 着信設定
- VoIP電話帳

代表着信設定

登録の追加

番号	①	追加
グループ名称	②	
代表着信内線番号	③	
動作設定	④	順次着信
内線番号の登録	⑤	1 2 3 4 5 6 7 8

現在の登録 ⑥

⑦	⑧	番号	グループ名称	代表着信内線番号	動作設定	内線番号の登録
編集	削除	1	5100VoIP	5100	順次着信	12 14 16 18 20 22 24 26

⑤**内線番号の登録** ……………… [TELポート内線設定]項目(☞P39)および[子機内線設定]項目(☞P40)で設定した内線番号とグループ番号を設定します。
入力は、半角数字で7桁まででです。
最大8個の内線電話番号を登録できます。

⑥**現在の登録** …………………… [登録の追加]欄で追加した内容を表示します。
追加した内容を最大10件まで表示します。

⑦**〈編集〉ボタン** ……………… ボタンの右に表示された内容を修正するときクリックします。
クリックすると、[登録の追加](①〜⑤)欄にその内容を表示します。

⑧**〈削除〉ボタン** ……………… ボタンの右に表示された内容を削除するときクリックします。

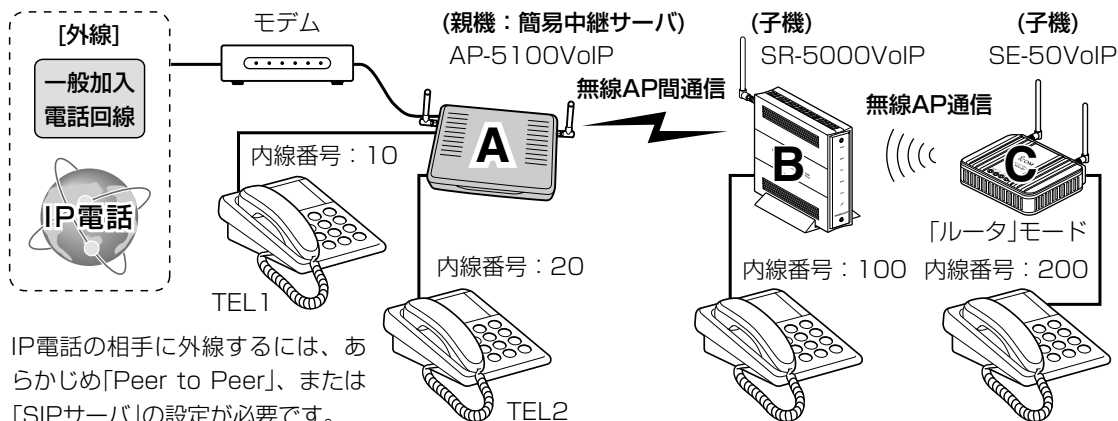
1-5.「簡易サーバ設定」画面(つづき)

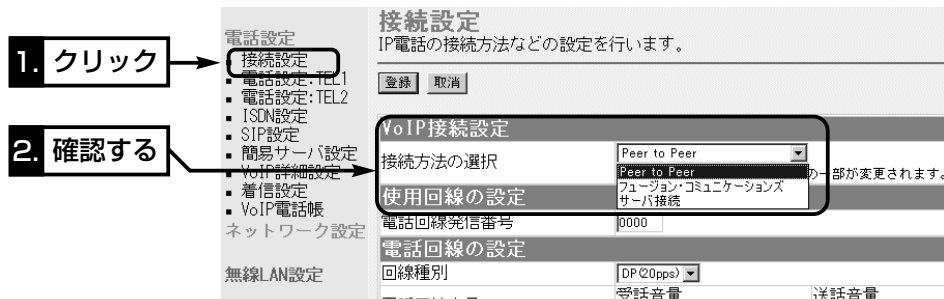
■簡易中継サーバの使いかた

簡易中継サーバ(親機)と子機の設定例を説明します。

※無線AP間通信、および無線AP通信設定は、あらかじめ設定されているものとして説明しています。
　また、有線LANで親機と子機を接続する場合も同じです。

※簡易中継サーバ機能を設定すると、直接発信機能と併用はできますが、代理発信機能(☞1-9章)とは併用できません。

IP電話の相手に外線するには、あらかじめ「Peer to Peer」、または「SIPサーバ」の設定が必要です。

〈機器：Aの設定〉

「サーバ接続」以外の接続方法に設定されていることを確認し、あらかじめ、設定した接続方法で使用できることを確認します。

次ページの「簡易サーバ」画面では、次の各欄を設定します。

◎[簡易中継サーバ機能を使用]：「する」

◎[内線ドメイン]：「5100domain」(入力例)

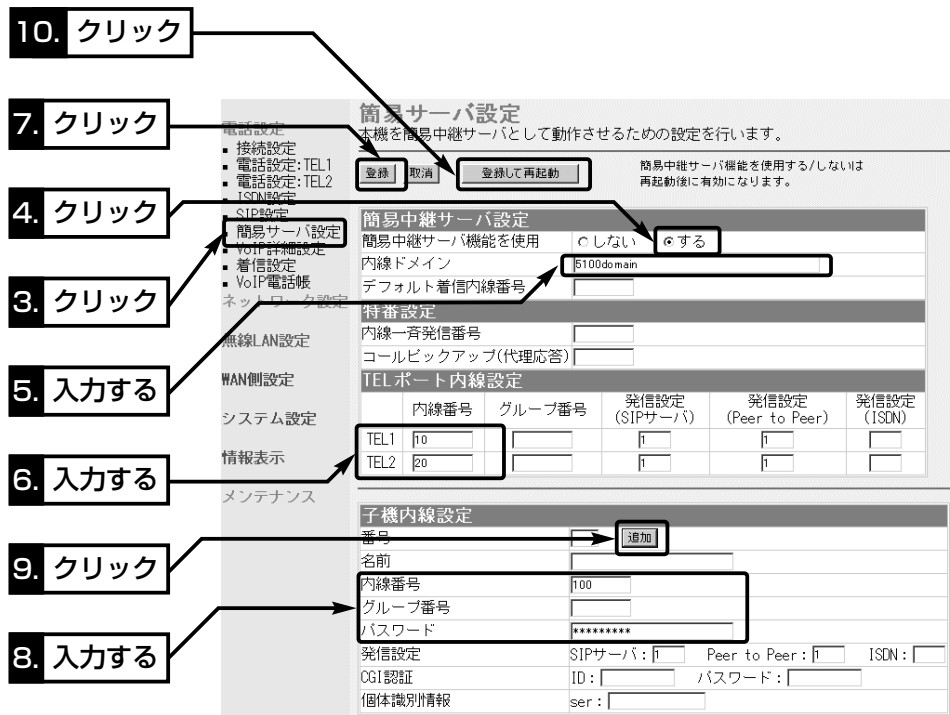
◎[機器：A]に接続する電話機の入力例
　[TEL1]：「10(内線番号)」
　[TEL2]：「20(内線番号)」

◎[機器：B]に接続する電話機の入力例
　[1]：「100(内線番号)」
　[1]：「5100voip(パスワード)」

◎[機器：C]に接続する電話機の入力例
　[2]：「200(内線番号)」
　[2]：「50voip(パスワード)」

※[内線一斉発信番号]や[グループ番号]は、必要に応じて設定してください。

(☞次ページへつづく)

1-5.「簡易サーバ設定」画面[■簡易中継サーバの使いかた]
〈機器：Aの設定〉(つづき)

■簡易中継サーバ機能使用時の制限事項について

〈着信時の制限〉

◎商用IP電話からの着信数は、IP電話接続業者により違います。

〈発信時の制限〉

◎内線番号→VoIP電話帳の順番で検索し、該当しなかった場合は、設定されているSIPサーバへ発信しますので、子機側のVoIP電話帳への登録は不要です。

◎商用IP電話での発信数は、IP電話接続業者により違います。

〈その他の制限〉

◎子機側から簡易中継サーバを介しての代理発信機能は使用できません。

◎アナログ公衆電話回線への発信は、[LINE]ポートが優先します。
親機の[LINE]ポートを使用する場合は、子機側の[電話回線発信番号]の設定を削除してください。
この場合は、親機側の[電話回線発信番号]の設定が有効になります。

◎コーデックは、簡易中継サーバ(親機)側に依存します。
「G.711」→「簡易中継サーバ」→「G.729」のような変換はできません。

◎簡易中継サーバは、expire値3600秒まで許容します。
子機側は、3600以下に設定してください。

1-5.「簡易サーバ設定」画面[■簡易中継サーバの使いかた]

〈機器：Bの設定〉

[機器：A]の子機として使用しますので、接続方法を「サーバ接続」に設定します。

「SIP設定」画面では、次の各欄を設定します。

◎[IP電話番号]：「100」(機器：Bに接続する電話機の内線番号)

◎[機器：A]の本体IPアドレス、または本体名称を設定します。
[SIPサーバアドレス]：「192.168.0.1(入力例)」
※ダイナミックDNS使用時、そのアドレスでも使用できます。

◎[SIPサービスドメイン]：「5100domain」(入力例)
※[機器：A]で設定した[内線ドメイン]と同じ内容を設定します。

◎[ユーザID]：「100」(機器：Bに接続する電話機の内線番号)
※[機器：B]で設定した[IP電話番号]と同じ内容を設定します。

◎[パスワード]：「5100voip」
※[機器：A]の[子機内線設定]項目で設定した[機器：B]のパスワードと同じ内容を設定します。

1-5.「簡易サーバ設定」画面[■簡易中継サーバの使いかた]

〈機器：Cの設定〉

[機器：A]の子機として使用しますので、接続方法を「サーバ接続」に設定します。

「SIP設定」画面では、次の各欄を設定します。

◎[IP電話番号]：「200」(機器：Cに接続する電話機の内線番号)

◎[機器：A]の本体IPアドレス、または本体名称を設定します。
[SIPサーバアドレス]：「192.168.0.1(入力例)」
※ダイナミックDNS使用時、そのアドレスでも使用できます。

◎[SIPサービスドメイン]：「5100domain」(入力例)
※[機器：A]で設定した[内線ドメイン]と同じ内容を設定します。

◎[ユーザID]：「200」(機器：Cに接続する電話機の内線番号)
※[機器：C]で設定した[IP電話番号]と同じ内容を設定します。

◎[パスワード]：「50voip」
※[機器：A]の[子機内線設定]項目で設定した[機器：C]のパスワードと同じ内容を設定します。

1

1-6.「VoIP詳細設定」画面

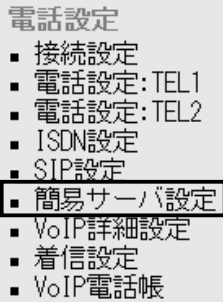
■VoIP音質設定

IP電話の音声について設定します。

電話設定
- 接続設定
- 電話設定:TEL1
- 電話設定:TEL2
- ISDN設定
- SIP設定
- 簡易サーバ設定
- VoIP詳細設定
- 着信設定
- VoIP電話帳

VoIP詳細設定
IP電話での音質などの設定を行います。

登録 取消

VoIP音質設定			
音声符号化方式	①	両方使用(G.711を優先)	
フレーム時間	②	G.711	20ms
		G.729	20ms
受信バッファ	③	50ms	

〈登録〉ボタン ……………………

「VoIP詳細設定」画面で変更したすべての設定内容が有効になります。

〈取消〉ボタン ……………………

「VoIP詳細設定」画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

①音声符号化方式 ……………

IP電話で、発信するときの音質についての設定です。
着信は、この設定に関係しません。
(出荷時の設定：両方使用(G.711優先))

◎G.711のみ使用　　：G.711を発信に使用します。
通話相手がG.711を発信できないときは通話できません。
※フュージョン･コミュニケーションズでご利用の場合は、「G.711のみ使用」を設定してください。

◎G.729のみ使用　　：G.729を発信に使用します。
通話相手がG.729を発信できないときは通話できません。

◎両方使用(G.711優先)：通常G.711を発信に使用しますが、通話相手がG.711を発信できないときはG.729を使用します。

◎両方使用(G.729優先)：通常G.729を発信に使用しますが、通話相手がG.729を発信できないときはG.711を使用します。

【G.711について】
音声を圧縮しないので、音質の劣化が少ない特徴がありますが、高速回線が必要です。

【G.729について】
G.729の規格には、G.729A(音声符号化の効率化)とG.729B(音声符号化の効率化と無音圧縮)があります。

☞次ページへつづく

1-6.「VoIP詳細設定」画面

■VoIP音質設定(つづき)

電話設定
- 接続設定
- 電話設定:TEL1
- 電話設定:TEL2
- ISDN設定
- SIP設定
- 簡易サーバ設定
- VoIP詳細設定
- 着信設定
- VoIP電話帳

VoIP詳細設定
IP電話での音質などの設定を行います。

登録　取消

VoIP音質設定			
音声符号化方式	①	両方使用(G.711を優先)	
フレーム時間	②	G.711	20ms
		G.729	20ms
受信バッファ	③	50ms	

①音声符号化方式(つづき)　…　本製品(AP-5100VoIP)やSR-5000VoIPは、G.729Aが搭載されています。
SR-21VoIP(弊社製)は、G.729Bが搭載されていますが、音声符号化の効率化だけを使用していますので、本製品と通話できます。

②**フレーム時間**　………………　発信時、設定された音声符号化方式での1フレームの長さを時間で設定します。　(出荷時の設定：20ms)
設定した時間が短いほど遅延は少なくなりますが、ご契約の回線速度が遅いときは対応できません。
使用される音声符号化方式に応じて、「G.711]欄または「G.729]欄で設定した時間のフレーム長で発信します。

③**受信バッファ**　………………　音声を受信したとき、音声データを蓄える時間を設定します。
(出荷時の設定：50ms)
設定する時間が短いほど遅延は少なくなりますが、音声が途切れやすくなります。

1-6.「VoIP詳細設定」画面(つづき)

■TOS設定

電話設定
- 接続設定
- 電話設定:TEL1
- 電話設定:TEL2
- ISDN設定
- SIP設定
- 簡易サーバ設定
- VoIP詳細設定
- 着信設定
- VoIP電話帳

SIPサーバを使用したIP電話で、VoIPパケットを優先的にIP網へ送出する機能を設定します。

本製品のQoS機能を使用、またはIP-VPN回線サービスの音声優先制御機能を利用するときなど、社内ネットワーク等で、TOS(Type-Of-Service)を使用する場合に関係します。

【TOS種別:「使用しない」設定時】

TOS設定	
TOS種別 ①	⊙使用しない ○TOS ○Diffserv

【TOS種別:「TOS」設定時】

TOS設定			
TOS種別 ①	○使用しない ⊙TOS ○Diffserv		
メディア(RTP)②	優先度 2	サービスタイプ 0	16進表示:40
呼制御(SIP) ③	優先度 1	サービスタイプ 0	16進表示:20

【TOS種別:「Diffserv」設定時】

TOS設定		
TOS種別 ①	○使用しない ○TOS ⊙Diffserv	
メディア(RTP)②	DSCP 16	16進表示:40
呼制御(SIP) ③	DSCP 8	16進表示:20

①**TOS種別** ……………………… TOS機能を使用するかしないかの設定です。

(出荷時の設定:使用しない)

設定して〈登録〉をクリックすると、設定したTOS種別に該当する設定項目が上記のように表示されます。

◎使用しない:TOSを使用しないネットワークに該当します。

◎TOS :TOS(Type Of Service)のフォーマットで、VoIPパケットをIPヘッダー内のTOSフィールド(8ビット)に出力します。
RFC1349に準拠して、「1〜3」ビットを優先度、「4〜7」ビットをサービスタイプとして、10進数で設定します。
残りの「1」ビットは、未使用フィールドとして、「0」に固定されています。

◎Diffserv :Diffserv(Differentiated Service)のフォーマットで、VoIPパケットをIPヘッダー内のTOSフィールド(8ビット)に出力します。
「1〜6」ビットをDSCPとして、10進数で設定します。
残りの「2」ビットは、未使用フィールドとして、「0」に固定されています。

1-6.「VoIP詳細設定」画面(つづき)

■TOS設定(つづき)

電話設定
- 接続設定
- 電話設定:TEL1
- 電話設定:TEL2
- ISDN設定
- SIP設定
- 簡易サーバ設定
- VoIP詳細設定
- 着信設定
- VoIP電話帳

【TOS種別：「使用しない」設定時】

TOS設定		
TOS種別	①	◉使用しない　○TOS　○Diffserv

【TOS種別：「TOS」設定時】

TOS設定					
TOS種別	①	○使用しない　◉TOS　○Diffserv			
メディア(RTP)	②	優先度 2	サービスタイプ 0		16進表示：40
呼制御(SIP)	③	優先度 1	サービスタイプ 0		16進表示：20

【TOS種別：「Diffserv」設定時】

TOS設定			
TOS種別	①	○使用しない　○TOS　◉Diffserv	
メディア(RTP)	②	DSCP 16	16進表示：40
呼制御(SIP)	③	DSCP 8	16進表示：20

②メディア(RTP) ……………

TOS設定時、出荷時の設定値を2進数で表示すると、優先度(010)、サービスタイプ(0000)、未使用フィールド(0)なので、「01000000」の16進数表記は、「40」になります。

TOSフィールド内に出力された音声パケットの優先制御の基準となる項目の設定です。

◎優先度　　　：TOSの優先度フィールドの値を設定します。
設定できる範囲は、「0～7」(10進数)です。
(出荷時の設定：2)

◎サービスタイプ：TOSのサービスタイプフィールドの値を設定します。
設定できる範囲は、「0～15」(10進数)です。
(出荷時の設定：0)

◎DSCP　　　：DSCP(Differentiated Services Code Point)の値を設定します。
設定できる範囲は、「0～63」(10進数)です。
(出荷時の設定：16)

③呼制御(SIP)……………………

Diffserv設定時、出荷時の設定値を2進数で表示すると、DSCP(001000)、未使用フィールド(00)なので、「00100000」の16進数表記は、「20」になります。

TOSフィールド内に出力された呼制御(電話の発着制御)パケットの優先制御の基準となる項目の設定です。

◎優先度　　　：TOSの優先度フィールドの値を設定します。
設定できる範囲は、「0～7」(10進数)です。
(出荷時の設定：1)

◎サービスタイプ：TOSのサービスタイプフィールドの値を設定します。
設定できる範囲は、「0～15」(10進数)です。
(出荷時の設定：0)

◎DSCP　　　：DSCP(Differentiated Services Code Point)の値を設定します。
設定できる範囲は、「0～63」(10進数)です。
(出荷時の設定：8)

1-6.「VoIP詳細設定」画面(つづき)

■着信転送設定

電話設定
- 接続設定
- 電話設定:TEL1
- 電話設定:TEL2
- ISDN設定
- SIP設定
- 簡易サーバ設定
- VoIP詳細設定
- 着信設定
- VoIP電話帳

IP電話で通話中、ほかのIP電話からの着信や、ほかのIP電話への発信、転送を設定します。

着信転送設定	
通信中着信 ①	⊙しない ○する
通信中発信 ②	⊙しない ○する
通信中転送 ③	⊙しない ○する
着信転送 ④	⊙しない ○する

※①〜④を設定したときの操作のしかたは、本書60〜65ページで説明しています。

①通信中着信 ……………………

IP電話で通話中、ほかの相手からIP電話でがかかってきたときに、通話中の電話を保留して、かかってきた相手と通話する機能です。 (出荷時の設定：しない)

※ほかの相手からの電話が、一般加入回線の場合は、「電話設定」メニューの「接続設定」画面にある[付加機能設定]項目の[VoIP通話中に電話回線から着信を受ける]欄(☞P10)を「する」に設定することで、その相手に切り替えて通話できますが、IP電話の相手との回線は切断されます。

②通信中発信 ……………………

IP電話での通話を保留して、ほかの相手にIP電話をかける機能です。 (出荷時の設定：しない)

③通信中転送 ……………………

IP電話で通話中の相手を、保留されているIP電話の相手に転送する機能です。 (出荷時の設定：しない)

※通信中転送するときは、[通信中発信]欄を「する」に設定しないと、使用できません。

④着信転送 ………………………

IP電話の相手から着信があると、本製品に登録されたIP電話または一般加入電話回線の電話番号の相手に転送する機能です。

(出荷時の設定：しない)

※転送先電話番号は、「VoIP詳細設定」画面にある[着信転送番号の登録]項目(☞P59)に登録します。

【着信転送モードにするには？】

①転送先電話番号を登録した[TEL]ポートに接続した電話機の受話器をあげます。
- 受話器から発信音(ツーツッツ)が繰り返し聞こえます。

②[#][9][0]をダイヤルします。
- 着信転送モードになると、発信音が「ツ･ツ･･･」の繰り返しに切り替わります。

※着信転送モードを解除するときは、設定された電話機の受話器をあげて、再度[#][9][0]をダイヤルします。
- 着信転送モードを解除すると、発信音が「ツーツッツ･･･」の繰り返しに切り替わります。

1-6.「VoIP詳細設定」画面(つづき)

■着信転送番号の登録

電話設定
- 接続設定
- 電話設定:TEL1
- 電話設定:TEL2
- ISDN設定
- SIP設定
- 簡易サーバ設定
- VoIP詳細設定
- 着信設定
- VoIP電話帳

着信転送を使うとき、その転送先の電話番号を設定します。

着信転送番号の登録		
TEL1	転送先電話番号1	
	転送先電話番号2	
TEL2	転送先電話番号1	
	転送先電話番号2	

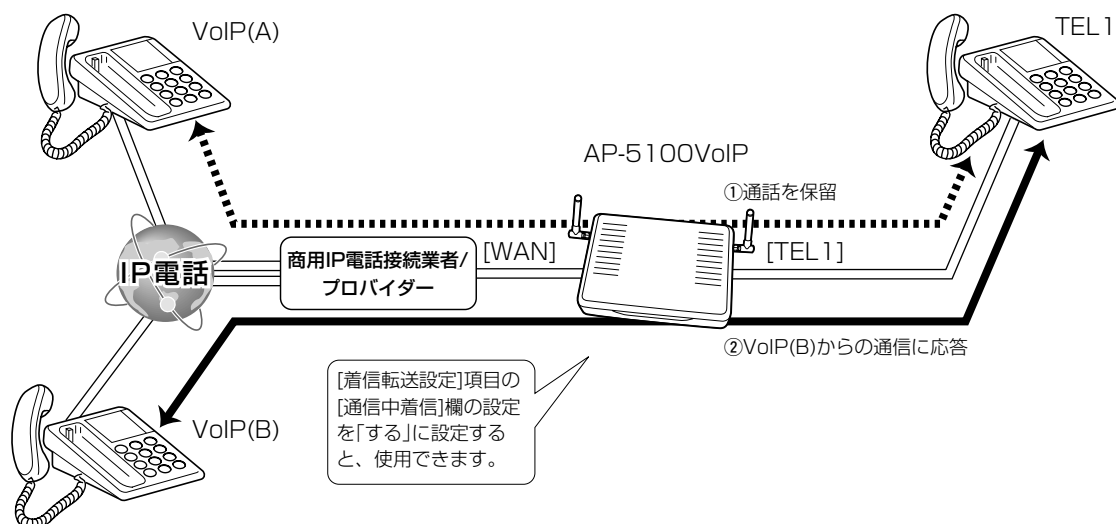
IP電話または一般加入回線のどちらかの転送先電話番号を設定します。
ポートごとに、2件まで設定できます。
入力するときは、電話番号の「-」(ハイフン)は省略してください。
着信転送するときは、「VoIP詳細設定」画面にある[着信転送設定]項目の[着信転送]欄(☞P58)を「する」にして、転送先電話番号を設定した側の[TEL]ポートに接続された電話機から着信転送モード(☞P58)を設定すると、転送先電話番号の相手に転送できます。
※[転送先電話番号1]欄で設定した電話番号に転送できないときは、[転送先電話番号2]欄で設定した電話番号に転送します。
※着信転送モードを本製品に接続された2台の電話機に設定している場合は、[TEL1]欄に接続された電話機に対する転送が優先されます。
なお、[TEL1]欄に接続された電話機の[起動タイミング]欄の設定(☞P16)が、「呼出後起動」の場合は、「即時起動」に設定された[TEL2]欄に接続された電話機に対する転送が優先されます。

1

1-6.「VoIP詳細設定」画面(つづき)

■**通信中着信の使いかた**

IP電話で通話中の電話を保留して、かかってきた相手と通話する方法を説明します。

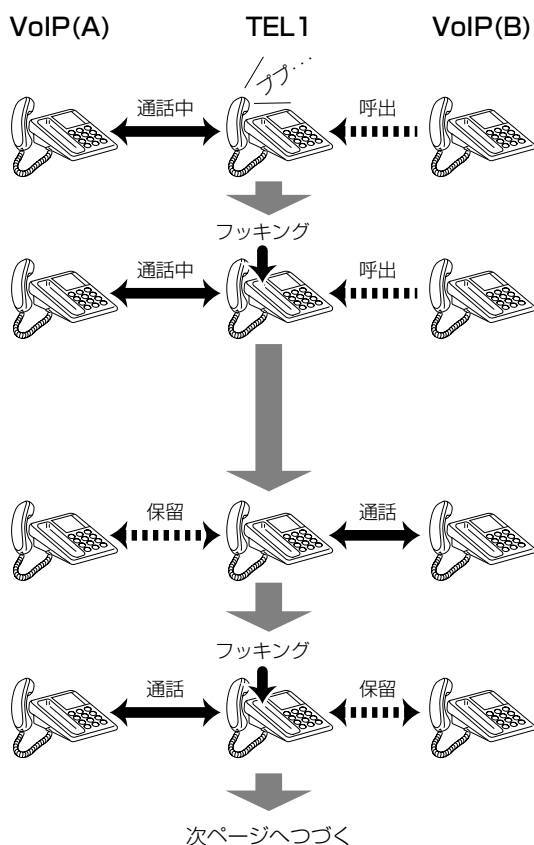
※「Peer to Peer」や「直接発信」でIP電話を使用する場合は、VoIP電話帳の設定がされているものとして説明しています。

〈電話機の操作〉

1.通話中にVoIP(B)がかかってくると、TEL1の受話器から「ププ･･･」と話中着信音がVoIP(A)の音声に混ざって聞こえます。

2.TEL1のフックスイッチを1回だけ、短く押(フッキング)します。
※このとき、「電話設定：TEL1」画面の[VoIPダイヤルタイミング]項目にある[フッキング判定時間]欄で設定した時間より長くフックスイッチを押すと、TEL1とVoIP(A)との通話が切断されますので、ご注意ください。

3.通話中に電話をかけてきたVoIP(B)と通話します。

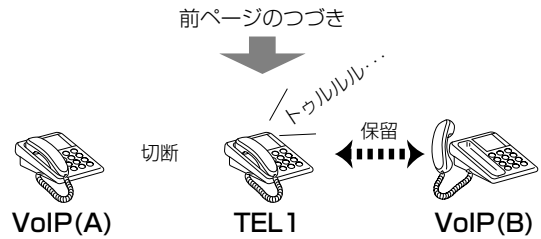
4.さらにTEL1をフッキングし、VoIP(A)との通話を再開します。
以後、電話機をフッキングするごとに、VoIP(A)とVoIP(B)の通話が交互に切り替わります。

☞次ページへつづく

1-6.「VoIP詳細設定」画面

(■通信中着信の使いかた)〈電話機の操作〉(つづき)

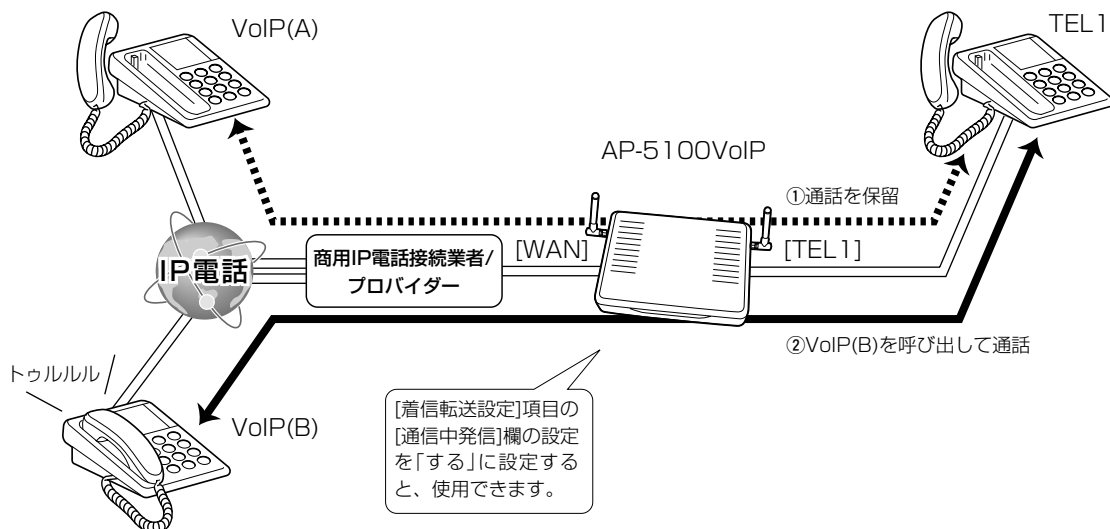
5.通話が終了したら、TEL1の受話器を戻し、VoIP(A)またはVoIP(B)との通話を切断します。

※保留中の相手がいる場合は、TEL1の呼出音が、「トゥルルル･･･」と鳴ります。
TEL1の受話器を取ることで、保留中の相手と通話できます。

※保留中の相手がいるときに、通話中の相手が通話を切断した場合は、TEL1の受話器から「プー･･･」と話し中音が聞こえます。
このときもTEL1をフッキングすることで保留中の相手と通話できます。

1-6.「VoIP詳細設定」画面(つづき)

■通信中発信の使いかた

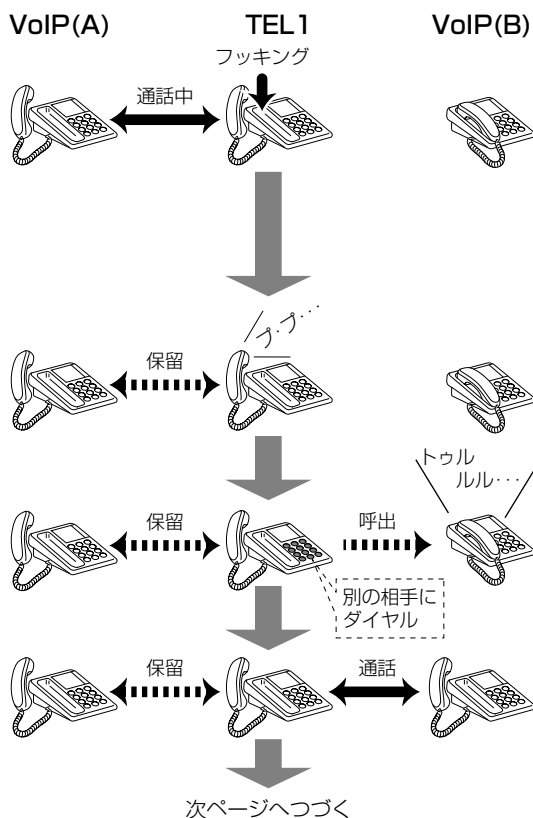
IP電話での通話を保留して、ほかの相手にIP電話をかける方法を説明します。

※「Peer to Peer」や「直接発信」でIP電話を使用する場合は、VoIP電話帳の設定がされているものとして説明しています。

〈電話機の操作〉

1. VoIP(A)との通話中に、TEL1のフックスイッチを1回だけ、短く押(フッキング)します。
このとき、「電話設定：TEL1」画面の[VoIPダイヤルタイミング]項目にある[フッキング判定時間]欄で設定した時間より長くフックスイッチを押すと、TEL1とVoIP(A)との通話が切断されますので、ご注意ください。

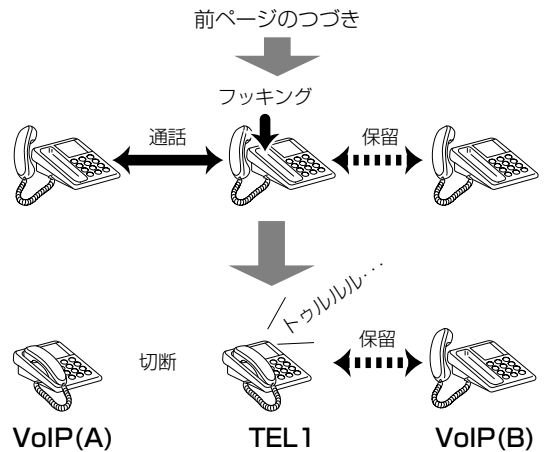
2. TEL1の受話器から「プ･プ･･･」と第二発信音が聞こえ、VoIP(A)との通話を保留します。

3. 別の相手であるVoIP(B)の電話番号をダイヤルします。

4. VoIP(B)と通話します。
※相手が出ない場合、TEL1をもう一度フッキングして通信中発信を中止して、VoIP(A)との通話に戻ります。
また、そのまま受話器を置いたときは、TEL1の呼出音が鳴ります。

☞次ページへつづく

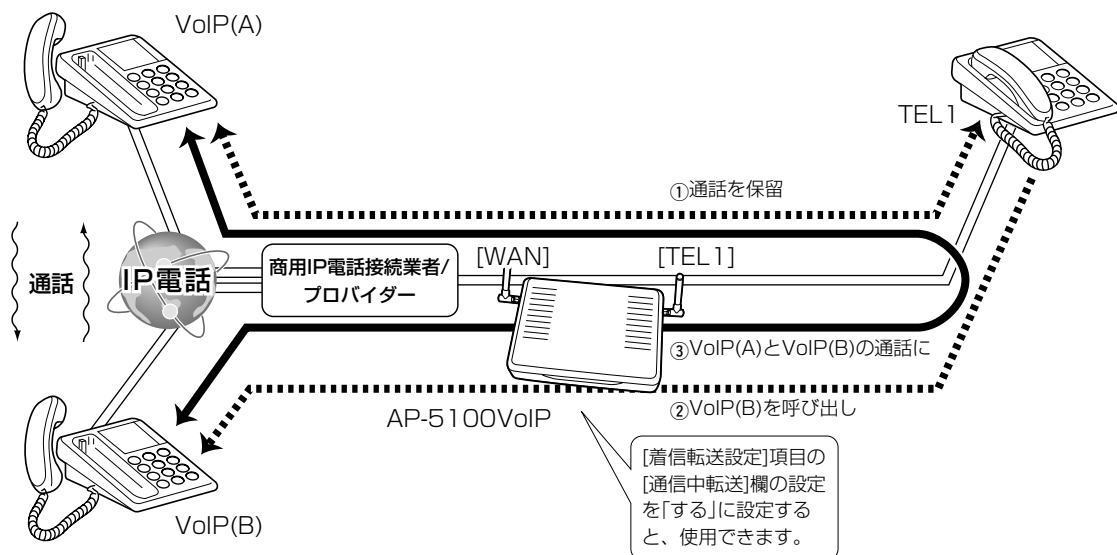
1-6.「VoIP詳細設定」画面
(■通信中発信の使いかた)〈電話機の操作〉(つづき)

5. さらにTEL1をフッキングします。
VoIP(A)との通話が再開されます。
以後、電話機をフッキングするごとに、VoIP(A)とVoIP(B)の通話が交互に切り替わります。

6. 通話が終了したら、TEL1の受話器を戻します。
VoIP(A)またはVoIP(B)との通話が終了します。
※保留中の相手がいる場合は、TEL1の呼出音が「トゥルルルル･･･」と鳴ります。
受話器を取ることで、保留中のVoIPと通話が再開できます。
※保留中のVoIPがある場合に、通話中のVoIPが通話を切断した場合は、TEL1の受話器から「プー･･･」と話し中音が聞こえます。
TEL1をフッキングすると、保留中のVoIPとの通話が再開できます。
※保留中、VoIPの受話器からは「エリーゼのために」が流れます。

1-6.「VoIP詳細設定」画面(つづき)

■通信中転送の使いかた

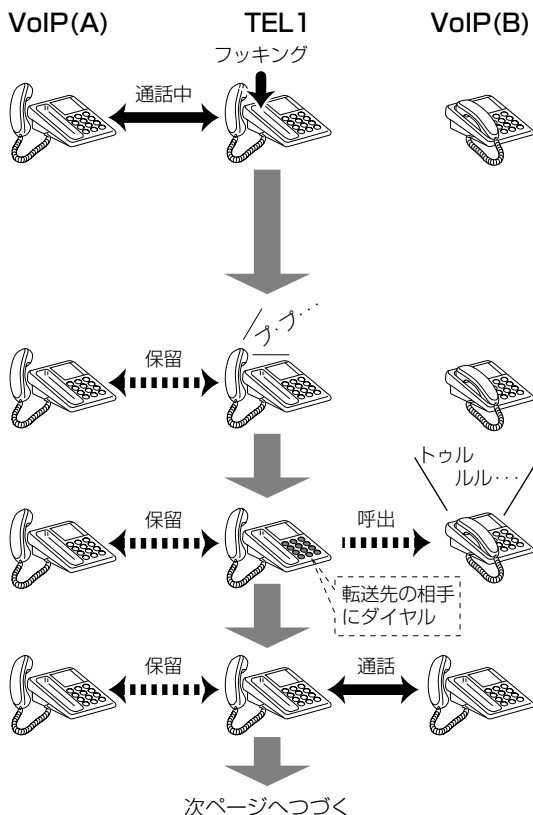
IP電話で通話中の相手を、保留されているIP電話の相手に転送する方法を説明します。

※「Peer to Peer」や「直接発信」でIP電話を使用する場合は、VoIP電話帳の設定がされているものとして説明しています。

〈電話機の操作〉

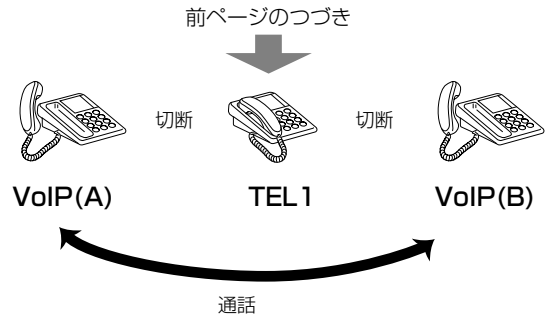
1. VoIP(A)との通話中に、TEL1のフックスイッチを1回だけ、短く押(フッキング)します。
このとき、「電話設定：TEL1」画面の[VoIPダイヤルタイミング]項目にある[フッキング判定時間]欄で設定した時間より長くフックスイッチを押すと、TEL1とVoIP(A)との通話が切断されますので、ご注意ください。

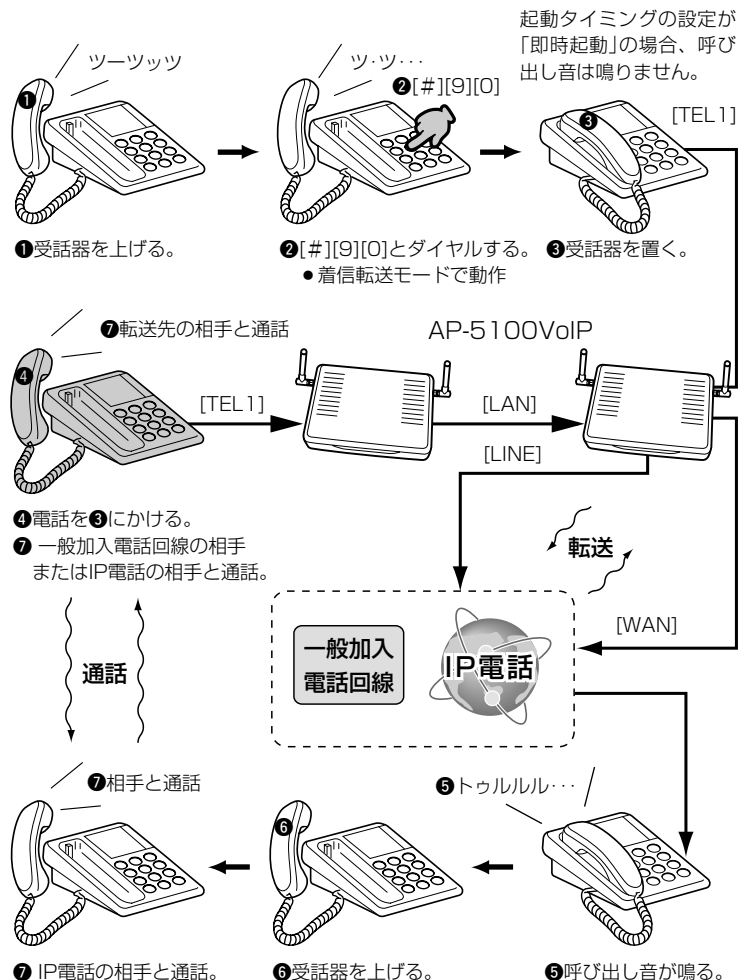
2. TEL1の受話器から「プ･プ･･･」と第二発信音が聞こえ、VoIP(A)との通話を保留します。

3. 転送先であるVoIP(B)の電話番号をダイヤルします。

4. VoIP(B)と通話します。

☞次ページへつづく

1-6.「VoIP詳細設定」画面
(■通信中転送の使いかた)〈電話機の操作〉(つづき)

5.TELの受話器を戻します。
VoIP(A)とVoIP(B)の相手が通話できます。

■着信転送の使いかた

IP電話の相手から着信があると、本製品に登録されたIP電話または一般加入電話回線の電話番号の相手に転送する方法の説明です。
※「Peer to Peer」や「直接発信」でIP電話を使用する場合は、VoIP電話帳の設定がされているものとして説明します。

1-7.「着信設定」画面

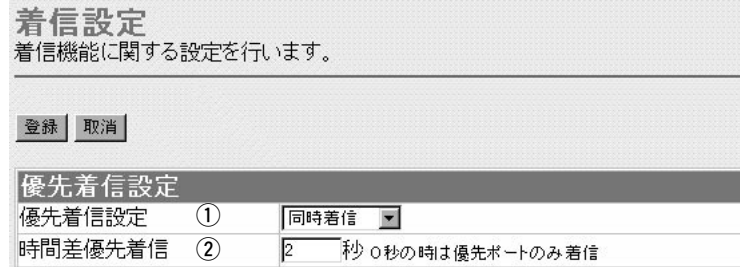
■優先着信設定

着信したとき、優先的に動作する[TEL]ポートを設定します。

電話設定
- 接続設定
- 電話設定:TEL1
- 電話設定:TEL2
- ISDN設定
- SIP設定
- 簡易サーバ設定
- VoIP詳細設定
- 着信設定
- VoIP電話帳

着信設定
着信機能に関する設定を行います。

登録 取消

優先着信設定		
優先着信設定	①	同時着信
時間差優先着信	②	2 秒 0秒の時は優先ポートのみ着信

※本製品を簡易中継サーバ(☞1-5章)に設定するときは、「接続設定」画面に表示されません。

〈登録〉ボタン ………………… 「着信設定」画面で変更したすべての設定内容が有効になります。

〈取消〉ボタン ………………… 「着信設定」画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

①優先着信設定 ……………… 着信したとき、接続された2台の電話機から同時に呼び出し音を鳴らすのか、指定した[TEL]ポートに接続された電話機の呼び出し音を優先して鳴らすのかを設定します。
(出荷時の設定:同時着信)
◎同時着信　:着信があると呼び出し音を同時に鳴らします。
◎TEL1を優先:着信があると、[TEL1]ポートに接続された電話機の呼び出し音が優先して鳴ります。
◎TEL2を優先:着信があると、[TEL2]ポートに接続された電話機の呼び出し音が優先して鳴ります。

②時間差優先着信 …………… 優先着信する[TEL]ポートを[優先着信設定](①)欄で設定している場合、2台目の電話機から呼び出し音が鳴り始めるまでの時間を設定します。
設定できる範囲は、「0～99(秒)」です。
※設定した秒数が経過しても応答しない(受話器を取らない)場合、2台の電話機から同時に呼び出し音が鳴ります。
※「0(秒)」を設定した場合は、優先指定された[TEL]ポートに接続された電話機の呼び出し音だけが鳴ります。
※優先指定されたポートがIP電話の相手と通話中に、一般加入電話回線またはIP電話の相手から着信があると、もう一方のポートへ着信します。
※優先指定されたポートが一般加入電話回線の相手と通話中に、IP電話の相手から着信があると、もう一方のポートへ着信します。

1-7.「着信設定」画面(つづき)

■セレクト着信設定

電話設定
- 接続設定
- 電話設定:TEL1
- 電話設定:TEL2
- ISDN設定
- SIP設定
- 簡易サーバ設定
- VoIP詳細設定
- 着信設定
- VoIP電話帳

IP電話または加入電話回線からかかってくる相手の電話番号を登録することにより着信動作を指定します。

※加入電話回線から着信動作を登録するには、NTTのナンバーディスプレイサービス(有料)の契約が必要です。

セレクト着信設定

①番号	②相手先名	③電話番号	④着信動作	⑤着信呼出音	⑥
2	AP-5100VoIP	888	両方に着信	呼出音1	追加

①番号 ………………………… 最大20件の相手先電話番号が登録できます。
1～20までの数字を半角で入力します。

②相手先名 …………………… 相手の名前を任意の英数字[半角31文字以内]で入力します。

③電話番号 …………………… 相手から通知される電話番号を入力します。
◎相手と「Peer to Peer」で通話するときは、任意の数字(半角31桁以内)で入力します。
◎「Peer to Peer」でのセレクト着信では、相手から通知されるSIP URIがVoIP電話帳に登録されており、その電話番号をここに登録する必要があります。
◎相手と加入電話回線または「SIPサーバ(フュージョン·コミュニケーションズなど)」で通話するときは、相手の電話番号を入力します。

④着信動作 …………………… 着信動作を「両方に着信」、「TEL1のみ着信」、「TEL2のみ着信」、「着信拒否」から指定します。
◎両方に着信：「電話番号」欄に設定した電話番号からの着信を両ポートに許可します。「着信呼出音」を設定することにより個別の着信音で鳴りわけをすることができます。
※「優先着信設定」が優先されます。
◎TEL1/TEL2のみ着信
：「電話番号」欄に設定した電話番号からの着信を設定したポート側にのみ許可します。「着信呼出音」を設定することにより個別の着信音で鳴りわけをすることができます。
◎着信拒否　：「電話番号」欄に設定した電話番号からの着信を拒否します。

1-7.「着信設定」画面

■セレクト着信設定(つづき)

電話設定
- 接続設定
- 電話設定:TEL1
- 電話設定:TEL2
- ISDN設定
- SIP設定
- 簡易サーバ設定
- VoIP詳細設定
- 着信設定
- VoIP電話帳

⑤**着信呼出音** …………………… 「着信動作」欄で「着信許可」に登録した電話番号の着信音パターンを[呼出音1]、[呼出音2]、[呼出音3]から選択します。

⑥**追加** ………………………… 入力した内容(①～⑤)を[現在の登録]項目の各欄に登録するボタンです。

■**現在の登録**

[セレクト着信設定]項目から登録した内容を表示します。
最大20件まで、下記のように表示します。

電話設定
- 接続設定
- 電話設定:TEL1
- 電話設定:TEL2
- ISDN設定
- SIP設定
- 簡易サーバ設定
- VoIP詳細設定
- 着信設定
- VoIP電話帳

現在の登録

①	番号	相手先名	電話番号	着信動作	着信呼出音	②
編集	2	AP-5100VoIP	888	両方に着信	呼出音1	削除

①**編集** ………………………… このボタンの右に表示された内容を編集するボタンです。

②**削除** ………………………… このボタンの左に表示された内容を削除するボタンです。

1-8.「VoIP電話帳」画面

■電話帳の保存と書き込み

[現在の登録]項目に登録された電話帳のデータを保存したり、本製品の[現在の登録]項目に書き込んだりします。

電話設定
- 接続設定
- 電話設定:TEL1
- 電話設定:TEL2
- ISDN設定
- SIP設定
- 簡易サーバ設定
- VoIP詳細設定
- 着信設定
- VoIP電話帳

VoIP電話帳
Peer to Peerの発信等で使用するVoIP電話帳への登録を行います。

電話帳の保存と書き込み	
保存したファイルを書き込む ①	参照... 書き込み CSV形式のファイルが書き込みできます。 ファイルを書き込むと、現在の設定は破棄されます。
ファイルに保存する ②	ファイルに保存 voiptbl.csvで保存されます。

①保存したファイルを書き込む ……………………

パソコンに保存された「電話帳登録ファイル」の内容を本製品に書き込むとき操作します。

[ファイルに保存する](②)欄の操作で保存した「電話帳登録ファイル」の保存先をテキストボックスに直接入力するか、〈参照...〉ボタンをクリックすると表示される画面から目的の「電話帳登録ファイル」を指定します。

テキストボックスに保存先を指定後、〈書き込み〉ボタンをクリックすると、[現在の登録]項目(☞P73)にその内容を書き込みます。

書き込む前の内容は、消去されますのでご注意ください。

※「電話帳登録ファイル」を書き込んだあと、「設定保存」画面(☞7-3章)で保存された設定ファイルを書き込むと、後から書き込んだ設定ファイルの内容に上書きしますので、ご注意ください。

②ファイルに保存する ………

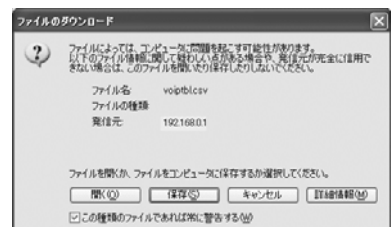
[現在の登録]項目の内容を「電話帳登録ファイル」として、パソコンに保存します。

画面上で[ファイルに保存]をクリックすると、表示される画面から〈保存〉をクリックしてください。

ファイル形式(拡張子)は、「.csv」で保存されます。

保存したファイルは、表計算やデータベースアプリケーションで編集できます。

また、保存した「電話帳登録ファイル」は、本製品を使用する複数の相手に書き込みできます。

1

1-8.「VoIP電話帳」画面(つづき)

■登録の追加

電話設定
- 接続設定
- 電話設定:TEL1
- 電話設定:TEL2
- ISDN設定
- SIP設定
- 簡易サーバ設定
- VoIP詳細設定
- 着信設定
- VoIP電話帳

IP電話でかける相手の電話番号を登録します。
FOMA N900iLよりWLANブラウザからアクセスし、表示されるVoIP電話帳をFOMA N900iL自身の電話帳に登録することができます。

※「接続設定」画面の[接続方法の選択]欄(☞P5)で「Peer to Peer」を設定したときは、[電話番号]欄と[SIP URI]欄を併せて設定してください。
「SIPサーバ(フュージョン･コミュニケーションズなど)」を設定したときは、登録が不要で、相手先の電話番号を直接ダイヤルすると発信します。

登録の追加		
番号	①	1 ⑧追加
名前	②	AP-5100VoIP
ﾖﾐｶﾞﾅ	③	
電話番号	④	5200
SIP URI	⑤	sip: ap5.1VoIP@172.20.30.101
E-Mailアドレス	⑥	xxxx@xxxx.co.jp
発信先の選択	⑦	電話設定にあわせる

①番号 ……………………………

最大200件の相手先電話番号が登録できます。
1～200までの数字を半角で入力します。
※番号を指定しない場合は、登録に使用されていない番号の中で、小さいものから順に、自動的に指定します。

②名前 ……………………………

相手の名前を任意の文字[半角31(全角15)文字以内]で入力します。

③ヨミガナ ………………………

相手のヨミガナを任意の文字[半角31文字以内]で入力します。
※半角カタカナ、半角英数字が設定できます。
※全角カナは半角カタカナに変換されます。

④電話番号 ………………………

電話機からダイヤルする電話番号を入力します。
なお、110、118、119で始まる番号は、登録できません。
※相手と「Peer to Peer」で通話するときは、任意の数字(半角31桁以内)と記号(#、＊、–)で入力します。
なお、＊(アスタリスク)ではじまる番号を登録しても発信できません。

1-8.「VoIP電話帳」画面

■登録の追加(つづき)

電話設定
- 接続設定
- 電話設定:TEL1
- 電話設定:TEL2
- ISDN設定
- SIP設定
- 簡易サーバ設定
- VoIP詳細設定
- 着信設定
- VoIP電話帳

登録の追加		
番号	①	1 ⑧追加
名前	②	AP-5100VoIP
ﾖﾐｶﾞﾅ	③	
電話番号	④	5200
SIP URI	⑤	sip:ap5.1VoIP@172.20.30.101
E-Mailアドレス	⑥	xxxx@xxxx.co.jp
発信先の選択	⑦	電話設定にあわせる

⑤SIP URI ……………………… SIPサーバを中継せず、「Peer to Peer」で発信する場合、相手の[SIP URI]、または直接発信で発信するときの直接発信先を、半角英数字(63文字以内)で入力します。
[電話番号]欄に設定した電話番号を電話機からダイヤルをすると、[SIP URI]欄に入力した宛先に電話をかけます。
◎[発信先の選択](⑤)欄を「電話設定にあわせる」または「VoIPのみ」に設定する場合は、下記のどちらかで入力します。
「sip：[SIPユーザー名@相手先のIPアドレス]」
「sip：[SIPユーザー名@ホスト名.ドメイン名]」
◎[発信先の選択](⑤)欄を「直接発信プレフィクス」に設定する場合は、下記のどちらかで入力します。
「sip：[@相手先のIPアドレス]」
「sip：[@ホスト名.ドメイン名]」

⑥E-Mailアドレス …………… 相手のE-Mailアドレスを「[ユーザー名]@[ホスト名.ドメイン名]」の書式で入力します。
※「@」も含めて半角127文字まで設定できます。
※FOMA N900iL自身の電話帳に登録するときに使用します。

⑦発信先の選択 ……………… 「VoIP電話帳」画面に登録された電話番号を電話機からダイヤルしたとき、その発信先を設定します。
(出荷時の設定：電話設定にあわせる)
◎電話設定にあわせる：
発信先を「電話設定」メニューの「接続設定」画面にある[標準発信先]欄の設定にしたがいます。
◎VoIPのみ：
「電話設定」メニューの「接続設定」画面にある[標準発信先]欄で「自動切替(VoIP優先)」を設定している場合、インターネット回線にだけ発信します。

☞次ページへつづく

1-8.「VoIP電話帳」画面

■登録の追加(つづき)

電話設定
- 接続設定
- 電話設定:TEL1
- 電話設定:TEL2
- ISDN設定
- SIP設定
- 簡易サーバ設定
- VoIP詳細設定
- 着信設定
- VoIP電話帳

登録の追加		
番号	①	1 ⑧追加
名前	②	AP-5100VoIP
ﾖﾐｶﾞﾅ	③	
電話番号	④	5200
SIP URI	⑤	sip:ap5.1VoIP@172.20.30.101
E-Mailアドレス	⑥	xxxx@xxxx.co.jp
発信先の選択	⑦	電話設定にあわせる

⑦発信先の選択(つづき) ……

◎直接発信プレフィクス：

[電話番号](③)欄に登録された番号と電話機からダイヤルした電話番号の先頭部分(電話回線発信番号を除く)が一致したときだけ、[直接発信設定]項目の[ホストアドレス設定(01～25)]欄に設定された相手に発信します。

※[SIP URI]に設定したホストアドレスが話中のときは、「SIP設定」画面にある[直接発信設定]項目に登録したIPアドレスの01番から順に発信します。

〈設定例〉

直接発信プレフィクス番号として、[電話番号](③)欄に「9」、[SIP URI](④)欄に「@example.com」が設定されているとき、「9×××××××××」(×は任意の番号)へダイヤルした場合、宛先[SIP URI]は、「9xxxxxxxxx@example.com」になり、example.comへ向けて発信します。(example.comは、IPアドレスでも設定できます。)

◎電話回線のみ：

発信先を「電話設定」メニューの「接続設定」画面にある[標準発信先]欄の設定に関係なく、一般加入電話回線にだけ発信します。

◎電話回線プレフィクス：

[電話番号]欄に登録された番号と電話機からダイヤルした電話番号の先頭部分(電話回線発信番号を除く)が一致したとき、本製品の[LINE]ポートに接続された一般加入電話回線へ発信します。

〈設定例〉

「090」を電話回線プレフィクスに設定している場合、「090×××××××××」(×は任意の番号)は、本製品の[LINE]ポートに接続された一般加入電話回線だけに発信します。

⑧〈追加〉 ……………………… 入力した内容(①～⑦)を[現在の登録]項目の各欄に登録するボタンです。

1-8.「VoIP電話帳」画面(つづき)

■現在の登録

電話設定
- 接続設定
- 電話設定:TEL1
- 電話設定:TEL2
- ISDN設定
- SIP設定
- 簡易サーバ設定
- VoIP詳細設定
- 着信設定
- VoIP電話帳

[登録の追加]項目で登録した内容を表示します。

現在の登録

①	番号	名前	電話番号	SIP URI	発信先の選択	②
編集	1	AP-5100VoIP	5200	sip:ap5.1VoIP@172.20.30.101	電話設定にあわせる	削除
編集	2	直接発信先	9	-	直接発信プレフィクス	削除

①〈編集〉………………………… ボタンの右に表示された内容を修正するときクリックします。
クリックすると、[登録の追加](①～⑦)欄(☞P70～P72)にその内容を表示します。
※[登録の追加]項目で登録した[ヨミガナ]、[E-Mailアドレス]欄の内容は、登録されていますが、[現在の登録]欄に表示されません。

②〈削除〉………………………… ボタンの右に表示された内容を削除するときクリックします。

1-9.直接発信の設定例

※代理発信機能は、簡易中継サーバ機能(☞1-5章)と併用できません。

■Peer to Peerの相手に直接発信して通話する場合

それぞれのルータは、IP電話できる状態に設定されているものとして説明しています。

AP-5100VoIP(接続先：Peer to Peer)
直接発信
A
[LAN]
172.15.0.10
通話
SR-5000VoIP(接続先：Peer to Peer)
電話番号：5000
C
SR-5200VoIP
(接続先：Peer to Peer)
IP電話
代理発信
170.10.0.30
通話
B
一般加入
電話回線
代理発信
171.35.0.20
電話番号：06-9999-××××

〈ルータ：Aの設定〉

☞次ページへつづく

1-9.直接発信の設定例

■Peer to Peerの相手に直接発信して通話する場合

〈ルータ：Aの設定〉（つづき）

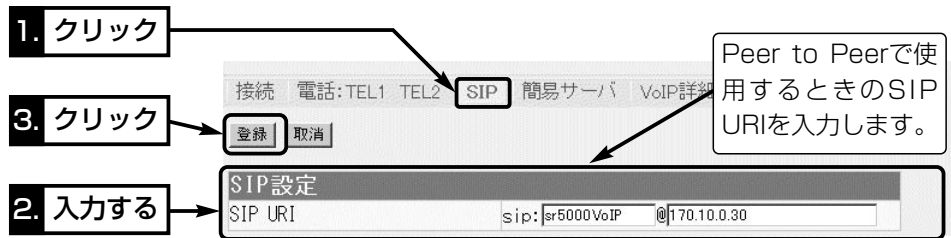
直接発信プレフィクスとして使用する電話番号「9(例)」は、[ルータ：A]と[ルータ：B]で同じ設定をします。

〈ルータ：Bの設定〉

☞次ページへつづく

1-9.直接発信の設定例

■Peer to Peerの相手に直接発信して通話する場合(つづき)

〈ルータ：Cの設定〉

〈IP電話の相手に電話するときは〉

[ルータ：A]に接続した電話機から「95000」とダイヤルすると、[ルータ：B]から直接発信プレフィクスとして設定された電話番号を除いた番号で、[ルータ：B]の電話帳に登録された電話番号「5000」の相手([ルータ：C]の電話機)へ代理発信します。

〈一般加入電話回線の相手に電話するときは〉

[ルータ：A]に接続した電話機から「9069999××××」とダイヤルすると、[ルータ：B]から直接発信プレフィクスとして設定された電話番号を除いた番号(069999××××)で代理発信します。

〈代理発信機能について〉

設定した[SIP URI]に着信したとき、直接発信プレフィクス設定に一致する番号でない場合は、そのまま着信し呼出音が鳴ります。

設定した[SIP URI]に着信したとき、直接発信プレフィクス設定に一致する番号の場合は、直接発信プレフィクス番号を取り除いた番号へ発信します。

※この時、発信先(VoIP、アナログ公衆電話回線)の切り替えなどは「VoIP電話帳」、「標準発信先」設定などの条件から決定されます。

※簡易中継サーバ機能を使用する場合は、代理発信機能は無効となります。(直接発信は可能です。)

1-9.直接発信の設定例(つづき)

■SIPサーバの相手に直接発信して通話する場合

それぞれのルータは、IP電話できる状態に設定されているものとして説明しています。

AP-5100VoIP(接続先：Peer to Peer)
直接発信
A
[LAN]
172.15.0.10
通話
SR-5000VoIP(接続先：SIPサーバ)
電話番号：050-1111-××××
C
SR-5200VoIP
(接続先：SIPサーバ)
IP電話
代理発信
170.10.0.30
通話
B
一般加入
電話回線
代理発信
171.35.0.20
電話番号：06-9999-××××

〈ルータ：Aの設定〉

☞次ページへつづく

1-9.直接発信の設定例

■SIPサーバの相手に直接発信して通話する場合

〈ルータ：Aの設定〉（つづき）

直接発信プレフィクスとして使用する電話番号「9(例)」は、[ルータ：A]と[ルータ：B]で同じ設定をします。

〈ルータ：Bの設定〉

1-9.直接発信の設定例

■SIPサーバの相手に直接発信して通話する場合(つづき)

〈ルータ：Cの設定〉

〈IP電話の相手に電話するときは〉

[ルータ：A]に接続した電話機から「90501111××××」とダイヤルすると、[ルータ：B]から直接発信プレフィックスとして設定された電話番号を除いた番号(0501111××××)で代理発信します。

※通話する相手がSIPサーバを使用しているため、相手の電話番号を[ルータ：B]の電話帳に登録する必要はなく、[ルータ：B]から代理発信(0501111××××)します。

〈一般加入電話回線の相手に電話するときは〉

[ルータ：A]に接続した電話機から「9069999××××」とダイヤルすると、[ルータ：B]から直接発信プレフィックスとして設定された電話番号を除いた番号(069999××××)で代理発信します。

〈代理発信機能について〉

設定した[SIP URI]に着信したとき、直接発信プレフィックス設定に一致する番号でない場合は、そのまま着信し呼出音が鳴ります。

設定した[SIP URI]に着信したとき、直接発信プレフィックス設定に一致する番号の場合は、直接発信プレフィックス番号を取り除いた番号へ発信します。

※この時、発信先(VoIP、アナログ公衆電話回線)の切り替えなどは「VoIP電話帳」、「標準発信先」設定などの条件から決定されます。

※簡易中継サーバ機能を使用する場合は、代理発信機能は無効となります。(直接発信は可能です。)

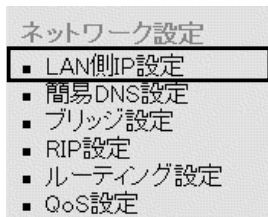
1

「ネットワーク設定」メニュー

第2章

この章では、
「ネットワーク設定」メニューで表示される設定画面について説明します。

2-1.「LAN側IP設定」画面

■本体名称/IPアドレス設定

本製品の名称とLAN側IPアドレスを設定します。

ネットワーク設定
- LAN側IP設定
- 簡易DNS設定
- ブリッジ設定
- RIP設定
- ルーティング設定
- QoS設定

LAN側IP設定
本体をネットワークに接続するための設定を行います。

登録 取消 登録して再起動 本体IPアドレス／サブネットマスクの設定および VLAN設定は再起動後に有効になります。

本体名称／IPアドレス設定		
本体名称	①	AP-5100VoIP
IPアドレス	②	192.168.0.1
サブネットマスク	③	255.255.255.0
プライマリDNSサーバ	④	
セカンダリDNSサーバ	⑤	

〈登録〉ボタン ……………………「LAN側IP設定」画面の設定内容を変更したとき、[本体名称/IPアドレス設定]項目の[IPアドレス]欄と[サブネットマスク]欄、および[VLAN設定]項目以外の設定内容が有効になります。
※[IPアドレス]欄と[サブネットマスク]欄、および[VLAN設定]項目を変更した場合は、画面上で確定されますが、〈登録して再起動〉をクリックするまで有効になりません。

〈取消〉ボタン ……………………「LAN側IP設定」画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

〈登録して再起動〉ボタン ……本製品を再起動して、「LAN側IP設定」画面で変更したすべての設定内容が有効になります。

①本体名称 ……………………… ネットワーク上で、本製品を識別する名前です。
設定した名前は、本製品とLANケーブルで接続されたパソコンから、本製品に直接アクセスするためのドメイン名の一部として使えます。　(出荷時の設定：AP-5100VoIP)

入力形式：[http://web.本体名称/]

この場合、[DHCPサーバ設定]項目の[DNS代理応答を使用]欄を「する」(出荷時の設定)に設定しておく必要があります。
また、ほかのネットワーク機器と重複しないように、アルファベットで始まる半角英数字(A～Z、0～9、－)、31文字以内で設定します。
※登録できない文字は、「＃ ％ / ： ？ @ ￥ ’ 」の8種類です。
※全角文字(15文字以内)も入力できますが、DNSサーバの代理応答機能は利用できなくなります。

2-1.「LAN側IP設定」画面

■本体名称/IPアドレス設定(つづき)

ネットワーク設定
- LAN側IP設定
- 簡易DNS設定
- ブリッジ設定
- RIP設定
- ルーティング設定
- QoS設定

LAN側IP設定

本体をネットワークに接続するための設定を行います。

登録　取消　登録して再起動　本体IPアドレス／サブネットマスクの設定およびVLAN設定は再起動後に有効になります。

本体名称／IPアドレス設定		
本体名称	①	AP-5100VoIP
IPアドレス	②	192.168.0.1
サブネットマスク	③	255.255.255.0
プライマリDNSサーバ	④	
セカンダリDNSサーバ	⑤	

②IPアドレス ……………………

本製品のLAN側IPアドレスを入力します。
(出荷時の設定：192.168.0.1)
本製品を稼働中のネットワークに接続するときなど、そのLANに合わせたネットワークIPアドレスに変更してください。
※本製品のDHCPサーバ機能を使用する場合は、[DHCPサーバ設定]項目の[割り当て開始IPアドレス]欄についてもネットワーク部を同じに設定してください。

③サブネットマスク …………

本製品のサブネットマスク(同じネットワークで使用するIPアドレスの範囲)を設定します。　(出荷時の設定：255.255.255.0)
本製品を稼働中のネットワークに接続するときなど、そのLANに合わせたサブネットマスクに変更してください。

[例]
サブネットマスクを「255.255.255.248」と設定する場合、「192.168.0.2～192.168.0.6」が同じネットワークとしてパソコンに割り当てできます。
この場合、下記のIPアドレスはパソコンに割り当てできません。
「192.168.0.0」：ネットワークアドレス
「192.168.0.1」：本製品のLAN側IPアドレス
「192.168.0.7」：ブロードキャストアドレス

④プライマリDNSサーバ ……

DNSサーバが本製品のLAN側に存在するとき、そのDNSサーバのアドレスを入力します。
入力すると、本製品は、このアドレスを参照します。
必要に応じて使い分けたいDNSサーバのアドレスが2つある場合は、優先したい方のアドレスを入力します。
※本製品のWAN側にだけDNSサーバが存在する場合は、設定の必要はありません。

⑤セカンダリDNSサーバ ……

[プライマリDNSサーバ]欄と同様に、使い分けたいDNSサーバアドレスのもう一方を入力します。

2-1.「LAN側IP設定」画面(つづき)

■VLAN設定

ネットワーク設定
- LAN側IP設定
- 簡易DNS設定
- ブリッジ設定
- RIP設定
- ルーティング設定
- QoS設定

VLAN機能についての設定です。

①**マネージメントID** ………… 本製品に設定された同じID番号を持つネットワーク上の機器からのアクセスだけを許可できます。 (出荷時の設定：0)
設定できる範囲は、「0～4095」です。
※VLAN IDを使用しないネットワークから本製品にアクセスするときは、「0」を設定します。

2-1.「LAN側IP設定」画面(つづき)

■DHCPサーバ設定

DHCPサーバ機能についての設定です。

ネットワーク設定
- LAN側IP設定
- 簡易DNS設定
- ブリッジ設定
- RIP設定
- ルーティング設定
- QoS設定

DHCPサーバ設定		
DHCPサーバ機能を使用①	○しない ⊙する	
割り当て開始IPアドレス ②	192.168.0.10	
割り当て個数 ③	30 個	
サブネットマスク ④	255.255.255.0	
リース期間 ⑤	72 時間	
ドメイン名 ⑥		
デフォルトゲートウェイ ⑦	192.168.0.1	
プライマリDNSサーバ ⑧		DNSの代理応答機能を使用する場合は無効となります。
セカンダリDNSサーバ ⑨		
プライマリWINSサーバ ⑩		
セカンダリWINSサーバ ⑪		

①**DHCPサーバ機能を使用** …

本製品をDHCPサーバとして使用するかしないかを設定します。
本製品のLAN側に有線および無線で接続しているパソコンのTCP/IP設定を、「IPアドレスを自動的に取得する」と設定している場合、本製品のDHCPクライアントになります。
この機能によって、動的にDHCPサーバである本製品からIPアドレス/サブネットマスク、ルータやDNSサーバのIPアドレス/ドメイン名が与えられます。　(出荷時の設定：する)

②**割り当て開始IPアドレス** …

本製品に有線および無線で直接接続するパソコンへ、IPアドレスを自動で割り当てるときの開始アドレスを設定します。
(出荷時の設定：192.168.0.10)

③**割り当て個数** ………………

[割り当て開始IPアドレス]欄に設定されたIPアドレスから連続で自動割り当て可能なアドレスの最大個数は、0～128までです。
(出荷時の設定：30)
※128個を超える分については、設定できませんので手動でクライアントに割り当ててください。
※「0」を設定したときは、自動割り当てをしません。

④**サブネットマスク** …………

[割り当て開始IPアドレス]欄に設定されたIPアドレスに対するサブネットマスクです。　(出荷時の設定：255.255.255.0)

⑤**リース期間** …………………

DHCPサーバがローカルIPアドレスを定期的に自動でパソコンに割り当てなおす期限を時間で指定します。
設定できる範囲は、「1～9999(時間)」です。
(出荷時の設定：72)

2

2-1.「LAN側IP設定」画面
■DHCPサーバ設定(つづき)

ネットワーク設定
- LAN側IP設定
- 簡易DNS設定
- ブリッジ設定
- RIP設定
- ルーティング設定
- QoS設定

DHCPサーバ設定			
DHCPサーバ機能を使用	①	○しない ◉する	
割り当て開始IPアドレス	②	192.168.0.10	
割り当て個数	③	30 個	
サブネットマスク	④	255.255.255.0	
リース期間	⑤	72 時間	
ドメイン名	⑥		
デフォルトゲートウェイ	⑦	192.168.0.1	
プライマリDNSサーバ	⑧		DNSの代理応答機能を使用する場合は無効となります。
セカンダリDNSサーバ	⑨		
プライマリWINSサーバ	⑩		
セカンダリWINSサーバ	⑪		

⑥ドメイン名 …………………… ドメイン名を使用しているときや、プロバイダーからドメイン名を指定されたときなど必要があれば、DHCPサーバが有線および無線で接続するパソコンに通知するネットワークアドレスのドメイン名を、入力(半角英数字：127文字以内)します。

⑦デフォルトゲートウェイ … ご契約のプロバイダーやネットワーク管理者から指定された場合に限り、LAN側に通知するゲートウェイを入力します。
(出荷時の設定：192.168.0.1)

⑧プライマリDNSサーバ …… 本製品のDHCPサーバ機能を使用する場合に有効な機能で、必要に応じて使い分けたいDNSサーバのアドレスが2つある場合は、優先したい方のアドレスを入力します。
入力すると、本製品のIPアドレスの代わりに設定したDNSサーバアドレスをDHCPクライアントに通知します。
※プライマリDNSサーバとセカンダリDNSサーバは、「簡易DNS設定」画面の[DNSサーバ設定]項目で、[DNS代理応答を使用]欄を「する」(出荷時の設定)に設定する場合は、無効になります。

⑨セカンダリDNSサーバ …… [プライマリDNSサーバ]欄と同様に、使い分けたいDNSサーバアドレスのもう一方を入力します。

⑩プライマリWINSサーバ … 「セカンダリWINSサーバ」と同様に、WINSサーバのアドレスが2つある場合は、残りの一方を入力します。

⑪セカンダリWINSサーバ … 「プライマリWINSサーバ」と同様に、WINSサーバのアドレスが2つある場合は、残りの一方を入力します。

2-1.「LAN側IP設定」画面(つづき)

■静的DHCPサーバ設定

ネットワーク設定
- LAN側IP設定
- 簡易DNS設定
- ブリッジ設定
- RIP設定
- ルーティング設定
- QoS設定

特定のパソコンに割り当てるIPアドレスを固定するとき設定します。

静的DHCPサーバ設定		
登録の追加		
MACアドレス	IPアドレス	
		追加
現在の登録		
MACアドレス	IPアドレス	

DHCPサーバ機能を使用して自動的に割り当てるIPアドレスを、特定のパソコンに固定するとき、パソコンのMACアドレスとIPアドレスの組み合わせを登録する欄です。
※入力後は、〈追加〉をクリックしてください。
※最大16個の組み合わせまで登録できます。
　登録するパソコンのIPアドレスは、DHCPサーバ機能による割り当て範囲および本製品のIPアドレスと重複しないように指定してください。
【登録例】
登録した内容を取り消すときは、該当する欄の〈削除〉をクリックします。

現在の登録		
MACアドレス	IPアドレス	
00-90-C7-6C-00-14	192.168.0.50	削除

2-2.「簡易DNS設定」画面

■DNSサーバ設定

本製品を代理DNSサーバとして使用するかしないかの設定です。

ネットワーク設定
- LAN側IP設定
- 簡易DNS設定
- ブリッジ設定
- RIP設定
- ルーティング設定
- QoS設定

簡易DNS設定
DNSに関する設定を行います。

登録 取消

DNSサーバ設定
DNSサーバの代理応答を使用 ○しない ◉する

〈登録〉ボタン ……………………
「簡易DNS設定」画面で変更したすべての設定内容が有効になります。

〈取消〉ボタン ……………………
「簡易DNS設定」画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

DNSサーバの代理応答 ………
代理DNSサーバ機能とは、パソコンからのDNS要求をプロバイダー側のDNSサーバへ転送する機能です。（出荷時の設定：する）
代理DNSサーバ機能を利用すると、ネットワーク上のパソコンのDNSサーバを本製品のアドレスに設定している場合、本製品が接続する先のDNSサーバのアドレスが変更になったときでも、パソコンの設定を変更する必要がありませんので便利です。

2-2.「簡易DNS設定」画面(つづき)

■簡易DNSサーバ設定

ネットワーク設定
- LAN側IP設定
- 簡易DNS設定
- ブリッジ設定
- RIP設定
- ルーティング設定
- QoS設定

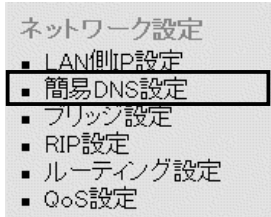
本製品を簡易DNSサーバとして使用するとき設定します。

簡易DNSサーバ設定 (DNSサーバの代理応答機能を有効にしておく必要があります。)		
登録の追加		
IPアドレス	ホスト名	
		追加
現在の登録		
IPアドレス	ホスト名	

DNSサーバの代理機能を利用して、本製品を簡易DNSサーバとして使用できます。
簡易DNSサーバを使用するときは、パソコンのホスト名と対応するIPアドレスの組み合わせを登録します。
登録すると、ドメイン名からIPアドレスを検索するDNS要求と、IPアドレスからドメイン名を検索するDNS逆引き要求に応答します。
ホスト名として「ホスト名.ドメイン名」を登録しておくと、ホスト名のみ一致する場合でも応答します。
※入力後は、〈追加〉ボタンをクリックしてください。
※最大16件の組み合わせまで登録できます。
※ローカルなIPアドレスとそのホスト名を登録するときは、静的DHCPサーバを利用してMACアドレスとIPアドレスの組み合わせを固定しておくことをおすすめします。

2

2-2.「簡易DNS設定」画面(つづき)

■URLフィルタ設定

特定のURLへのアクセスを禁止するとき設定します。

この画面に登録されたURL情報や発信元のIPアドレスをもとに、特定の発信先へのデータを遮断できます。

※この機能を利用するときは、本製品の代理DNSサーバ機能を併用してください。

※入力後は、〈追加〉ボタンをクリックしてください。

※最大32件まで登録できます。

ネットワーク設定
- LAN側IP設定
- 簡易DNS設定
- ブリッジ設定
- RIP設定
- ルーティング設定
- QoS設定

URLフィルタ設定			
登録の追加			
相手先URL ①	発信元IP ②	動作	
		破棄する	追加
現在の登録			
相手先URL	発信元IP	動作	

①相手先URL ……………………
遮断したい相手先のドメイン名を入力します。
ワイルドカードとして、「?」「*」が使用できます。また「?」は任意の1文字、「*」は任意の文字列として認識されます。
たとえば、「*.icom.co.jp」を指定したときは、「www.icom.co.jp」や「mail.icom.co.jp」へのデータが遮断されます。

②発信元IP ………………………
ローカル側の発信元IPアドレスを入力します。
指定しない場合は、すべてのIPアドレスに対して指定のURLへのアクセスを遮断します。

2-3.「ブリッジ設定」画面

■ブリッジ設定

スパニングツリー機能をブリッジ通信する本製品に設定します。

ネットワーク設定
- LAN側IP設定
- 簡易DNS設定
- ブリッジ設定
- RIP設定
- ルーティング設定
- QoS設定

ブリッジ設定
ブリッジ機能に関する設定を行います。

登録　取消　登録して再起動　このページの設定は再起動後に有効になります。

ブリッジ設定			
スパニングツリー機能を使用	①		◉しない　○する
ブリッジ優先度(Bridge Priority)	②		32768
エージングタイム(Aging Time)	③		300 秒
マックスエイジ(Max Age)	④		20 秒
ハロータイム(Hello Time)	⑤		2 秒
転送遅延(Forward Delay)	⑥		15 秒
パスコスト(Path Cost)	⑦	有線LAN	100
		無線[802.11g]	200
		無線[802.11a]	200
ポート優先度(Port Priority)	⑧	有線LAN	128
		無線[802.11g]	128
		無線[802.11a]	128

〈登録〉ボタン ……………………
[ブリッジ設定]項目で変更した内容を画面上で確定するボタンです。
※〈登録して再起動〉をクリックするまで有効になりません。

〈取消〉ボタン ……………………
[ブリッジ設定]項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

〈登録して再起動〉ボタン ……
本製品を再起動して、[ブリッジ設定]項目で変更したすべての設定内容を有効にします。

①スパニングツリー機能を使用 …………………………
経路のループを検出し、パケットが無限に循環するのを回避して、最適な経路を作成する機能を使用するかしないかを設定します。
(出荷時の設定：しない)
スパニングツリー機能を設定すると、経路障害のないときは、冗長リンクを検出して重複する経路のうち優先度の低い方を遮断します。
ブリッジ間で経路障害が起こったときは、正常時に遮断されていた経路を使用してネットワークの正常な稼働を保証します。

2-3.「ブリッジ設定」画面

■ブリッジ設定(つづき)

ネットワーク設定
- LAN側IP設定
- 簡易DNS設定
- ブリッジ設定
- RIP設定
- ルーティング設定
- QoS設定

ブリッジ設定
ブリッジ機能に関する設定を行います。

登録 取消 登録して再起動 このページの設定は再起動後に有効になります。

ブリッジ設定			
スパニングツリー機能を使用	①		◉しない ○する
ブリッジ優先度(Bridge Priority)	②		32768
エージングタイム(Aging Time)	③		300 秒
マックスエイジ(Max Age)	④		20 秒
ハロータイム(Hello Time)	⑤		2 秒
転送遅延(Forward Delay)	⑥		15 秒
パスコスト(Path Cost)	⑦	有線LAN	100
		無線[802.11g]	200
		無線[802.11a]	200
ポート優先度(Port Priority)	⑧	有線LAN	128
		無線[802.11g]	128
		無線[802.11a]	128

②ブリッジ優先度 ……………

※出荷時の設定でご使用されることを推奨します。

ブリッジで通信する本製品の優先度を決定する値で、設定値が小さいほど、優先度が高くなります。
設定できる範囲は「0～65535」で、一番優先度が高いAP-5100VoIPが、そのネットワークのルートブリッジになります。
(出荷時の設定：32768)
※同じ値が設定された機器がある場合は、MACアドレスの小さい機器の優先度が高くなります。

③エージングタイム …………

※出荷時の設定でご使用されることを推奨します。

本製品が自動学習したMACアドレスをアドレステーブルに記憶しておく時間を指定します。 (出荷時の設定：300)
設定できる範囲は、「15～1000000(秒)」です。
無通信状態がこの欄に設定された時間つづくと、アドレステーブルから削除されます。

④マックスエイジ ……………

※出荷時の設定でご使用されることを推奨します。

BPDU(Bridge Protocol Data Unit)を指定します。
設定できる範囲は、「6～40(秒)」です。 (出荷時の設定：20)

⑤ハロータイム ………………

※出荷時の設定でご使用されることを推奨します。

本製品がルートブリッジとして動作するとき、本製品からBPDU情報を送出する間隔を設定します。
設定できる範囲は、「1～10(秒)」です。 (出荷時の設定：2)

2-3.「ブリッジ設定」画面
■ブリッジ設定(つづき)

ネットワーク設定
- LAN側IP設定
- 簡易DNS設定
- ブリッジ設定
- RIP設定
- ルーティング設定
- QoS設定

ブリッジ設定
ブリッジ機能に関する設定を行います。

登録　取消　登録して再起動　このページの設定は再起動後に有効になります。

ブリッジ設定			
スパニングツリー機能を使用	①		◉しない　○する
ブリッジ優先度(Bridge Priority)	②		32768
エージングタイム(Aging Time)	③		300 秒
マックスエイジ(Max Age)	④		20 秒
ハロータイム(Hello Time)	⑤		2 秒
転送遅延(Forward Delay)	⑥		15 秒
パスコスト(Path Cost)		有線LAN	100
	⑦	無線[802.11g]	200
		無線[802.11a]	200
ポート優先度(Port Priority)		有線LAN	128
	⑧	無線[802.11g]	128
		無線[802.11a]	128

⑥転送遅延 ………………………

※出荷時の設定でご使用されることを推奨します。

ネットワークの再編成中に学習したMACアドレスの有効期限を指定します。
設定できる範囲は、「4～30(秒)」です。　(出荷時の設定：15)

⑦パスコスト ……………………

※出荷時の設定でご使用されることを推奨します。

ネットワーク全体のブリッジとルートブリッジ間の優先データパスの決定に利用される値で、各ポートからルートブリッジまでの経路コストが小さいブリッジが優先されます。
設定できる範囲は、「1～65536」です。
(出荷時の設定：有線LAN：100
無線[802.11g]：200
無線[802.11a]：200)

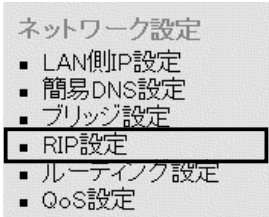
⑧ポート優先度 ………………

※出荷時の設定でご使用されることを推奨します。

ブリッジで通信する本製品のポートごとに優先度を決定する値で、設定値が小さいほど、ポート優先度が高くなります。
設定できる範囲は、「0～255」です。
(出荷時の設定：有線LAN：128
無線[802.11g]：128
無線[802.11a]：128)
※各ポートで同じ値が設定されている場合は、物理的なポート番号の小さい順に優先度が高くなります。

2-4.「RIP設定」画面

■RIP設定

ネットワーク設定
- LAN側IP設定
- 簡易DNS設定
- ブリッジ設定
- RIP設定
- ルーティング設定
- QoS設定

隣接ルータやアクセスポイントと経路情報を交換して、経路を動的に作成するときに使用します。

RIP設定
RIPの設定を行います。

登録 取消 登録して再起動 このページの設定は再起動後に有効になります。

RIP設定		
RIP設定	①	RIP
LAN側RIP動作	②	使用しない
WAN側RIP動作	③	使用しない
認証キー	④	

〈登録〉ボタン ……………………
「RIP設定」画面で変更した内容を画面上で確定するボタンです。
変更した内容は、〈登録して再起動〉をクリックするまで有効になりません。

〈取消〉ボタン ……………………
「RIP設定」画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

〈登録して再起動〉ボタン ……
本製品を再起動して、「RIP設定」画面で変更したすべての設定内容を有効にします。

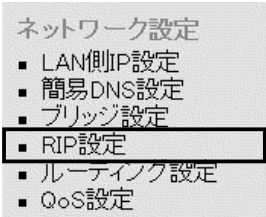
①**RIP設定** ……………………
RIPの種類を選択します。 (出荷時の設定：RIP)
◎RIP ：RIPの「Version 1」を使用します。
◎RIP2(マルチキャスト)：
RIPの「Version2」を使用して、マルチキャストアドレスにパケットを送信します。
◎RIP2(ブロードキャスト)：
RIPの「Version2」を使用して、ブロードキャストアドレスにパケットを送信します。

【RIP2について】
RIP2は、可変長サブネットマスクに対応していますので、イントラネット環境でも利用できます。
受信については、ブロードキャスト/マルチキャストの区別なく受け入れます。

②**LAN側RIP動作** ……………
[RIP設定]欄で選択したLAN側のRIP動作について、「使用しない」、「受信のみ」、「送信も受信も行う」から選択します。
(出荷時の設定：使用しない)

2-4.「RIP設定」画面

■RIP設定(つづき)

ネットワーク設定
- LAN側IP設定
- 簡易DNS設定
- ブリッジ設定
- RIP設定
- ルーティング設定
- QoS設定

③WAN側RIP動作 ……………　[RIP設定]欄で選択したWAN側のRIP動作について、「使用しない」、「受信のみ」、「送信も受信も行う」から選択します。

(出荷時の設定：使用しない)

④認証キー ……………………　[RIP設定](①)欄で、「RIP2(マルチキャスト)」または「RIP2(ブロードキャスト)」を設定する場合、そのRIP動作を認証するためのキーを入力します。

入力は、大文字/小文字の区別に注意して、半角15文字以内で入力します。

また、他のルータやアクセスポイントに設定されている認証キーと同じ設定にします。

認証キーを設定すると、「RIP」を設定しているゲートウェイと、異なる認証キーを設定している「RIP2」、および認証キーを設定していない「RIP2」ゲートウェイからのRIPパケットを破棄します。

※[LAN側RIP動作](②)欄で「使用しない」を設定、[WAN側RIP動作](③)欄で「使用しない」を設定、または[RIP設定](①)欄で「RIP」を設定する場合は、設定不要(空白)です。

2-4.「RIP設定」画面(つづき)

■RIPフィルタ設定

RIPフィルターについての設定です。

ネットワーク設定
- LAN側IP設定
- 簡易DNS設定
- ブリッジ設定
- RIP設定
- ルーティング設定
- QoS設定

RIPフィルタ設定			
登録の追加			
フィルタ動作	IPアドレス	サブネットマスク	
無視する			追加
現在の登録			
フィルタ動作	IPアドレス	サブネットマスク	

RIPフィルタ設定………………　同一サブネットで使う複数のアクセスポイントやルータにおいて、特定のアクセスポイントやルータが出力するRIPパケットを受信しないように、そのパケットを出力するアクセスポイントやルータのIPアドレスとサブネットマスクを入力します。

最大16件の登録ができます。

【登録例】

登録した内容を取り消すときは、該当する欄の〈削除〉をクリックします。

現在の登録			
フィルタ動作	IPアドレス	サブネットマスク	
無視する	192.168.0.40	255.255.255.255	削除

2-5.「ルーティング設定」画面

■IP経路情報

ネットワーク設定
- LAN側IP設定
- 簡易DNS設定
- ブリッジ設定
- RIP設定
- ルーティング設定
- QoS設定

ルータがパケットの送信において、そのパケットをどのルータ、またはどの端末に配送すべきかの情報を表示します。この項目には、[スタティックルーティング設定]項目(☞P98)で追加した経路も表示されます。

ルーティング設定
通信経路(ルート)に関する設定を行います。

IP経路情報

①宛先	②サブネットマスク	③ゲートウェイ	④経路	⑤作成	⑥メトリック
0.0.0.0	0.0.0.0	192.168.63.1	wan	static	0
192.168.0.0	255.255.255.0	192.168.0.1	local	static	0
192.168.0.0	255.255.255.255	255.255.255.255	local	misc	0
192.168.0.1	255.255.255.255	192.168.0.1	local	static	0
192.168.0.255	255.255.255.255	255.255.255.255	local	misc	0
192.168.63.0	255.255.255.0	192.168.63.11	wan	static	0
192.168.63.11	255.255.255.255	192.168.63.11	wan	static	0

①宛先 ……………………… ルーティングの対象となるパケットの宛先IPアドレスを表示します。

②サブネットマスク ………… ルーティングの対象となるパケットの宛先IPアドレスに対するサブネットマスクを表示します。

③ゲートウェイ ……………… ルーティングの対象となるパケットの宛先IPアドレスに対するゲートウェイを表示します。

④経路 ……………………… ルーティングの対象となるパケットの宛先IPアドレスに対する転送先インターフェイスを表示します。

◎local：インターフェイスがLAN側の場合です。

◎WAN：回線種別を「DHCP」に設定されていて、インターフェイスがWAN側の場合です。

◎「数字(01～08)：PPPoEの接続先名」：
指定したPPPoE接続先のインターフェイスがWAN側の場合です。

インターフェイスの詳細は、「情報表示」メニューの「ネットワーク情報」画面にある[ネットワーク　インターフェイス　リスト]項目に表示します。

⑤作成 ……………………… どのように経路情報が作成されたかを表示します。

◎static：スタティック(定義された)ルートにより作成

◎rip　：ダイナミック(自動生成された)ルートにより作成

◎misc　：ブロードキャストに関係するフレーム処理で作成

⑥メトリック ………………… [スタティックルーティング設定]項目の[メトリック]欄で設定された値やダイナミックルーティングで作成された経路のコストを表示します。

2

2-5.「ルーティング」画面(つづき)

■スタティックルーティング設定

ネットワーク設定
- LAN側IP設定
- 簡易DNS設定
- ブリッジ設定
- RIP設定
- ルーティング設定
- QoS設定

★NTT東日本のフレッツ·スクウェアをお使いになる場合は、本書8-4章を参考にルーティングテーブルを設定してください。

パケットの中継経路を、意図的に定義するルーティングテーブルです。
登録できるのは、最大32件までです。

スタティックルーティング 設定

登録の追加

①経路	②宛先	③サブネットマスク	④ゲートウェイ	⑤メトリック	⑥
local					追加

現在の登録

経路	宛先	サブネットマスク	ゲートウェイ	メトリック	

①**経路** ……………………………
回路の経路を指定します。
◎local：インターフェイスがLAN側の場合です。
◎WAN：回線種別を「DHCP」に設定されていて、インターフェイスがWAN側の場合です。
◎「数字(01～08)：PPPoEの接続先名」：
指定したPPPoE接続先のインターフェイスがWAN側の場合です。

②**宛先** ……………………………
経路にLAN側を選択したときは、対象となる相手先のIPアドレスを入力します。
経路にWAN側を選択したときは、対象となる相手先のネットワークIPアドレスを入力します。
※IPアドレスは、ゲートウェイのネットワーク部と同じにします。

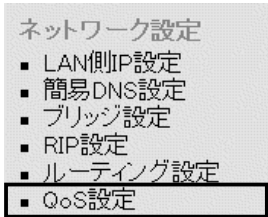
③**サブネットマスク** …………
対象となる宛先のIPアドレスに対するサブネットマスクを入力します。

④**ゲートウェイ** ………………
ルーティングの対象となるパケット転送先ルータのゲートウェイを入力します。
※入力は、[経路]欄で入力したIPアドレスのネットワーク部と同じにします。

⑤**メトリック** …………………
宛先までのコストを表す数値を入力します。
数値が小さければ転送能力の高い回線と見なされ、数値が大きければ転送能力が低い回線と見なされます。
0(空白)～15まで入力できます。

⑥**〈追加〉**………………………
設定した内容で[IP経路情報]項目(☞P97)に登録します。
※操作後は、[現在の登録]欄に登録されたことを確認してください。
登録されると、その内容は[IP経路情報]項目に表示されます。

2-6.「QoS設定」画面

■QoS設定

IP電話による音声の乱れを抑えるときの設定です。

ネットワーク設定
- LAN側IP設定
- 簡易DNS設定
- ブリッジ設定
- RIP設定
- ルーティング設定
- QoS設定

QoS設定

TOSの設定されたパケットを優先して送信するための設定を行います。

登録　取消　登録して再起動　QoSを使用する/しないは再起動後に有効になります。

QoS設定			
QoSを使用 ①	◉しない　○する		
送信帯域制限 ②	WAN	100.0	Mbps
	有線LAN	100.0	Mbps
	無線LAN(11g)	100.0	Mbps
	無線LAN(11a)	100.0	Mbps
	AP間通信(11g)	100.0	Mbps
	AP間通信(11a)	100.0	Mbps

〈登録〉ボタン ……………………

[QoS設定]項目にある[QoSを使用]欄の設定内容を画面上で確定するボタンです。
[QoSを使用]欄の設定を変更したときは、〈登録して再起動〉をクリックするまで有効になりません。
※[QoSを使用]欄以外の[QoS設定]項目にある設定は、有効になります。

〈取消〉ボタン ……………………

[QoS設定]項目の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

〈登録して再起動〉ボタン ……

本製品を再起動して、[QoS設定]項目で変更したすべての設定内容を有効にします。

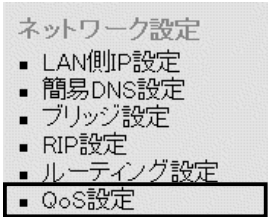
①QoSを使用 ……………………

パケット処理を優先するかしないかを設定します。
(出荷時の設定：しない)
QoS(Quality of Service)を使用すると、[QoSルール設定]項目(☞P100)から登録したQoSルールが有効になり、パケットを優先して送信し、それ以外の送信帯域を制限できます。
「電話設定」メニューの「VoIP詳細設定」画面にある[TOS設定]項目(☞P56)で、[TOS]または[Diffserv]を設定すると、VoIPのパケットのTOSを設定します。

②送信帯域制限 …………………

データを送信できる帯域を各インターフェースごとに設定します。
(出荷時の設定：100.0)
設定された帯域を超えるパケットは破棄されますが、TOSの設定されたパケットは、設定された帯域に関係なく送信されます。
設定できる範囲は、「0.1」間隔で、「0.0～100.0」Mbpsです。
※「0.0」でも通信は完全に遮断できません。

2-6.「QoS設定」画面(つづき)

■QoSルール設定

優先または制限するパケットの条件を、TOS値、プロトコル、ポート番号などで指定します。

※[QoS設定]項目の[QoSを使用]欄を「する」に設定しているとき有効な機能です。

ネットワーク設定
- LAN側IP設定
- 簡易DNS設定
- ブリッジ設定
- RIP設定
- ルーティング設定
- QoS設定

QoSルール設定			
番号		①	[ ] 追加
動作		②	優先する
TOS値書き換え		③	[ ] 16進数で入力
ルール ④	プロトコル	⑤	すべて
	発信元ポート番号	⑥	[ ] ～ [ ]
	宛先ポート番号	⑦	[ ] ～ [ ]
	TOS値	⑧	[ ] ～ [ ] 16進数で入力

①番号 ……………………………

最大8件のQoSルールを登録できます。
設定できる範囲は、「1～8」です。
QoSルールを登録すると、本製品がパケットを受信または送信するごとに、[現在の登録]項目(☞P102)に表示されたルールと比較します。
[番号]欄では、登録されたQoSルールを比較する順位を指定します。
QoSルールを複数設定しているときは、番号の小さい順番に比較を開始します。
QoSルールの条件に一致した時点で、それ以降の識別番号のフィルターは比較しません。
どのQoSルールにも一致しないときは、パケットを優先しません。

〈追加〉ボタン

この項目で新規作成、または編集した内容をQoSルールとして[現在の登録]項目に登録するボタンです。
※QoSのルールは、1つ以上指定してください。
※番号が指定されていないときは、登録できません。

②優先する ………………………

指定のQoSルールに一致したパケットを優先するかしないかの設定です。

③TOS値書き換え ……………

QoSルールに一致したパケットのTOS値だけを、この欄で指定したTOS値に変更するとき設定します。
入力は、16進数(半角英数字)で「00」～「FF」の範囲です。
※何も設定しない(空白の)場合は、TOS値の書き換えをしません。

2-6.「QoS設定」画面

■QoSルール設定(つづき)

ネットワーク設定
- LAN側IP設定
- 簡易DNS設定
- ブリッジ設定
- RIP設定
- ルーティング設定
- QoS設定

QoSルール設定			
番号		①	[ ] 追加
動作		②	優先する
TOS値書き換え		③	[ ] 16進数で入力
ルール ④	プロトコル	⑤	すべて
	発信元ポート番号	⑥	[ ] ～ [ ]
	宛先ポート番号	⑦	[ ] ～ [ ]
	TOS値	⑧	[ ] ～ [ ] 16進数で入力

④ルール ……………………… QoSルールについて、プロトコル(⑤)、ポート番号(⑥,⑦)、TOS値(⑧)の条件を設定します。
※複数の条件を1つのQoSルールに設定している場合は、その条件すべてに該当するパケットがそのルールの対象になります。

⑤プロトコル(ルール) ……… 対象となるパケットのトランスポート層プロトコルを選ぶ項目です。
◎すべて：すべてのプロトコルの条件に一致します。
◎TCP　：TCPプロトコルの条件だけに一致します。
◎UDP　：UDPプロトコルの条件だけに一致します。
◎ICMP：ICMPプロトコルの条件だけに一致します。
◎GRE　：GREプロトコルの条件だけに一致します。

⑥発信元ポート番号(ルール) 対象となる発信元のTCP/UDPポート番号を指定する項目です。
番号を始点から終点まで連続で入力します。
設定できる範囲は、10進数で「1～65535」までの半角数字です。
また、特定のポートだけを指定するときは、始点だけ、または始点/終点に同一の番号を入力してください。
数字で指定しない場合は、ニーモニック(DNS、Finger、FTP、Gopher、NEWS、POP3、SMTP、Telnet、Web、Whois)でも入力できます。

⑦宛先ポート番号(ルール) … 対象となる宛先のTCP/UDPポート番号を指定する項目です。
番号を始点から終点まで連続で入力します。
設定できる範囲は、10進数で「1～65535」までの半角数字です。
また、特定のポートだけを指定するときは、始点だけ、または始点/終点に同一の番号を入力してください。
数字で指定しない場合は、ニーモニック(DNS、Finger、FTP、Gopher、NEWS、POP3、SMTP、Telnet、Web、Whois)でも入力できます。

⑧TOS値(ルール) …………… 対象となるTOS値を始点から終点まで連続で入力します。
入力は、16進数(半角英数字)で「00」～「FF」の範囲です。
また、特定のTOS値だけを指定するときは、始点だけ、または始点/終点に同一の番号を入力してください。

2-6.「QoS設定」画面(つづき)

■現在の登録

ネットワーク設定
- LAN側IP設定
- 簡易DNS設定
- ブリッジ設定
- RIP設定
- ルーティング設定
- QoS設定

[QoSルール設定]項目から登録した内容を表示します。

追加した内容を最大8件まで、下記のように表示します。

現在の登録

	番号	動作	TOS値書き換え	ルール			
				プロトコル	発信元ポート番号	宛先ポート番号	TOS値
編集 削除	1	優先する		すべて			01-FF
編集 削除	2	優先する	02	UDP		5000-5060	

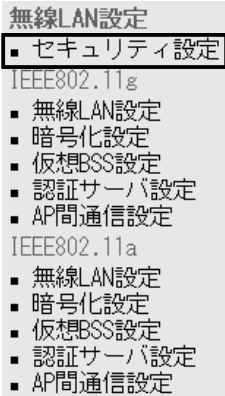
出荷時は、番号「1」だけに、TOS値が「0」でないパケット(「01」〜「FF」)すべてを優先するよう登録されています。
例として、番号「2」には、VoIP関連のパケットを優先できるように、[動作]欄を「優先する」、[プロトコル]欄を「UDP」、[宛先ポート番号]欄を「5000」〜「5060」に設定します。
さらに、TOS値を書き換えるために、[TOS値書き換え]欄を「02」に設定しています。

「無線LAN設定」メニュー

第3章

この章では、
「無線LAN設定」メニューで表示される設定画面について説明します。
※[IEEE802.11g]規格と[IEEE802.11a]規格が別々の設定画面で構成されている画面については、[IEEE802.11g]規格の設定画面を使用して説明しています。

3-1.「セキュリティ設定」画面

■無線端末間通信設定

無線LAN端末どうしが本製品を介して通信するのを禁止するとき設定します。

無線LAN設定
- セキュリティ設定

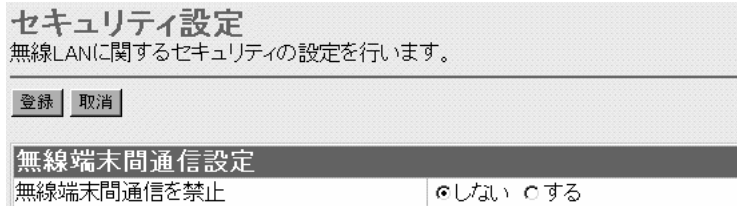
IEEE802.11g
- 無線LAN設定
- 暗号化設定
- 仮想BSS設定
- 認証サーバ設定
- AP間通信設定

IEEE802.11a
- 無線LAN設定
- 暗号化設定
- 仮想BSS設定
- 認証サーバ設定
- AP間通信設定

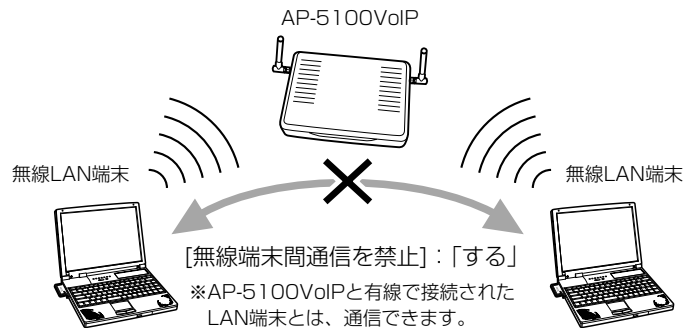
セキュリティ設定

無線LANに関するセキュリティの設定を行います。

[登録] [取消]

無線端末間通信設定	
無線端末間通信を禁止	◉しない ○する

〈登録〉ボタン ………………… 「セキュリティ設定」画面で変更したすべての設定内容が有効になります。

〈取消〉ボタン ………………… 「セキュリティ設定」画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

無線端末間通信を禁止 ……… 無線LAN端末どうしが本製品を介して通信するのを禁止する場合に設定します。 (出荷時の設定：しない)
※本製品を無線ホットスポット接続に利用するときなどは、設定を変更すると本製品を介して無線LAN端末どうしが通信することを禁止できます。

3-1.「セキュリティ設定」画面(つづき)

■MACアドレスフィルタリング設定

無線LAN設定
▪ セキュリティ設定
IEEE802.11g
▪ 無線LAN設定
▪ 暗号化設定
▪ 仮想BSS設定
▪ 認証サーバ設定
▪ AP間通信設定
IEEE802.11a
▪ 無線LAN設定
▪ 暗号化設定
▪ 仮想BSS設定
▪ 認証サーバ設定
▪ AP間通信設定

通信を許可する無線LAN端末のMACアドレスを登録することで、登録していない無線LAN端末からの通信を制限するとき必要な設定です。

MACアドレスフィルタリング設定			
MACアドレスフィルタリングを使用　①		◉しない ○する	
登録の追加　②			
MACアドレス		0090c76e0014	追加
現在の登録　③			
登録済みの端末	受信中の端末	通信状況	
00-90-C7-43-00-12	00-90-C7-43-00-12	通信中	削除
00-90-C7-6E-00-14		登録済	削除
	00-60-B3-00-E1-84	通信不許可	追加

**①MACアドレス
フィルタリングを使用** ……

本製品に登録されたMACアドレスを持つ無線LAN端末だけが、本製品に無線で接続できるようにするかしないかを設定します。

(出荷時の設定：しない)

※「する」を選択すると、[現在の登録]欄に登録されていないMACアドレスを持つ無線LAN端末は、本製品とアクセスできません。

②登録の追加 ……………………

アクセスを許可する無線LAN端末のMACアドレスを入力して、〈追加〉をクリックします。

※登録されたMACアドレスは、[登録済みの端末]欄に表示され、MACアドレスフィルタリングが有効なとき、そのMACアドレスをもつ無線LAN端末とだけ通信できます。

※最大256台分のMACアドレスを登録できます。

※入力は、半角英数字で12桁(16進数)を入力します。

※2つの入力例は、同じMACアドレスになります。

(入力例：00-90-c7-47-00-32、0090c7470032)

③現在の登録 ……………………

無線LAN端末の登録と通信状況を表示します。

〈削除〉ボタンで登録の削除ができます。

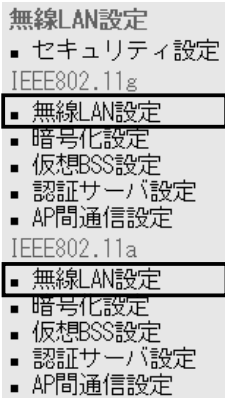
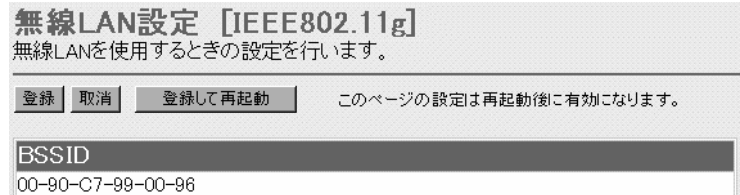
登録されていないMACアドレスを持つ無線LAN端末についても[受信中の端末]欄にMACアドレスを表示しますので、〈追加〉ボタンをクリックして、追加登録できます。

3-2.「無線LAN設定」画面

■BSSID

無線LAN設定
- セキュリティ設定

IEEE802.11g
- 無線LAN設定
- 暗号化設定
- 仮想BSS設定
- 認証サーバ設定
- AP間通信設定

IEEE802.11a
- 無線LAN設定
- 暗号化設定
- 仮想BSS設定
- 認証サーバ設定
- AP間通信設定

本製品に内蔵された無線LANカードの[BSSID]を表示します。

無線LAN設定 [IEEE802.11g]
無線LANを使用するときの設定を行います。

登録 取消 登録して再起動 このページの設定は再起動後に有効になります。

BSSID
00-90-C7-99-00-96

※[IEEE802.11a]規格と[IEEE802.11g]規格は、別々の画面で構成されていますが、説明については、[IEEE802.11g]規格の設定画面を使用して説明します。

〈登録〉ボタン ……………………
「無線LAN設定」画面で変更した内容を画面上で確定するボタンです。
変更した内容は、〈登録して再起動〉をクリックするまで有効になりません。

〈取消〉ボタン ……………………
「無線LAN設定」画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお〈登録〉や〈登録して再起動〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

〈登録して再起動〉ボタン ……
本製品を再起動して、「無線LAN設定」画面で変更したすべての設定内容を有効にします。

BSSID …………………………
「情報表示」メニューの「ネットワーク情報」画面(☞6-3章)に表示される[本体MACアドレス]とは異なります。
※「ユニットを使用していません。」と表示されている場合は、[無線LAN設定]項目の[IEEE802.11gを使用]欄で「する」に設定すると、[BSSID]を表示して、無線通信機能が使用できるようになります。

3-2.「無線LAN設定」画面(つづき)

■無線LAN設定

無線LAN設定
- セキュリティ設定

IEEE802.11g
- 無線LAN設定
- 暗号化設定
- 仮想BSS設定
- 認証サーバ設定
- AP間通信設定

IEEE802.11a
- 無線LAN設定
- 暗号化設定
- 仮想BSS設定
- 認証サーバ設定
- AP間通信設定

本製品に内蔵された無線LANカードに対する設定です。

無線LAN設定		
IEEE802.11gを使用	①	○しない ◉する
SSID	②	LG
ANY接続拒否	③	◉しない ○する
VLAN ID	④	0　VLAN IDを付けない場合は0を入力
チャンネル	⑤	11(2462MHz)
Rts/Ctsスレッシュホールド	⑥	なし
11g保護機能	⑦	有効
11gベーシックレート	⑧	802.11b
パワーレベル	⑨	高
接続端末制限	⑩	255
ビーコン間隔	⑪	100 ミリ秒
DTIM間隔	⑫	1
Super AGを使用	⑬	しない

①IEEE802.11gを使用 ……

※[IEEE802.11a]規格の「無線LAN設定」画面では、[IEEE802.11aを使用]と表示されます。

[IEEE802.11g]規格の無線アクセスポイント機能を停止させるとき設定します。　(出荷時の設定：する)

※[IEEE802.11g]規格の「無線LAN設定」画面で、「しない」を設定すると、[IEEE802.11b]規格の通信もできなくなります。

※[IEEE802.11a]規格の無線アクセスポイント機能を停止させるときは、[IEEE802.11a]規格用の「無線LAN設定」画面で設定します。

※[IEEE802.11g]規格側で、「しない」を設定したときは、無線アクセスポイント機能を停止し、[BSSID]項目に「ユニットを使用していません。」と表示します。

②SSID…………………………

無線ネットワークのグループ分けをするために使用します。

無線ルータや無線アクセスポイントが無線伝送エリア内に複数存在しているような場合、個々の無線ネットワークグループを[SSID(無線ネットワーク名)]で識別したり、異なる無線ネットワーク名で通信するグループからの混信を防止できます。

この[SSID]と異なる無線LAN端末とは通信できません。

大文字/小文字の区別に注意して、任意の英数字、半角31文字以内で入力します。　(出荷時の設定：LG)

※「仮想BSS設定」画面(☞P124)で、[SSID]が登録されている場合は、重複しないように、ご注意ください。
[SSID]が重複すると、仮想BSS設定が無効になります。

※[SSID]と[ESSID]は、同じ意味で使用しています。
本製品以外の無線LAN機器では、[ESSID]と表記されている場合があります。

3

3-2.「無線LAN設定」画面

■無線LAN設定(つづき)

無線LAN設定
■ セキュリティ設定
IEEE802.11g
■ 無線LAN設定
■ 暗号化設定
■ 仮想BSS設定
■ 認証サーバ設定
■ AP間通信設定
IEEE802.11a
■ 無線LAN設定
■ 暗号化設定
■ 仮想BSS設定
■ 認証サーバ設定
■ AP間通信設定

無線LAN設定		
IEEE802.11gを使用	①	○しない ◉する
SSID	②	LG
ANY接続拒否	③	◉しない ○する
VLAN ID	④	0 VLAN IDを付けない場合は0を入力
チャンネル	⑤	11(2462MHz)
Rts/Ctsスレッシュホールド	⑥	なし
11g保護機能	⑦	有効
11gベーシックレート	⑧	802.11b
パワーレベル	⑨	高
接続端末制限	⑩	255
ビーコン間隔	⑪	100 ミリ秒
DTIM間隔	⑫	1
Super AGを使用	⑬	しない

③ANY接続拒否 ………………

「ANY」モード(アクセスポイント自動検索接続機能)で通信する無線LAN端末(弊社製無線LANカード：SL-11やSL-110を除く)からの検索や接続を拒否するかしないかを設定します。

(出荷時の設定：しない)

出荷時の設定では、弊社製無線LANカードを装着するパソコンとの接続が簡単になるように、無線LAN端末からの検索や接続を許可しています。

この設定を「する」にした場合、「ANY」モードで通信するパソコンが使用する「Windows XP標準のワイヤレスネットワーク接続」や「無線ネット表示に対応する弊社製無線LANカードに付属の設定ユーティリティー」に検索されません。

※ご使用のパソコンにSL-50(ドライバーのVer.1.34以降)やSL-5000、SL-5000XG、SL-5100、SL-5200をインストールしたときは、出荷時から「ANY」モードで動作しています。

④VLAN ID ……………………

[無線LAN設定]項目で設定した[SSID](出荷時の設定：LG)の無線グループにID番号を設定します。 (出荷時の設定：0)

設定した同じID番号で稼働する有線ネットワークとのあいだでVLANを構成できます。

設定できる範囲は、「0〜4095」です。

ID番号を付けないときは、「0」を設定します。

※設定例をP126〜P127に記載しています。

※「仮想BSS設定」画面の[VLAN設定]項目で、[VLAN ID]欄を設定している場合は、重複しないように設定してください。

※本製品の設定画面にアクセスするときは、VLANを使用しないネットワーク上のパソコンからアクセスできます。

3-2.「無線LAN設定」画面

■無線LAN設定(つづき)

無線LAN設定
- セキュリティ設定

IEEE802.11g
- 無線LAN設定
- 暗号化設定
- 仮想BSS設定
- 認証サーバ設定
- AP間通信設定

IEEE802.11a
- 無線LAN設定
- 暗号化設定
- 仮想BSS設定
- 認証サーバ設定
- AP間通信設定

無線LAN設定		
IEEE802.11gを使用	①	○しない ◉する
SSID	②	LG
ANY接続拒否	③	◉しない ○する
VLAN ID	④	0　VLAN IDを付けない場合は0を入力
チャンネル	⑤	11(2462MHz)
Rts/Ctsスレッシュホールド	⑥	なし
11g保護機能	⑦	有効
11gベーシックレート	⑧	802.11b
パワーレベル	⑨	高
接続端末制限	⑩	255
ビーコン間隔	⑪	100 ミリ秒
DTIM間隔	⑫	1
Super AGを使用	⑬	しない

⑤チャンネル ……………………

本製品が無線通信に使用するチャンネルを設定します。

◎2.4GHz帯で通信するときは、[IEEEE802.11g]規格側の「無線LAN設定」画面で、「1～13」チャンネルを選択します。
(出荷時の設定：11(2462MHz))

◎5.2GHz帯で通信するときは、[IEEEE802.11a]規格側の「無線LAN設定」画面で、「34、38、42、46」チャンネルの中から選択します。　(出荷時の設定：34(5170MHz))

※無線LAN端末側は、本製品のチャンネルを自動的に検知して通信します。

※無線AP間通信(☞3-6章)を使用するときは、相手の無線アクセスポイントと同じチャンネルに設定してください。

【電波干渉について】

近くに2.4GHz帯(IEEE802.11b/g)の無線アクセスポイント機能で通信する別の無線ネットワークグループが存在するときは、電波干渉を避けるため、本製品の[IEEE802.11g]規格側の「チャンネル」は、別の無線ネットワークグループと4チャンネル以上空けて設定してください。
それ以下のときは、次ページの図に示すように帯域の1部が重複するため混信する可能性があります。
例えば、お互いの設定が、1-6-11チャンネルに設定すると混信しません。

※5.2GHz帯(EEE802.11a)で通信する場合は、お互いを異なるチャンネルに設定すれば、チャンネル間の電波干渉に配慮する必要はありません。

〈各チャンネルの帯域〉

3-2.「無線LAN設定」画面

■無線LAN設定(つづき)

無線LAN設定
- セキュリティ設定

IEEE802.11g
- 無線LAN設定
- 暗号化設定
- 仮想BSS設定
- 認証サーバ設定
- AP間通信設定

IEEE802.11a
- 無線LAN設定
- 暗号化設定
- 仮想BSS設定
- 認証サーバ設定
- AP間通信設定

無線LAN設定		
IEEE802.11gを使用	①	○しない ◉する
SSID	②	LG
ANY接続拒否	③	◉しない ○する
VLAN ID	④	0 VLAN IDを付けない場合は0を入力
チャンネル	⑤	11(2462MHz)
Rts/Ctsスレッシュホールド	⑥	なし
11g保護機能	⑦	有効
11gベーシックレート	⑧	802.11b
パワーレベル	⑨	高
接続端末制限	⑩	255
ビーコン間隔	⑪	100 ミリ秒
DTIM間隔	⑫	1
Super AGを使用	⑬	しない

⑥Rts/Ctsスレッシュホールド ……………………

ネゴシエーションするために送るパケットのデータサイズを、「500バイト」または「1000バイト」から選択します。

(出荷時の設定：なし)

Rts/Cts(Request to Send/Clear to Send)スレッシュホールドを設定すると、隠れ端末の影響による通信速度の低下を防止できます。

隠れ端末とは、下図のように、それぞれが本製品[B]と無線通信できても、互いが直接通信できない無線LAN端末[A]-[C]どうし([A]に対して[C]、[C]に対して[A])のことを呼びます。

通信の衝突を防止するには、無線LAN端末[A]から送信要求(Rts)信号を受信した本製品[B]が、無線伝送エリア内にある無線LAN端末[A]および[C]に送信可能(Cts)信号を送り返すことで、Rts信号を送信していない無線LAN端末[C]に本製品[B]が隠れ端末と通信中であることを認識させます。

これにより、Rts信号を送信していない無線LAN端末[C]は、本製品[B]から受信完了通知(ACK)を受信するまで本製品[B]へのアクセスを自制して、通信の衝突を防止できます。

3-2.「無線LAN設定」画面

■無線LAN設定(つづき)

無線LAN設定
- セキュリティ設定

IEEE802.11g
- 無線LAN設定
- 暗号化設定
- 仮想BSS設定
- 認証サーバ設定
- AP間通信設定

IEEE802.11a
- 無線LAN設定
- 暗号化設定
- 仮想BSS設定
- 認証サーバ設定
- AP間通信設定

無線LAN設定		
IEEE802.11gを使用	①	○しない ◉する
SSID	②	LG
ANY接続拒否	③	◉しない ○する
VLAN ID	④	0　VLAN IDを付けない場合は0を入力
チャンネル	⑤	11(2462MHz)
Rts/Ctsスレッシュホールド	⑥	なし
11g保護機能	⑦	有効
11gベーシックレート	⑧	802.11b
パワーレベル	⑨	高
接続端末制限	⑩	255
ビーコン間隔	⑪	100 ミリ秒
DTIM間隔	⑫	1
Super AGを使用	⑬	しない

⑦11g保護機能 ………………

※[IEEE802.11a]規格の「無線LAN設定」画面には、設定がありません。

アクセスしてくる無線LAN端末の無線LANの規格を認識して、接続を制限できます。　(出荷時の設定：有効)

接続制限することで、[IEEE802.11b(11Mbps)]規格の通信を制限して、[IEEE802.11g(54Mbps)]規格の通信に影響されないように保護します。

◎「無効」：[IEEE802.11g]規格または[IEEE802.11b]規格の無線LAN端末と通信できます。

◎「有効」：[IEEE802.11b]規格と混在するネットワーク環境で、[IEEE802.11g]規格の通信速度が極端に遅い場合に設定します。
「有効」に設定すると、[IEEE802.11g]規格の無線LAN端末との通信を優先させます。
優先させることで、[IEEE802.11g]規格の通信速度が低下することを防止できます。

◎「g専用」：[IEEE802.11g]規格の無線LAN端末とだけ通信できます。

⑧11gベーシックレート ……

※[IEEE802.11a]規格の「無線LAN設定」画面には、設定がありません。

※出荷時の設定でご使用になることを推奨します。

[IEEE802.11g]規格でのベーシックレートを設定します。
(出荷時の設定：802.11b)

※[IEEE802.11g]規格でのみ有効です。

各無線LAN規格が対応できる速度は、下記のようになります。

◎「802.11　」：「1/2」Mbps

◎「802.11b」：「1/2/5.5/11」Mbps

◎「802.11g」：「1/2/5.5/11/6/12/24」Mbps

◎「OFDM」　：「6/12/24」Mbps

3-2.「無線LAN設定」画面

■無線LAN設定(つづき)

無線LAN設定
- セキュリティ設定

IEEE802.11g
- 無線LAN設定
- 暗号化設定
- 仮想BSS設定
- 認証サーバ設定
- AP間通信設定

IEEE802.11a
- 無線LAN設定
- 暗号化設定
- 仮想BSS設定
- 認証サーバ設定
- AP間通信設定

無線LAN設定		
IEEE802.11gを使用	①	○しない ◉する
SSID	②	LG
ANY接続拒否	③	◉しない ○する
VLAN ID	④	0 VLAN IDを付けない場合は0を入力
チャンネル	⑤	11(2462MHz)
Rts/Ctsスレッシュホールド	⑥	なし
11g保護機能	⑦	有効
11gベーシックレート	⑧	802.11b
パワーレベル	⑨	高
接続端末制限	⑩	255
ビーコン間隔	⑪	100 ミリ秒
DTIM間隔	⑫	1
Super AGを使用	⑬	しない

⑨パワーレベル ………………

本製品に内蔵された無線LANカードの送信出力を設定します。
高/中/低(3段階)の中から選択できます。 (出荷時の設定：高)
本製品の最大伝送距離は、パワーレベルが「高」の場合です。
パワーレベルを低くすると、それに比例して伝送距離も短くなります。

【パワーレベルを低くする目的について】

◎本製品から送信される電波が部屋の外に漏れるのを軽減したいとき
◎通信エリアを制限してセキュリティーを高めたいとき
◎比較的狭いエリアに複数台の無線アクセスポイントが設置された環境で、近くの無線クライアントや無線アクセスポイントとの電波干渉を無くして、通信速度の低下などを軽減したいとき

⑩接続端末制限 ………………

本製品に同時接続可能な無線LAN端末の台数を設定します。
設定できる範囲は、「1～255」です。 (出荷時の設定：255)
接続制限を設定すると、本製品1台だけに接続が集中するのを防止(本製品の負荷を分散)できますので、接続集中による通信速度低下を防止できます。

⑪ビーコン間隔 ………………

※出荷時の設定でご使用になることを推奨します。

本製品から一定間隔で送信されるパケット(ビーコン)の送信間隔(ミリ秒)を設定します。 (出荷時の設定：100)
設定できる範囲は、「20～1000」です。
ビーコンとは、無線ネットワークを同期させるための信号です。
※設定を変更すると、正常に通信できないことがあります。
特に必要がない場合は、工場出荷時の状態でご使用ください。

3-2.「無線LAN設定」画面

■無線LAN設定(つづき)

無線LAN設定
- セキュリティ設定

IEEE802.11g
- 無線LAN設定
- 暗号化設定
- 仮想BSS設定
- 認証サーバ設定
- AP間通信設定

IEEE802.11a
- 無線LAN設定
- 暗号化設定
- 仮想BSS設定
- 認証サーバ設定
- AP間通信設定

無線LAN設定		
IEEE802.11gを使用	①	○しない ◉する
SSID	②	LG
ANY接続拒否	③	◉しない ○する
VLAN ID	④	0　VLAN IDを付けない場合は0を入力
チャンネル	⑤	11(2462MHz)
Rts/Ctsスレッシュホールド	⑥	なし
11g保護機能	⑦	有効
11gベーシックレート	⑧	802.11b
パワーレベル	⑨	高
接続端末制限	⑩	255
ビーコン間隔	⑪	100 ミリ秒
DTIM間隔	⑫	1
Super AGを使用	⑬	しない

⑫DTIM間隔 …………………… DTIM(Delivery Traffic Indication Message)を送信されたビーコンに挿入する間隔を設定します。　(出荷時の設定：1)
設定できる範囲は、「1～255」です。
DTIMとは、省電力設定で稼働する無線LAN端末に対して、パケットの送信待ちを伝えるメッセージのことです。
※設定を変更すると、正常に通信できないことがあります。
特に必要がない場合は、工場出荷時の状態でご使用ください。

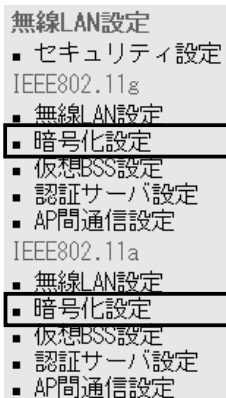
⑬Super AGを使用 ………… 米国Atheros Communications社が開発した、独自の無線LAN高速化技術です。　(出荷時の設定：しない)
「しない」、「する(圧縮なし)」、「する(圧縮あり)」から選択できます。
「する(圧縮あり)」を選択すると、通信速度がさらに向上します。
※すでに圧縮されているデータを取り扱う機会が多い場合、「する(圧縮あり)」を使用すると、圧縮されたデータを転送しているあいだは、速度が低下する原因となります。
このような場合は、「する(圧縮なし)」に設定してご使用ください。
※[Super AGを使用]の設定を「する(圧縮あり)」に設定して、無線AP間通信機能と暗号化[WEP(RC4)、OCB AES]機能を併せて使用する場合は、[キーインデックス](☞P114)の設定を無線AP間通信する相手と同じ設定にしてください。
通信相手と異なる[キーインデックス]を設定すると、通信できなくなります。
※無線LAN端末に装着された無線LANカードが、「Super AG」に対応していない場合は、[Super AGを使用]を「しない」に設定したときと同じ状態になります。
※SL-5200は、「Super AG」対応ドライバーを弊社ホームページで公開しています。　(2005年1月現在)

3-3.「暗号化設定」画面

■暗号化設定

無線LAN設定
- セキュリティ設定

IEEE802.11g
- 無線LAN設定
- 暗号化設定
- 仮想BSS設定
- 認証サーバ設定
- AP間通信設定

IEEE802.11a
- 無線LAN設定
- 暗号化設定
- 仮想BSS設定
- 認証サーバ設定
- AP間通信設定

無線LANで通信するデータを保護するために、暗号化するための設定です。

暗号化設定 [IEEE802.11g]
無線LANを使用するときの暗号化に関する設定を行います。

登録　取消　登録して再起動　このページの設定は再起動後に有効になります。

暗号化設定		
ネットワーク認証	①	オープンシステム・共有キー
暗号化方式	②	WEP RC4 64(40)
PSK (Pre-Shared Key)	③	半角英数で8-63文字、または16進数で64桁を入力。
キー更新間隔	④	1 分
キージェネレータ	⑤	
キーインデックス	⑥	1

※[IEEE802.11a]規格と[IEEE802.11g]規格は、別々の画面で構成されていますが、説明については、[IEEE802.11g]規格の設定画面を使用して説明します。

〈登録〉ボタン ……………………
「暗号化設定」画面で変更した内容を画面上で確定するボタンです。
変更した内容は、〈登録して再起動〉をクリックするまで有効になりません。

〈取消〉ボタン ……………………
「暗号化設定」画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお〈登録〉や〈登録して再起動〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

〈登録して再起動〉ボタン ……
本製品を再起動して、「暗号化設定」画面で変更したすべての設定内容を有効にします。

①ネットワーク認証 …………
※弊社製無線LAN機器によっては、「認証モード」と記載されています。

[暗号化方式](②)欄で、「なし」以外を選択したとき、その暗号化を使用する無線LAN端末からのアクセスに対する認証方式を設定できます。　(出荷時の設定：オープンシステム･共有キー)
※通信相手と認証モードが異なると通信できません。
◎オープンシステム･共有キー：
無線LAN端末のアクセスに対して、「オープンシステム」と「共有キー」を自動認識しますので、通信相手間で暗号鍵(キー)が同じであれば通信できます。
◎オープンシステム：
無線LAN端末のアクセスに対して認証をしません。
※[暗号化方式]項目を「OCB AES 128(128)」に設定したときは、「オープンシステム」しか設定できません。
◎共有キー：
無線LAN端末のアクセスに対して通信相手と同じ暗号鍵(キー)かどうかを認証します。

(☞次ページにつづく)

3-3.「暗号化設定」画面

■暗号化設定(つづき)

無線LAN設定
- セキュリティ設定

IEEE802.11g
- 無線LAN設定
- 暗号化設定
- 仮想BSS設定
- 認証サーバ設定
- AP間通信設定

IEEE802.11a
- 無線LAN設定
- 暗号化設定
- 仮想BSS設定
- 認証サーバ設定
- AP間通信設定

暗号化設定　[IEEE802.11g]

無線LANを使用するときの暗号化に関する設定を行います。

登録　取消　登録して再起動　このページの設定は再起動後に有効になります。

暗号化設定		
ネットワーク認証	①	オープンシステム・共有キー
暗号化方式	②	WEP RC4 64(40)
PSK (Pre-Shared Key)	③	半角英数で8-63文字、または16進数で64桁を入力。
キー更新間隔	④	1 分
キージェネレータ	⑤	
キーインデックス	⑥	1

①ネットワーク認証(つづき)

※弊社製無線LAN機器によっては、「認証モード」と記載されています。

◎WPA(Wi-Fi Protected Access)：
ご使用のRADIUSサーバを利用して、「TKIP/AES」暗号化の認証をするとき設定します。

◎WPA-PSK(Pre-Shared Key)：
共有鍵で認証します。
RADIUSサーバを利用しない簡易的な「TKIP/AES」暗号化の認証方式で、通信相手と共通の暗号鍵を持っているかどうかの認証をします。

◎IEEE802.1X：
ご使用のRADIUSサーバを利用して、IEEE802.1X認証をするとき設定します。

②暗号化方式 ……………………

※無線LAN端末の設定で、Windows XP標準のワイヤレスネットワーク接続に対応していない暗号化方式「WEP RC4 152(128)/OCB AES」での接続は、弊社製無線LANカードに付属の設定ユーティリティーをご使用ください。

無線伝送データを暗号化する方式を選択します。

(出荷時の設定：なし)

対応する暗号化方式は、「WEP RC4」、「OCB AES」、「TKIP」、「AES」です。

※通信相手と認証モードが異なると通信できません。

◎WEP RC4：
無線通信で一般によく使用されるセキュリティーです。
暗号化方式は、WEP RC4(Rivest's Cipher 4)アルゴリズムをベースに構成されています。
暗号化するデータのブロック長が8ビットで、暗号鍵(キー)の長さを選択できます。

※暗号鍵(キー)の長さは、64(40)/128(104)/152(128)ビットの中から選択できます。

※「WEP RC4 152(128)」方式は、Windows XP標準のワイヤレスネットワーク接続を使用して本製品に接続できません。

(☞次ページにつづく)

3

3-3.「暗号化設定」画面

■暗号化設定(つづき)

無線LAN設定
- セキュリティ設定

IEEE802.11g
- 無線LAN設定
- 暗号化設定
- 仮想BSS設定
- 認証サーバ設定
- AP間通信設定

IEEE802.11a
- 無線LAN設定
- 暗号化設定
- 仮想BSS設定
- 認証サーバ設定
- AP間通信設定

暗号化設定 [IEEE802.11g]

無線LANを使用するときの暗号化に関する設定を行います。

[登録] [取消] [登録して再起動] このページの設定は再起動後に有効になります。

暗号化設定		
ネットワーク認証	①	オープンシステム・共有キー
暗号化方式	②	WEP RC4 64(40)
PSK (Pre-Shared Key)	③	半角英数で8-63文字、または16進数で64桁を入力。
キー更新間隔	④	1 分
キージェネレータ	⑤	
キーインデックス	⑥	1

②暗号化方式(つづき) ………

◎OCB AES：
[WEP RC4]より強力な次世代の暗号化方式です。
※「OCB AES」方式は、Windows XP標準のワイヤレスネットワーク接続を使用して本製品に接続できません。

◎TKIP(Temporal Key Integrity Protocol)：
Windows XP(修正プログラムをService Pack1に適用)、またはWindows XP(Service Pack2)のパソコンで使用できます。
※暗号鍵(キー)を一定時間間隔で自動更新しますので、「WEP」より強力です。
※無線LANカードをパソコンにご使用の場合、「TKIP」に対応する弊社製無線LANカードは、SL-5200です。
(2005年1月現在)

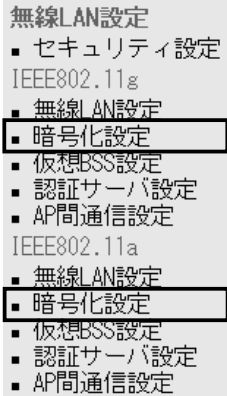
◎AES(Advanced Encryption Standard)：
Windows XP(修正プログラムをService Pack1に適用)、またはWindows XP(Service Pack2)のパソコンで使用できます。
※無線LANカードをパソコンにご使用の場合、「AES」に対応する弊社製無線LANカードは、SL-5200です。
(2005年1月現在)

③PSK(Pre-Shared Key) …

※無線LAN端末の設定で、Windows XP標準のワイヤレスネットワーク接続に対応していない暗号化方式「WEP RC4 152(128)/OCB AES]での接続は、弊社製無線LANカードに付属の設定ユーティリティーをご使用ください。

暗号鍵(キー)を半角英数字で入力します。
[暗号化方式](②)欄で、「TKIP」または「AES」方式を設定し、[ネットワーク認証](①)欄で、「WPA-PSK」を選択したとき、設定できます。
※同じ暗号化方式を使用する相手と同じ暗号鍵(キー)を設定してください。
※16進数で設定するときは、64桁を入力してください。
※ASCII文字で設定するときは、8～63文字を入力してください。

3-3.「暗号化設定」画面

■暗号化設定(つづき)

無線LAN設定
- セキュリティ設定

IEEE802.11g
- 無線LAN設定
- 暗号化設定
- 仮想BSS設定
- 認証サーバ設定
- AP間通信設定

IEEE802.11a
- 無線LAN設定
- 暗号化設定
- 仮想BSS設定
- 認証サーバ設定
- AP間通信設定

暗号化設定　[IEEE802.11g]

無線LANを使用するときの暗号化に関する設定を行います。

登録　取消　登録して再起動　このページの設定は再起動後に有効になります。

暗号化設定		
ネットワーク認証	①	オープンシステム・共有キー
暗号化方式	②	WEP RC4 64(40)
PSK (Pre-Shared Key)	③	半角英数で8-63文字、または16進数で64桁を入力。
キー更新間隔	④	1 分
キージェネレータ	⑤	
キーインデックス	⑥	1

④キー更新間隔 ………………

※弊社製無線LAN機器によっては、「Re-Key間隔」と記載されています。

[暗号化方式](②)欄で、「TKIP」または「AES」方式の暗号化を設定する場合、暗号鍵(キー)の更新間隔を分単位で指定します。
設定できる範囲は、「0〜1440」です。　(出荷時の設定：1分)
※「0」を設定すると、更新しません。

⑤キージェネレータ …………

[暗号化方式](②)欄で、「WEP RC4 64(40)」、「WEP RC4 128(104)」、「WEP RC4 152(128)」、「OCB AES 128(128)」を選択したとき、暗号化および復号に使う暗号鍵(キー)を生成するための文字列を設定します。
通信を行う相手間で同じ文字列(大文字/小文字の区別に注意して、任意の半角英数字/記号)を31文字以内で設定します。
なお、入力した文字はすべて「＊」で表示します。　(表示例：＊＊)
「暗号化方式」を選択して、〈登録〉をクリックすると、[キージェネレータ]欄に入力した文字列より生成された鍵(キー)を[WEPキー]項目のテキストボックスに表示します。
[WEPキー]項目の各キー番号のテキストボックスに生成される桁数および文字数は、選択する「暗号化方式」によって異なります。
(取扱説明書[導入編]☞「暗号鍵(キー)の入力について」を参照)
※[WEPキー]項目の[入力モード]が「ASCII文字」に設定されている場合は、キージェネレータを使用できません。
※[暗号化方式]欄で「なし」が選択されていると、[WEPキー]項目の各キー番号のテキストボックスに鍵(キー)が生成されません。
※通信相手間で文字列が異なる場合、暗号化されたデータを復号できません。
※[WEPキー]項目から直接設定するときは、[キージェネレータ]欄には何も表示されません。
※「WEP RC4」の場合、先頭の24ビットは、一定時間ごとに内容を自動更新して設定されますので、「WEPキー」項目のテキストボックスには表示されません。
※他社製の無線LAN機器とは互換性がありません。

3-3.「暗号化設定」画面

■暗号化設定(つづき)

無線LAN設定
- セキュリティ設定

IEEE802.11g
- 無線LAN設定
- 暗号化設定
- 仮想BSS設定
- 認証サーバ設定
- AP間通信設定

IEEE802.11a
- 無線LAN設定
- 暗号化設定
- 仮想BSS設定
- 認証サーバ設定
- AP間通信設定

暗号化設定 [IEEE802.11g]

無線LANを使用するときの暗号化に関する設定を行います。

登録 取消 登録して再起動 このページの設定は再起動後に有効になります。

暗号化設定		
ネットワーク認証	①	オープンシステム・共有キー
暗号化方式	②	WEP RC4 64(40)
PSK (Pre-Shared Key)	③	半角英数で8-63文字、または16進数で64桁を入力。
キー更新間隔	④	1 分
キージェネレータ	⑤	
キーインデックス	⑥	1

⑥キーインデックス …………

※弊社製無線LAN機器によっては、「キーID」と記載されています。

[暗号化方式](②)欄で、「WEP RC4 64(40)」、「WEP RC4 128(104)」、「WEP RC4 152(128)」、「OCB AES 128(128)」を選択したとき、[WEPキー]項目の「1」～「4」に設定された暗号鍵(キー)のうち送信データの暗号化に使用する鍵(キー)を、テキストボックスの番号で指定します。

(出荷時の設定：1)

「1」～「4」に設定された暗号鍵(キー)の内容が通信相手と同じであれば、通信する相手間で異なる番号を指定しても通信できます。

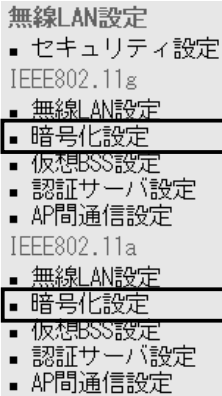
※本製品に無線LANで接続する無線LAN端末の[キーインデックス](キーID)を設定するとき、Windows XP(Service Pack適用時を除く)標準のワイヤレスネットワーク接続を使用する場合は、[キーインデックス](キーID)の選択範囲が「0」～「3」で、本製品とは異なりますのでご注意ください。
本製品で「1」を選択した場合は、Windows XPの[キーインデックス(詳細)(X)]で「0」を設定することと同じ意味になります。

3-3.「暗号化設定」画面(つづき)

■WEPキー

無線LAN設定
- セキュリティ設定

IEEE802.11g
- 無線LAN設定
- 暗号化設定
- 仮想BSS設定
- 認証サーバ設定
- AP間通信設定

IEEE802.11a
- 無線LAN設定
- 暗号化設定
- 仮想BSS設定
- 認証サーバ設定
- AP間通信設定

「WEP RC4」、または「OCB AES」方式の暗号化で使用する暗号鍵(キー)の設定です。

①**入力モード** ……………………

暗号鍵(キー)の入力のしかたを選びます。
(出荷時の設定：16進数)

※入力モードを変更したときは、「暗号化設定」画面の〈登録〉ボタンをクリックしてから、暗号鍵(キー)を入力してください。

※ASCII文字が設定されているときは、[暗号化設定]項目の[キージェネレータ]を使用できません。

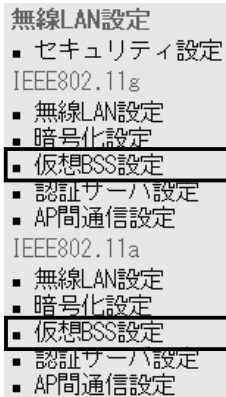
②**鍵(キー)入力用ボックス** …

キージェネレータを使用しない場合は、暗号化および復号化に使用する鍵(キー)を、[入力モード](①)欄で設定された方法で、直接入力します。　(出荷時の設定：00-00-00-00-00)

「ASCII文字」を設定したときは、任意の半角英数字を入力します。

「16進数」を設定したときは、「0～9」「a～f」の半角文字を入力します。

※暗号鍵(キー)は、通信する相手間で、すべての[キーインデックス(1～4)]値に対して同じ内容に設定することをお勧めします。
異なる設定の場合、通信相手間で[キーインデックス]値の設定が異なると、通信できないことがあります。

3-4.「仮想BSS設定」画面

■VLAN設定

仮想BSS無線VLANグループに割り当てる[VLAN ID]について、暗号化および認証方式を設定するとき使用します。

※[IEEE802.11a]規格と[IEEE802.11g]規格は、別々の画面で構成されていますが、説明については、[IEEE802.11g]規格の設定画面を使用して説明します。

無線LAN設定
- セキュリティ設定

IEEE802.11g
- 無線LAN設定
- 暗号化設定
- 仮想BSS設定
- 認証サーバ設定
- AP間通信設定

IEEE802.11a
- 無線LAN設定
- 暗号化設定
- 仮想BSS設定
- 認証サーバ設定
- AP間通信設定

仮想BSS設定 [IEEE802.11g]
仮想BSSの設定を行います。

取消 再起動 このページの設定は再起動後に有効になります。

VLAN設定		
番号	①	登録 削除
VLAN ID	②	
ネットワーク認証	③	オープンシステム・共有キー
暗号化方式	④	WEP RC4 64(40)
PSK(Pre-Shared Key)	⑤	半角英数で8-63文字、もしくは16進数で64桁を入力。
入力モード	⑥	◉16進数 ○ASCII文字 10桁
WEPキー	⑦	00-00-00-00-00

〈取消〉ボタン ……………………

「仮想BSS設定」画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお、「仮想BSS設定」画面の〈再起動〉ボタン、[VLAN設定]項目の〈登録〉ボタン、[仮想BSS設定]項目の〈追加〉ボタン、[仮想BSS登録一覧]項目の〈削除〉ボタンをクリックすると、変更前の状態には戻りません。

〈再起動〉ボタン ………………

本製品を再起動して、「仮想BSS設定」画面で、〈登録〉ボタンおよび〈追加〉ボタンで登録した内容を有効にします。

①番号 …………………………

[VLAN設定]項目で登録した内容を[VLAN登録一覧]項目に表示する順番を入力します。
番号の小さい順に、[VLAN登録一覧]項目に表示します。
設定できる番号は、「1～16」です。

〈登録〉ボタン
[VLAN設定]項目の①～⑦で設定した内容を[VLAN登録一覧]項目に登録し、その内容を表示します。

〈削除〉ボタン
[VLAN登録一覧]項目で〈編集〉ボタンをクリックした内容を登録から削除するときクリックします。
※[仮想BSS登録一覧]項目に表示されているID番号に対する登録内容を削除するときは、先に、[仮想BSS登録一覧]項目からそのID番号に対するSSIDの登録を削除してください。

3-4.「仮想BSS設定」画面

■VLAN設定(つづき)

無線LAN設定
- セキュリティ設定

IEEE802.11g
- 無線LAN設定
- 暗号化設定
- 仮想BSS設定
- 認証サーバ設定
- AP間通信設定

IEEE802.11a
- 無線LAN設定
- 暗号化設定
- 仮想BSS設定
- 認証サーバ設定
- AP間通信設定

仮想BSS設定 [IEEE802.11g]
仮想BSSの設定を行います。

取消　再起動　このページの設定は再起動後に有効になります。

VLAN設定		
番号	①	登録　削除
VLAN ID	②	
ネットワーク認証	③	オープンシステム・共有キー
暗号化方式	④	WEP RC4 64(40)
PSK(Pre-Shared Key)	⑤	半角英数で8-63文字、もしくは16進数で64桁を入力。
入力モード	⑥	◉16進数　○ASCII文字　10桁
WEPキー	⑦	00-00-00-00-00

②VLAN ID ……………………… [仮想BSS設定]項目で設定する[SSID](①)に所属する無線グループに、ID番号を設定します。
同じID番号のネットワークだけが、仮想BSSで通信できます。
※[無線LAN設定]項目で、[VLAN ID]欄を設定している場合は、重複しないように設定してください。
設定できる範囲は、「1～4095」です。
※異なるID番号のネットワークとは通信できません。

③ネットワーク認証 ………… 仮想BSS無線VLANグループに対する設定です。
説明は、本書114ページを参照してください。
(出荷時の設定：オープンシステム･共有キー)

④暗号化方式 …………………… 仮想BSS無線VLANグループに対する設定です。
説明は、本書115ページを参照してください。
(出荷時の設定：WEP RC4 64(40))

⑤PSK(Pre-SharedKey) … 仮想BSS無線VLANグループに対する設定です。
説明は、本書116ページを参照してください。

⑥入力モード …………………… [WEPキー](⑦)欄に入力する暗号鍵(キー)の入力方法を選びます。
(出荷時の設定：16進数)

⑦WEPキー ……………………… [暗号化方式](④)欄で、「WEP RC4 64(40)」、「WEP RC4 128(104)」、「WEP RC4 152(128)」、「OCB AES 128(128)」を選択したとき、仮想BSS無線VLANグループの暗号化および復号化に使用する鍵(キー)を、[入力モード](⑥)欄で選択した方法で、直接入力します。
(出荷時の設定：00-00-00-00-00)
※無線LAN端末側の[キーインデックス](キーID)は、「1」を設定してください。

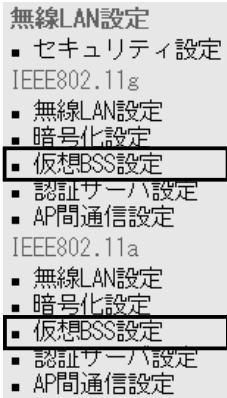
3

3-4.「仮想BSS設定」画面(つづき)

■仮想BSS設定

無線LAN設定
- セキュリティ設定

IEEE802.11g
- 無線LAN設定
- 暗号化設定
- 仮想BSS設定
- 認証サーバ設定
- AP間通信設定

IEEE802.11a
- 無線LAN設定
- 暗号化設定
- 仮想BSS設定
- 認証サーバ設定
- AP間通信設定

登録した[VLAN ID]を使用する仮想BSS無線VLANグループの[SSID]の設定に使用します。

仮想BSS設定		
① SSID	② VLAN ID	③
		追加

①SSID……………………………… 仮想BSSで使用する無線VLANグループのグループ分けをするために使用します。
この[SSID]が異なると本製品と仮想BSSの無線VLANグループが通信できません。
大文字/小文字の区別に注意して、任意の英数字、半角31文字以内で入力します。
※最大16の仮想BSS無線VLANグループを登録できます。
※「無線LAN設定」画面で設定されている[SSID](☞P107)と同じものは、登録できません。
※「無線LAN設定」画面で設定されている[SSID](☞P107)も、既存の無線グループとして、仮想BSS無線VLANグループと併用できます。

②VLAN ID ……………………… [SSID](①)に割り当てるID番号を選択します。
※[VLAN登録一覧]項目に登録された[VLAN ID]から選択します。

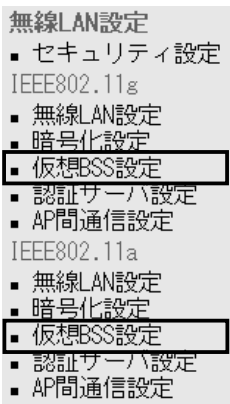
③〈追加〉ボタン ……………… [仮想BSS設定]項目の①〜②で設定した内容を[仮想BSS登録一覧]項目に登録し、その内容を表示します。

3-4.「仮想BSS設定」画面(つづき)

■VLAN登録一覧

無線LAN設定
- セキュリティ設定

IEEE802.11g
- 無線LAN設定
- 暗号化設定
- 仮想BSS設定
- 認証サーバ設定
- AP間通信設定

IEEE802.11a
- 無線LAN設定
- 暗号化設定
- 仮想BSS設定
- 認証サーバ設定
- AP間通信設定

[VLAN設定]項目(☞P120)で登録した内容を表示します。

① 〈編集〉ボタン ………………… 設定内容を編集するボタンです。
クリックすると、ボタンの右に表示された内容が[VLAN設定]項目に表示されます。

②番号 ………………………… 〈編集〉ボタンをクリックしたとき、設定された内容を[VLAN設定]項目の[番号]欄に表示します。

③VLAN ID …………………… 〈編集〉ボタンをクリックしたとき、設定された内容を[VLAN設定]項目の[VLAN ID]欄に表示します。

④暗号 ………………………… 〈編集〉ボタンをクリックしたとき、[VLAN設定]項目の[暗号化方式]欄と[ネットワーク認証]欄で設定した内容を表示します。
暗号化が設定されていないときは、「なし」を表示します。

⑤WEPキー/PSK …………… 〈編集〉ボタンをクリックしたとき、[VLAN設定]項目の[WEPキー]欄、または[PSK(Pre-Shared Key)]欄で設定した内容を表示します。

3-4.「仮想BSS設定」画面(つづき)

■仮想BSS登録一覧

[仮想BSS設定]項目(☞P122)で登録した内容を表示します。

無線LAN設定
- セキュリティ設定

IEEE802.11g
- 無線LAN設定
- 暗号化設定
- 仮想BSS設定
- 認証サーバ設定
- AP間通信設定

IEEE802.11a
- 無線LAN設定
- 暗号化設定
- 仮想BSS設定
- 認証サーバ設定
- AP間通信設定

仮想BSS登録一覧

① SSID	② VLAN ID	
LG10	10	削除

①SSID…………………………… [仮想BSS設定]項目の[SSID]欄で設定した内容を表示します。

②VLAN ID …………………… [VLAN設定]項目の[VLAN ID]欄で設定した内容を表示します。

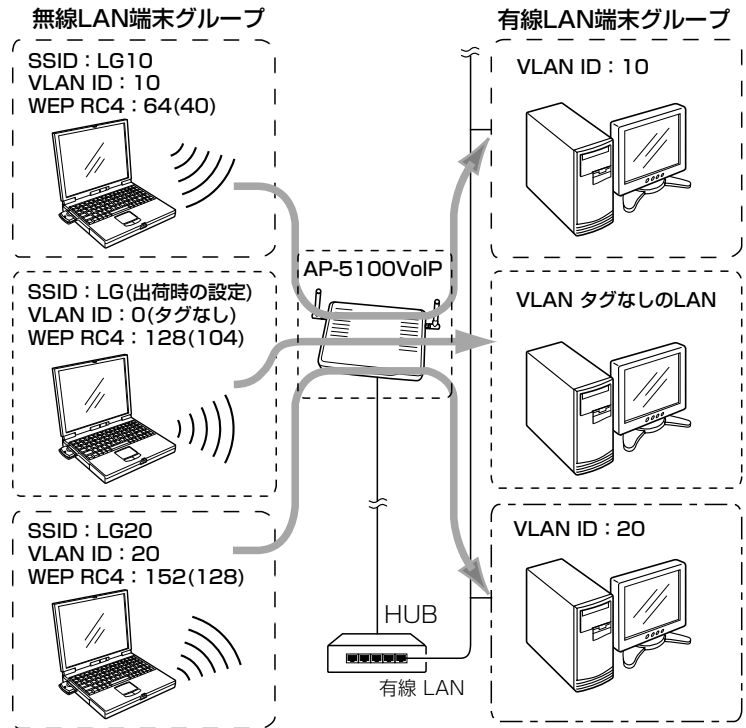
③〈削除〉ボタン……………… 仮想BSS登録一覧の内容を削除するときクリックします。

3-4.「仮想BSS設定」画面(つづき)

■仮想BSS機能について

本製品1台で、異なる[SSID]の無線LAN端末グループを複数構成できる機能です。

また、仮想BSS(仮想ネットワーク)の無線LAN端末グループごとに、異なる暗号鍵を設定できます。

※下記の図では、[SSID]を「LG10」と「LG20」に設定する無線LAN端末グループが、本製品の仮想BSSグループとして稼働している例です。

【仮想BSS機能を使用するには】

仮想BSSを使用する無線LAN端末グループには、VLAN IDの設定が必要です。

なお、仮想BSSを使用しない無線LAN端末グループ(出荷時の設定：LG)の場合は、VLAN IDを付けない設定ができます。

◎[SSID]および[VLAN ID]が重複する場合は、登録できません。

◎仮想BSSを最大16グループまで登録できます。

◎仮想BSSを使用しない無線LAN端末のグループと同じ[SSID]で使用できません。

◎「Super AG」機能(☞P113)を使用する場合は、「する(圧縮なし)」に設定してください。

◎Windows XP標準のワイヤレスネットワーク接続(ゼロコンフィグレーション)を使用して、暗号化された本製品と通信する場合、無線LAN端末側で、[キーインデックス(詳細)(X):]を「1」に設定してください。

◎出荷時、[マネージメントID]が「0」(☞P84)に設定されていますので、VLAN IDが設定されたLANからは、本製品を設定画面にアクセスできません。

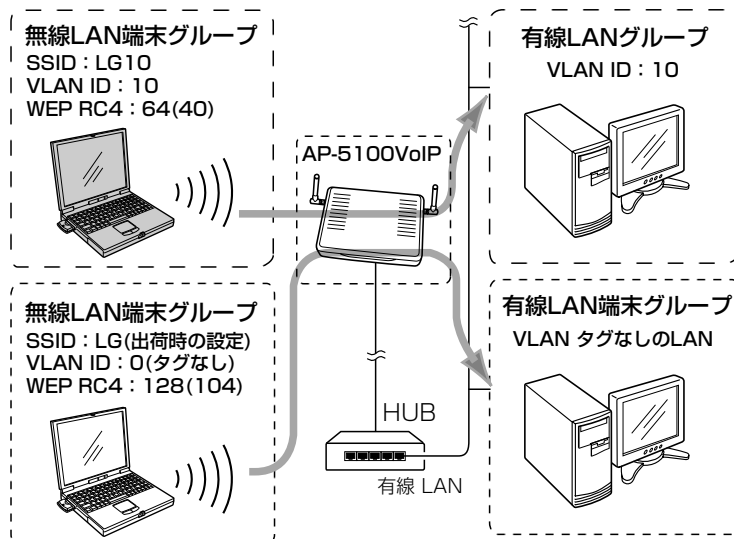
3-4.「仮想BSS設定」画面(つづき)

■**設定例について**

下図の　　で示す端末が仮想BSS(☞P125)無線VLANグループとして接続できるように設定する手順です。

※下記の図で、[SSID]を「LG」に設定する無線LAN端末グループは、取扱説明書[導入編]を参考に設定されているものとします。

※有線ネットワーク側の[VLAN ID]は、VLAN機能搭載のHUBで設定しているものとします。

※「Super AG」機能(☞P113)を使用する場合は、「する(圧縮なし)」に設定すると通信できます。

[VLAN設定]項目の設定内容

次ページの[VLAN設定]項目では、下記の各欄を設定します。

◎[番号]　　　　　　：「1」(任意の数字を設定)
◎[VLAN ID]　　　　：「10」
◎[暗号化方式]　　　：「WEP RC4 64(40)」ビット
◎[ネットワーク認証]：「オープンシステム･共有キー」(出荷時の設定)
◎[入力モード]　　　：「16進数」(出荷時の設定)
◎[WEPキー]　　　　：「94-59-A9-CF-95」

※仮想BSSの場合、ここで設定する[WEPキー]に該当する[キーインデックス]の設定はありません。
弊社製無線LANカードに付属の設定ユーティリティー、またはWindows XP標準のワイヤレスネットワーク接続で、「1」を設定したとき使用される暗号鍵(キー)に該当します。

※「WPA-PSK」認証で、「TKIP」/「AES」方式の暗号化を使用する場合は、[PSK(Pre-Shared Key)]を使用します。
このときは、[入力モード]、[WEPキー]の設定は不要です。
暗号鍵(キー)は、本製品と無線クライアント側ですべて同じに設定してください。

[仮想BSS設定]項目の設定内容

次ページの[仮想BSS設定]項目では、下記の各欄を設定します。

◎[SSID]　　　　　：「LG10」
◎[VLAN ID]　　　：「10」

3-4.「仮想BSS設定」画面

■設定例について

〈VLAN設定〉の設定例(つづき)

3-5.「認証サーバ設定」画面

■RADIUS設定

RADIUSサーバによる無線LAN端末へのWPA認証、または IEEE802.1X認証接続の設定です。
※EAP-TLSとEAP-TTLS、EAP-PEAPに対応しています。

無線LAN設定
- セキュリティ設定

IEEE802.11g
- 無線LAN設定
- 暗号化設定
- 仮想BSS設定
- 認証サーバ設定
- AP間通信設定

IEEE802.11a
- 無線LAN設定
- 暗号化設定
- 仮想BSS設定
- 認証サーバ設定
- AP間通信設定

認証サーバ設定 [IEEE802.11g]
無線LANを使用するときの認証設定を行います。
RADIUS機能を使用する場合、暗号化設定のキーインデックスは無効になります。

登録 取消 登録して再起動 このページの設定は再起動後に有効になります。

RADIUS設定		
①	プライマリ	セカンダリ
サーバアドレス ②		
サーバのポート番号 ③	1812	1812
シークレットキー ④		
再認証間隔 ⑤	120 分	

※[IEEE802.11a]規格と[IEEE802.11g]規格は、別々の画面で構成されていますが、説明については、[IEEE802.11g]規格の設定画面を使用して説明します。

〈登録〉ボタン …………………… 「認証サーバ設定」画面で変更した内容を画面上で確定するボタンです。
変更した内容は、〈登録して再起動〉をクリックするまで有効になりません。

〈取消〉ボタン …………………… 「認証サーバ設定」画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお〈登録〉や〈登録して再起動〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

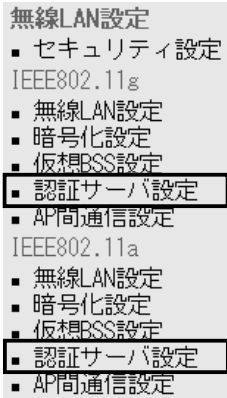
〈登録して再起動〉ボタン …… 本製品を再起動して、「認証サーバ設定」画面で変更したすべての設定内容を有効にします。

①プライマリ/セカンダリ …… [プライマリ]列に設定したサーバから応答がないとき、その次にアクセスさせるRADIUSサーバがあるときは、[セカンダリ]列にそのRADIUSサーバアドレスを設定します。

②サーバアドレス …………… 対象となるRADIUSサーバのIPアドレスを入力します。

③サーバのポート番号 ……… 対象となるRADIUSサーバの認証ポートを設定します。
設定できる範囲は、「1～65535」です。(出荷時の設定：1812)
※ご使用になるシステムによっては、出荷時の設定値と異なることがありますのでご確認ください。

3-5.「認証サーバ設定」画面

■RADIUS設定(つづき)

無線LAN設定
- セキュリティ設定

IEEE802.11g
- 無線LAN設定
- 暗号化設定
- 仮想BSS設定
- 認証サーバ設定
- AP間通信設定

IEEE802.11a
- 無線LAN設定
- 暗号化設定
- 仮想BSS設定
- 認証サーバ設定
- AP間通信設定

認証サーバ設定 [IEEE802.11g]

無線LANを使用するときの認証設定を行います。
RADIUS機能を使用する場合、暗号化設定のキーインデックスは無効になります。

登録　取消　登録して再起動　このページの設定は再起動後に有効になります。

RADIUS設定			
	①	プライマリ	セカンダリ
サーバアドレス	②		
サーバのポート番号	③	1812	1812
シークレットキー	④		
再認証間隔	⑤	120 分	

④シークレットキー …………　この欄に設定されたキーを使用して、本製品とRADIUSサーバ間の通信をします。
RADIUSサーバに設定された値と同じ値を入力します。
入力は、半角31文字以内の英数字で入力します。

⑤再認証間隔 …………………　RADIUSサーバに再度認証を要求する間隔を分で設定します。
設定できる範囲は、「30～9999」です。　(出荷時の設定：120)
※「0」を設定したときは、再認証しません。

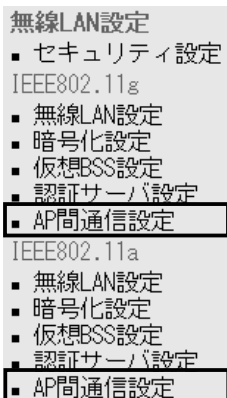
3

3-6.「AP間通信設定」画面

■BSSID

無線LAN設定
- セキュリティ設定

IEEE802.11g
- 無線LAN設定
- 暗号化設定
- 仮想BSS設定
- 認証サーバ設定
- AP間通信設定

IEEE802.11a
- 無線LAN設定
- 暗号化設定
- 仮想BSS設定
- 認証サーバ設定
- AP間通信設定

本製品に内蔵する無線LANカードの[BSSID]を表示します。

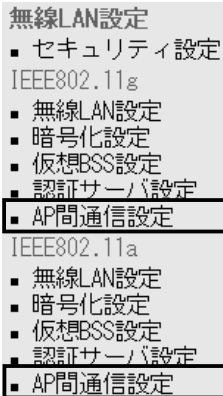
AP間通信設定 [IEEE802.11g]
AP間通信(Wireless Bridge)機能の設定を行います。

BSSID
00-90-C7-99-00-96

※[IEEE802.11a]規格と[IEEE802.11g]規格は、別々の画面で構成されていますが、説明については、[IEEE802.11g]規格の設定画面を使用して説明します。

画面に表示された[BSSID]を相手側のAP-5100Aに登録します。
また、本製品には相手側の[BSSID]を「通信AP設定」に登録します。
※「ユニットを使用していません」と表示されるときは、「無線LAN設定」画面の[IEEE802.11gを使用]欄を、「する」に設定してください。
※[IEEE802.11a]規格側の画面の場合は、本製品に内蔵する54Mbps(5.2GHz帯)無線LANカードの[BSSID]を表示します。

3-6.「AP間通信設定」画面(つづき)

■通信AP設定

AP間通信する相手のBSSIDを登録します。

無線LAN設定
- セキュリティ設定

IEEE802.11g
- 無線LAN設定
- 暗号化設定
- 仮想BSS設定
- 認証サーバ設定
- AP間通信設定

IEEE802.11a
- 無線LAN設定
- 暗号化設定
- 仮想BSS設定
- 認証サーバ設定
- AP間通信設定

①登録の追加 ……………………

AP間通信する相手側(AP-50、AP-50R、SR-5200VoIP2、SR-5200VoIP、SR-5000VoIP、AP-5100、AP-5100A、AP-5100VoIPなど)の[BSSID]を入力します。
※各アクセスポイントのIPアドレスが重複しないように設定してください。
※〈追加〉をクリックすると、入力した[BSSID]が[登録済み端末リスト]項目に登録されます。
※最大6台分の[BSSID]が登録できます。
※[BSSID]の入力は、半角英数字で12桁(16進数)を入力します。
※[BSSID]を次のように入力すると、同じ[BSSID]として処理します。(入力例：00-90-C7-88-00-30、0090C7880030)

②自動検出された端末 ………

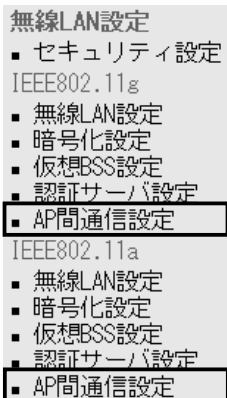
[チャンネル]と[SSID]が、本製品と同じ設定の弊社製無線アクセスポイントを検出すると、その機器の[BSSID]を表示します。
検出された機器とAP間通信する場合は、この欄の右に表示された〈追加〉をクリックすると、検出された[BSSID]を[登録済み端末リスト]項目に登録できます。
※検出結果を最大32件まで表示します。
※近くに、同じ条件の弊社製ビル間通信ユニットなどが存在すると、それらの機器の[BSSID]と併せて検出されますのでご注意ください。

3-6.「AP間通信設定」画面(つづき)

■登録済み端末リスト

無線LAN設定
- セキュリティ設定

IEEE802.11g
- 無線LAN設定
- 暗号化設定
- 仮想BSS設定
- 認証サーバ設定
- AP間通信設定

IEEE802.11a
- 無線LAN設定
- 暗号化設定
- 仮想BSS設定
- 認証サーバ設定
- AP間通信設定

[通信AP設定]項目から登録したBSSIDを表示します。

登録済み端末リスト	
BSSID	
00-90-C7-88-00-65	削除

このリストに表示する[BSS ID]を持つAP間通信対応の弊社製無線ルータや弊社製無線アクセスポイントと、AP間通信できます。

※登録を削除するときは、該当する欄の右端にある〈削除〉をクリックします。

※AP間通信する相手の[BSS ID]だけを登録してご使用ください。それ以外の相手の[BSS ID]が複数登録されている場合は、通信速度低下の原因になります。

「WAN側設定」メニュー

第4章

この章では、
「WAN側設定」メニューで表示される設定画面について説明します。

4-1.「WAN側設定」画面

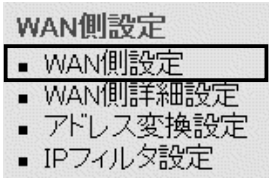
■**接続状況**(回線種別：DHCP設定時)

WAN側設定
- WAN側設定
- WAN側詳細設定
- アドレス変換設定
- IPフィルタ設定

登録された回線への接続状況を表示します。

WAN側設定
インターネット接続に関する設定を行います。

本体の時刻 ： 2003年 01月 01日 01時 06分

接続状況		
接続状況 切断	①	接続中
回線種別	②	DHCP
DNSサーバ	③	-
本体側のIPアドレス	④	-
相手先のIPアドレス	⑤	-
接続時間	⑥	- 時間 - 分 - 秒

①**接続状況** ……………………… WAN側回線への接続状況を「未接続」/「接続試行中」/「接続中」で表示します。
本製品に登録した回線接続先に手動で接続および切断するときは、画面上の〈接続〉および〈切断〉ボタンをクリックします。
※〈接続〉ボタンは、回線を切断したとき表示します。

②**回線種別** ……………………… 本製品に設定されている回線への接続方式を表示します。
設定されている接続方式(DHCP)を表示します。

③**DNSサーバ** ………………… ご契約の回線接続業者、またはプロバイダーのDNSサーバIPアドレスを表示します。

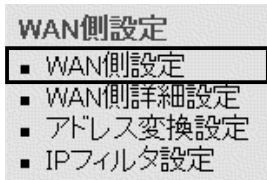
④**本体側のIPアドレス** ……… 本製品のWAN側に設定されたIPアドレスを表示します。

⑤**相手先のIPアドレス** ……… 契約の回線接続業者、またはプロバイダーのIPアドレスを表示します。

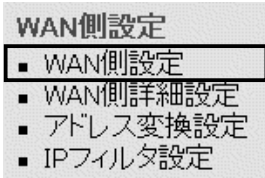
⑥**接続時間** ……………………… ご契約の回線接続業者、またはプロバイダーに接続してから、この画面にアクセスした時点までの時間を表示します。
WWWブラウザの〈更新〉ボタンで、最新の時間表示になります。

4-1.「WAN側設定」画面(つづき)

■**接続状況**(回線種別：PPPoE設定時)

WAN側設定
- WAN側設定
- WAN側詳細設定
- アドレス変換設定
- IPフィルタ設定

登録された回線への接続状況を表示します。

WAN側設定
インターネット接続に関する設定を行います。

本体の時刻 ： 2003年 01月 01日 01時 09分

接続状況			
PPPoEセッション	①	第1セッション	第2セッション
接続先の選択	②	WAN01 切断	なし 接続
接続状況	③	接続中	未接続
回線種別	④	PPPoE(常時接続)	PPPoE
DNSサーバ	⑤	–	–
本体側のIPアドレス	⑥	–	–
相手先のIPアドレス	⑦	–	–
接続時間	⑧	– 時間 – 分 – 秒	– 時間 – 分 – 秒

①**PPPoEセッション**…………　表示するセッション番号に対する接続状況をこの列に表示します。

②**接続先の選択**　………………　〈接続〉および〈切断〉ボタンは、この欄の各セッションで選択した接続先への回線接続および切断に使用します。
※〈切断〉ボタンは、回線が接続されているとき表示します。
※第2セッションを利用するには、この欄で選択した接続先がマルチセッションに対応していることと同時に、利用申し込みが必要な場合があります。
※第2セッションの接続先に、第1セッションで選択したインターネットへの接続先を指定しても、[接続状況]欄に「接続中」と表示されるだけで、実際に通信できませんのでご注意ください。
また、その逆についても同じです。

③**接続状況**　……………………　WAN側回線への接続状況を「未接続」/「接続試行中」/「接続中」で表示します。

④**回線種別**　……………………　本製品に設定されている回線への接続方式を表示します。
設定されている接続方式および方法に応じて、「PPPoE(手動接続)」/「PPPoE(自動接続)/「PPPoE(常時接続)」のいずれかを表示します。

⑤**DNSサーバ**…………………　ご契約の回線接続業者、またはプロバイダーのDNSサーバIPアドレスを表示します。

⑥**本体側のIPアドレス**　………　本製品のWAN側に設定されたIPアドレスを表示します。

⑦**相手先のIPアドレス**　………　ご契約の回線接続業者、またはプロバイダーのIPアドレスを表示します。

⑧**接続時間**　……………………　ご契約の回線接続業者、またはプロバイダーに接続してから、この画面にアクセスした時点までの時間を表示します。
WWWブラウザの〈更新〉ボタンで、最新の時間表示になります。

4-1.「WAN側設定」画面(つづき)

■**接続状況**(回線種別：PPPoE複数固定IP設定時)

WAN側設定
- WAN側設定
- WAN側詳細設定
- アドレス変換設定
- IPフィルタ設定

登録された回線への接続状況を表示します。

WAN側設定
インターネット接続に関する設定を行います。

本体の時刻 ： 2003年 01月 01日 01時 10分

接続状況		
接続先の選択	①	WAN01 切断
接続状況	②	接続中
回線種別	③	PPPoE(常時接続)
DNSサーバ	④	–
本体側のIPアドレス	⑤	–
相手先のIPアドレス	⑥	–
接続時間	⑦	– 時間 – 分 – 秒

①**接続先の選択** ………………… 〈接続〉および〈切断〉ボタンは、この欄で選択した接続先への回線接続および切断に使用します。
※〈切断〉ボタンは、回線が接続されているとき表示します。

②**接続状況** ……………………… WAN側回線への接続状況を「未接続」/「接続試行中」/「接続中」で表示します。

③**回線種別** ……………………… 本製品に設定されている回線への接続方式を表示します。
設定されている接続方式および方法に応じて、「PPPoE(手動接続)」/「PPPoE(自動接続)/「PPPoE(常時接続)」のいずれかを表示します。

④**DNSサーバ** …………………… ご契約の回線接続業者、またはプロバイダーのDNSサーバIPアドレスを表示します。

⑤**本体側のIPアドレス** ……… 本製品のWAN側に設定されたIPアドレスを表示します。

⑥**相手先のIPアドレス** ……… ご契約の回線接続業者、またはプロバイダーのIPアドレスを表示します。

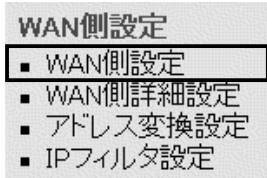
⑦**接続時間** ……………………… ご契約の回線接続業者、またはプロバイダーに接続してから、この画面にアクセスした時点までの時間を表示します。
WWWブラウザの〈更新〉ボタンで、最新の時間表示になります。

4-1.「WAN側設定」画面(つづき)

■回線種別

本製品の回線種別についての設定です。

WAN側設定
- WAN側設定
- WAN側詳細設定
- アドレス変換設定
- IPフィルタ設定

登録 取消 登録して再起動　回線種別の設定は再起動後に有効になります。

回線種別
◉接続しない　○DHCP　○PPPoE　○PPPoE複数固定IP

〈登録〉ボタン ……………………
[回線種別]項目以外の設定内容が有効になります。
※[回線種別]項目を変更した場合は、画面上で確定されますが、〈登録して再起動〉をクリックするまで有効になりません。

〈取消〉ボタン ……………………
「WAN側設定」画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

〈登録して再起動〉ボタン ……
本製品を再起動して、「WAN側設定」画面で変更したすべての設定内容が有効になります。

回線種別 …………………………
ご契約のプロバイダーや回線接続業者から指定された回線種別を選択します。

※出荷時の設定で、モデムなどを接続すると、WAN側が使用できないことを、[WAN]ランプの点滅で表示します。

◎接続しない(出荷時の設定)
ルータタイプモデムと接続する場合など、回線を本製品のWAN側ポートに接続しない場合で、本製品を無線アクセスポイントだけに使用するときは、出荷時の設定で使用します。
※アッカネットワークスやイー･アクセスをご契約の場合に該当します。

◎DHCP
回線を本製品のWAN側ポートに接続する場合で、本製品のWAN側IPアドレスを、ご契約のプロバイダーや回線接続業者から「DHCP」方式で取得します。
※CATVやYAHOO! BBをご契約の場合に該当します。

◎PPPoE
回線を本製品のWAN側ポートに接続する場合で、本製品のWAN側IPアドレスを、ご契約のプロバイダーや回線接続業者から「PPPoE」方式で取得します。
※Bフレッツやフレッツ･ADSLをご契約の場合に該当します。

◎PPPoE複数固定IP
回線を本製品のWAN側ポートに接続する場合で、ご契約のプロバイダーや回線接続業者から割り当てられた複数のIPアドレスのうち1つを本製品のWAN側IPアドレスに設定し、残りは本製品のLAN側に接続された無線LAN端末に直接割り当てて使用するときに設定します。
割り当てられた複数のIPアドレスの使いかたについては、「複数固定IPサービスを使う」(本書☞8-1章)をご覧ください。

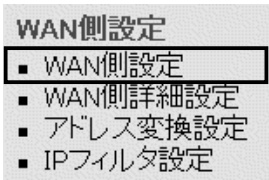
4-1.「WAN側設定」画面(つづき)

■回線設定 DHCP

[DHCP]方式で回線接続時、本製品のWAN側についての設定です。

WAN側設定
- WAN側設定
- WAN側詳細設定
- アドレス変換設定
- IPフィルタ設定

登録 取消

回線設定 DHCP			
接続先名	①		
IPアドレス	②		固定のIPアドレスを使用するときのみ入力します。
サブネットマスク	③		
デフォルトゲートウェイ	④		
プライマリDNSサーバ	⑤		
セカンダリDNSサーバ	⑥		

〈登録〉ボタン …………………… [回線設定 DHCP]項目(①〜⑥)の内容を確定するボタンです。

〈取消〉ボタン …………………… [回線設定 DHCP]項目(①〜⑥)の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお、〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

①接続先名 ……………………… ご契約の回線接続業者、またはプロバイダーがわかるような名前を、任意の英数字、半角31(全角15)文字以内で入力します。

②IPアドレス …………………… ご契約の回線接続業者、またはプロバイダーから指定されたときに限り、本製品のWAN側IPアドレスを入力します。

③サブネットマスク ………… ご契約の回線接続業者、またはプロバイダーから指定されたときに限り、本製品のWAN側のサブネットマスクを入力します。

④デフォルトゲートウェイ … ご契約の回線接続業者、またはプロバイダーから指定されたときに限り、本製品のデフォルトゲートウェイを入力します。

⑤プライマリDNSサーバ …… ご契約の回線接続業者、またはプロバイダーからDNSサーバのアドレスが2つ指定されている場合は、どちらか一方、または指定されているプライマリDNSアドレスを入力します。

⑥セカンダリDNSサーバ …… ご契約の回線接続業者、またはプロバイダーからDNSサーバのアドレスが2つ指定されている場合は、どちらか一方、または指定されているセカンダリDNSアドレスを入力します。

4-1.「WAN側設定」画面(つづき)

■**回線設定/接続設定** (PPPoE設定時)

■**回線設定**

WAN側設定
- WAN側設定
- WAN側詳細設定
- アドレス変換設定
- IPフィルタ設定

[PPPoE]方式で回線接続時、本製品のWAN側についての設定です。

登録　取消

①　②　③

回線設定 WAN01 ▼	編集	削除	
接続先名	④		
IPアドレス	⑤		固定のIPアドレスを使用するときのみ入力します。
サブネットマスク	⑥		
デフォルトゲートウェイ	⑦		
プライマリDNSサーバ	⑧		
セカンダリDNSサーバ	⑨		
接続設定			
ユーザID	⑩		
パスワード	⑪		
認証プロトコル	⑫	接続先にあわせる ▼	

〈登録〉ボタン ………………… [回線設定]項目(④～⑨)および[接続設定]項目(⑩～⑫)の内容を確定するボタンです。

〈取消〉ボタン ………………… [回線設定]項目(④～⑨)および[接続設定]項目(⑩～⑫)の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお、〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

①**接続先選択** ………………… 〈▼〉をクリックして、「追加」を選択すると接続先の登録を追加できます。　(最大8件まで登録可能)
登録されている接続先に対する内容を変更するときは、この欄から編集する接続先名を選択します。
〈編集〉をクリック後に、[回線設定]項目(④～⑨)および[接続設定]項目(⑩～⑫)を設定してください。

② **〈編集〉ボタン** ……………… [接続先選択](①)で選択した接続先名称の設定内容を変更するため、その内容を[回線設定]項目(④～⑨)と[接続設定]項目(⑩～⑫)に表示するボタンです。

③ **〈削除〉ボタン** ……………… [接続先選択](①)で選択した接続先を削除するボタンです。

4

4-1.「WAN側設定」画面(つづき)

■回線設定/接続設定 (PPPoE設定時)つづき

WAN側設定
- WAN側設定
- WAN側詳細設定
- アドレス変換設定
- IPフィルタ設定

登録 取消

回線設定 WAN01 ①	編集 ②	削除 ③	
接続先名	④		
IPアドレス	⑤		固定のIPアドレスを使用するときのみ入力します。
サブネットマスク	⑥		
デフォルトゲートウェイ	⑦		
プライマリDNSサーバ	⑧		
セカンダリDNSサーバ	⑨		
接続設定			
ユーザID	⑩		
パスワード	⑪		
認証プロトコル	⑫	接続先にあわせる	

④接続先名 ……………………… ご契約になっているプロバイダーの名前を、任意の英数字、半角31(全角15)文字以内で入力します。
登録後、入力した名前は、[接続先選択](①)に表示されます。

⑤IPアドレス ………………… ご契約のプロバイダーや回線接続業者から指定されたときに限り、本製品のWAN側IPアドレスを入力します。

⑥サブネットマスク ………… ご契約のプロバイダーや回線接続業者から指定されたときに限り、本製品のWAN側のサブネットマスクを入力します。

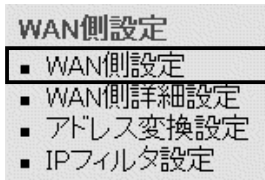
⑦デフォルトゲートウェイ … ご契約のプロバイダーや回線接続業者から指定されたときに限り、本製品のデフォルトゲートウェイを入力します。

⑧プライマリDNSサーバ …… ご契約の回線接続業者、またはプロバイダーからDNSサーバのアドレスが2つ指定されている場合は、どちらか一方、または指定されているプライマリDNSアドレスを入力します。

⑨セカンダリDNSサーバ …… ご契約の回線接続業者、またはプロバイダーからDNSサーバのアドレスが2つ指定されている場合は、どちらか一方、または指定されているセカンダリDNSアドレスを入力します。

4-1.「WAN側設定」画面(つづき)

■回線設定/接続設定 (PPPoE設定時)つづき

WAN側設定
- WAN側設定
- WAN側詳細設定
- アドレス変換設定
- IPフィルタ設定

登録 取消			
回線設定 WAN01 ①	編集 ②	削除 ③	
接続先名	④		
IPアドレス	⑤		固定のIPアドレスを使用するときのみ入力します。
サブネットマスク	⑥		
デフォルトゲートウェイ	⑦		
プライマリDNSサーバ	⑧		
セカンダリDNSサーバ	⑨		
接続設定			
ユーザID	⑩		
パスワード	⑪		
認証プロトコル	⑫	接続先にあわせる	

■接続設定　**接続先からの指定に応じて入力します。**

⑩ユーザID ……………………… プロバイダーから指定されたログインユーザー名またはアカウント名を大文字/小文字の表記に注意して、入力します。

⑪パスワード …………………… プロバイダーから指定されたログインパスワードを大文字/小文字の表記に注意して、入力します。

⑫認証プロトコル …………… ご契約の回線接続業者、またはプロバイダーから指定された認証プロトコルを設定します。
指定のない場合は、「接続先にあわせる」(出荷時の設定)でご使用ください。

下記の内容は、マルチセッションに対応する接続先を設定してご使用になる場合にご覧ください。
【NTTフレッツ・スクウェアをご使用になるには】
以下の内容を[接続設定]項目に設定してください。
◎NTT西日本でご契約の場合
　ユーザID　　　：**「flets@flets」**(半角文字)と入力
　パスワード　　：**「flets」**(半角文字)と入力
　認証プロトコル：「接続先にあわせる」(出荷時の設定)を選択

◎NTT東日本でご契約の場合
　ユーザID　　　：**「guest@flets」**(半角文字)と入力
　パスワード　　：**「guest」**(半角文字)と入力
　認証プロトコル：「接続先にあわせる」(出荷時の設定)を選択

4

4-1.「WAN側設定」画面(つづき)

■マルチセッションとは

「PPPoE」を本製品の回線種別に設定した場合だけ使用できる機能で、ご契約の接続先がマルチセッションに対応していれば、同じパソコンから通常の「PPPoE」接続先とは別の「PPPoE」接続先(NTTフレッツ·スクウェア)にも接続できます。

※「第2セッション」側を使用する場合は、登録する接続先の回線がマルチセッションに対応している必要があります。

※本製品の場合、2005年1月現在に於いてマルチセッションに対応できる回線接続先は、NTTフレッツ·スクウェアだけです。

※お住まいの地域がNTTフレッツ·スクウェア提供地域であることをご確認ください。

※NTTフレッツ·スクウェアへの接続は、[接続状況]項目の「第1セッション」側に、フレッツ·ADSLやBフレッツへの接続内容を設定した接続先名を選択し、「第2セッション」側にNTTフレッツ·スクウェアへの接続内容を設定した接続先名を選択してください。

また、「WAN側詳細設定」画面にある[PPPoE詳細設定]項目の[接続先選択]欄で、該当する接続先名を選び、[宛先ドメイン]欄に、「＊.flets」と入力してください。

これを設定しない場合、NTTフレッツ·スクウェアのホームページを利用してサービスを受けることができません。

※NTT東日本でご契約の場合、NTTフレッツ·スクウェアを本製品でお使いいただくには、「ネットワーク設定」メニューの「ルーティング設定」画面にある[スタティックルーティング設定]項目(☞P98)で設定を追加(☞8-4章)してください。

※NTTから提供される「フレッツ接続ツール」は使用しません。

〈設定の手順について〉

本書8-4章では、NTTフレッツ·スクウェアの設定手順を記載しています。

右記の記載と併せてご覧ください。

4-1.「WAN側設定」画面(つづき)

■**回線設定/接続設定** (PPPoE複数固定IP設定時)

■**回線設定**

[PPPoE複数固定IP]方式で回線接続時、本製品のWAN側についての設定です。

WAN側設定
- WAN側設定
- WAN側詳細設定
- アドレス変換設定
- IPフィルタ設定

★ご契約の回線接続業者、またはプロバイダーから割り当てられた複数のグローバル固定IPアドレス(例：8個の場合)の使いかたについては、本書8-1章を参考にしてください。

[登録] [取消]

①WAN01 ②[編集] ③[削除]

回線設定			
接続先名	④		
IPアドレス	⑤		固定のIPアドレスを使用するときのみ入力します。
サブネットマスク	⑥		
デフォルトゲートウェイ	⑦		
プライマリDNSサーバ	⑧		
セカンダリDNSサーバ	⑨		
接続設定			
ユーザID	⑩		
パスワード	⑪		
認証プロトコル	⑫	接続先にあわせる	

〈登録〉ボタン …………………… [回線設定]項目(④～⑨)および[接続設定]項目(⑩～⑫)の内容を確定するボタンです。

〈取消〉ボタン …………………… [回線設定]項目(④～⑨)および[接続設定]項目(⑩～⑫)の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお、〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

①**接続先選択** …………………… 〈▼〉をクリックして、「追加」を選択すると接続先の登録を追加できます。　(最大8件まで登録可能)
登録されている接続先に対する内容を変更するときは、この欄から編集する接続先名を選択します。
〈編集〉をクリック後に、[回線設定]項目(④～⑨)および[接続設定]項目(⑩～⑫)を設定してください。

② **〈編集〉ボタン**……………… [接続先選択](①)で選択した接続先名称の設定内容を変更するため、その内容を[回線設定]項目(④～⑨)と[接続設定]項目(⑩～⑫)に表示するボタンです。

③ **〈削除〉ボタン**……………… [接続先選択](①)で選択した接続先を削除するボタンです。

4-1.「WAN側設定」画面(つづき)

■回線設定/接続設定 (PPPoE複数固定IP設定時)つづき

WAN側設定
- WAN側設定
- WAN側詳細設定
- アドレス変換設定
- IPフィルタ設定

登録 取消

回線設定 WAN01 ①	編集 ②	削除 ③	
接続先名	④		
IPアドレス	⑤		固定のIPアドレスを使用するときのみ入力します。
サブネットマスク	⑥		
デフォルトゲートウェイ	⑦		
プライマリDNSサーバ	⑧		
セカンダリDNSサーバ	⑨		
接続設定			
ユーザID	⑩		
パスワード	⑪		
認証プロトコル	⑫	接続先にあわせる	

④接続先名 ……………………… ご契約になっているプロバイダーの名前を、任意の英数字、半角31(全角15)文字以内で入力します。
登録後、入力した名前は、[接続先選択](①)に表示されます。

⑤IPアドレス …………………… ご契約のプロバイダーや回線接続業者から指定されたときに限り、本製品のWAN側IPアドレスを入力します。
※複数固定IPアドレスサービスをご契約の場合についても、指定された固定IPアドレスの中から、1つをこの欄に入力します。

⑥サブネットマスク ………… ご契約のプロバイダーや回線接続業者から指定されたときに限り、本製品のWAN側のサブネットマスクを入力します。
※複数固定IPアドレスサービスをご契約の場合についても、指定されたサブネットマスクをこの欄に入力します。

⑦デフォルトゲートウェイ … ご契約のプロバイダーや回線接続業者から指定されたときに限り、本製品のデフォルトゲートウェイを入力します。

⑧プライマリDNSサーバ …… ご契約の回線接続業者、またはプロバイダーからDNSサーバのアドレスが2つ指定されている場合は、どちらか一方、または指定されているプライマリDNSアドレスを入力します。

⑨セカンダリDNSサーバ …… ご契約の回線接続業者、またはプロバイダーからDNSサーバのアドレスが2つ指定されている場合は、どちらか一方、または指定されているセカンダリDNSアドレスを入力します。

4-1.「WAN側設定」画面(つづき)

■回線設定/接続設定 (PPPoE複数固定IP設定時)つづき

WAN側設定
- WAN側設定
- WAN側詳細設定
- アドレス変換設定
- IPフィルタ設定

■接続設定　　**接続先からの指定に応じて入力します。**

⑩ユーザID ……………………　プロバイダーから指定されたログインユーザー名またはアカウント名を大文字/小文字の表記に注意して入力します。

⑪パスワード …………………　プロバイダーから指定されたログインパスワードを大文字/小文字の表記に注意して入力します。

⑫認証プロトコル ……………　ご契約の回線接続業者、またはプロバイダーから指定された認証プロトコルを設定します。
指定のない場合は、「接続先にあわせる」(出荷時の設定)でご使用ください。

4-2.「WAN側詳細設定」画面

■共通詳細設定

本製品のWAN側回線に共通する詳細設定です。

WAN側設定
- WAN側設定
- WAN側詳細設定
- アドレス変換設定
- IPフィルタ設定

WAN側詳細設定
インターネット接続に関する詳細設定を行います。

登録 取消 登録して再起動　UPnP設定は再起動後に有効になります。

共通詳細設定	
WAN側通信速度 ①	自動
WAN側MACアドレス変更機能 ②	◉デフォルト ○指定
ステルスモードを使用 ③	○しない ◉する
DNSサーバアドレスを自動取得 ④	○しない ◉する

※「DHCP」設定時は、[共通詳細設定]項目と[UPnP設定]項目だけを表示します。

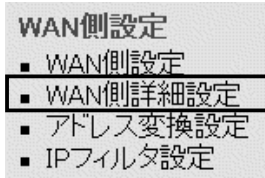
〈登録〉ボタン ……………………
「WAN側詳細設定」画面で変更した内容を画面上で確定するボタンです。
[UPnP設定]項目(☞P148)以外の設定内容が有効になります。
※[UPnP設定]項目の変更内容は、画面上で確定されるだけですので、〈登録して再起動〉をクリックするまで有効になりません。

〈取消〉ボタン ……………………
「WAN側詳細設定」画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

〈登録して再起動〉ボタン ……
本製品を再起動して、「WAN側詳細設定」画面で変更したすべての設定内容が有効になります。

①WAN側通信速度……………
本製品とLANケーブルで接続された機器間のリンクスピードの設定です。　(出荷時の設定：自動)
◎自動：本製品の[WAN]ポートに接続されている機器の通信速度に合わせて自動で設定されます。
◎100(Half Duplex)：
[100Mbps(Half Duplex)]固定で通信します。
本製品の[WAN]ポートに接続されている機器が、[100Mbps(Half Duplex)]に対応しているとき設定できます。
◎100(Full Duplex)：
[100Mbps/Full Duplex]固定で通信します。
本製品の[WAN]ポートに接続している機器が、[100Mbps(Full Duplex)]に対応しているとき設定できます。
◎10(Half Duplex)：
[10Mbps(Half Duplex)]固定で通信します。
本製品の[WAN]ポートに接続されている機器が、[10Mbps/Half Duplex]に対応しているとき設定できます。

☞次ページへつづく

4-2.「WAN側詳細設定」画面
■共通詳細設定(つづき)

WAN側設定
- WAN側設定
- WAN側詳細設定
- アドレス変換設定
- IPフィルタ設定

WAN側詳細設定
インターネット接続に関する詳細設定を行います。

登録　取消　登録して再起動　UPnP設定は再起動後に有効になります。

共通詳細設定	
WAN側通信速度 ①	自動
WAN側MACアドレス変更機能 ②	◉デフォルト ○指定
ステルスモードを使用 ③	○しない ◉する
DNSサーバアドレスを自動取得④	○しない ◉する

※「DHCP」設定時は、[共通詳細設定]項目と[UPnP設定]項目だけを表示します。

①WAN側通信速度(つづき) …　◎10(Full Duplex)：
[10Mbps(Full Duplex)]固定で通信します。
本製品の[WAN]ポートに接続されている機器が、[10Mbps/Full Duplex]に対応しているとき設定できます。

②WAN側MACアドレス変更機能 ……………………　インターネットを、すでにMACアドレス登録が必要なプロバイダーでご使用の場合、登録された機器のMACアドレスで対応できます。(出荷時の設定：デフォルト)
登録している機器のMACアドレスを入力したときは、「指定」のラジオボタンをクリックしてから〈登録〉をクリックします。

⚠警告
この機能をご利用になるときは、登録されているMACアドレスをよく確認していただき、設定値を間違えないように注意してください。
設定値を誤ってご使用になられたことにより生じる結果については、一切その責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

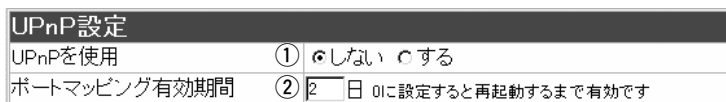
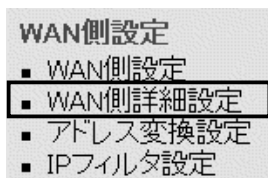
③ステルスモードを使用 ……　インターネットを使用して本製品に不正アクセスされた場合、Pingやポートスキャンに対して防御するかしないかの設定です。
(出荷時の設定：する)

④DNSサーバアドレスを自動取得 ……………………　WAN側DNSサーバアドレスを、DHCPまたはPPPoEより自動取得するかしないかの設定です。(出荷時の設定：する)

4-2.「WAN側詳細設定」画面(つづき)

■UPnP設定

WAN側設定
■ WAN側設定
■ WAN側詳細設定
■ アドレス変換設定
■ IPフィルタ設定

UPnP設定		
UPnPを使用	①	⊙しない ○する
ポートマッピング有効期間	②	2 日 0に設定すると再起動するまで有効です

①UPnPを使用 ………………

UPnP(Universal Plug and Play)機能を使用するかしないかの設定です。 (出荷時の設定:しない)

UPnPを使用すると、NATトラバーサル対応のアプリケーションを、本製品に接続された有線パソコンから利用できます。

※使用時は、セキュリティーが低下しますので注意が必要です。

〈本製品のUPnP機能について〉

下記のアプリケーションが本製品のUPnP(NATトラバーサル)機能に対応しています。

◎Windows Messenger (Version4.6以上)
　WindowsXP専用アプリケーション

◎MSN Messenger (Version4.6以上)
　Windows98/98SE/Me/2000専用アプリケーション

※MSN Messengerで音声チャットを行う場合は、「DirectX」のバージョン8.1以上が必要です。

※あらかじめIPフィルターを設定しているポートをMessengerで使用した場合は、UPnP機能が優先します。

※アプリケーションをバージョンアップする必要がある場合は、「Windows Update」などから行ってください。

②ポートマッピング有効期間

※ポートマッピング機能は、「複数固定IP接続」でグローバルIPアドレスを割り当てられたパソコンには機能しません。

UPnP(NATトラバーサル)対応アプリケーションなどを使用するために、WAN側に対してポートを開いている期間を日数で設定します。

最大9999日まで設定できます。 (出荷時の設定:2)

※「0」日を設定すると、アプリケーションを正しく終了しなかった場合など、本製品を再起動するまでポートが開いたままになりますのでご注意ください。

4-2.「WAN側詳細設定」画面(つづき)

■Messenger機能対応表　　出荷時、UPnP機能は、「使用しない」に設定されています。

：UPnPが必要な機能を意味します。

○：対応　×：非対応

アプリケーション	機　能	UPnP機能を使用する	UPnP機能を使用しない(出荷時)
Windows Messenger ※Windows XP専用	サインイン	○	○
	メンバーの追加	○	○
	インスタントメッセージ	○	○
	音声チャット	○(Version 4.6以上)	×
	ビデオチャット	○(Version 4.6以上)	×
	アプリケーション共有	○(Version 4.6以上)	×
	ホワイトボード	○(Version 4.6以上)	×
	ファイル転送	×	×
	電話をかける	×	×
リモートアシスタンス ※Windows XP専用	デスクトップの制御	○(Version 4.6.0082以上)	×
	音声会話	○(Version 4.6.0082以上)	×
	ファイル転送	○(Version 4.6.0082以上)	×
MSN Messenger ※Windows 98 Windows 98SE Windows Me Windows 2000	サインイン	○	○
	メンバーの追加	○	○
	インスタントメッセージ	○	○
	音声チャット	○(Version 4.6以上、DirectX8.1以上)	×
	ファイル転送	×	×
NetMeeting	すべての機能	×	×

※相手のパソコンとIP電話する場合、「Windows Messenger」または「MSN Messenger」の音声チャット機能を利用します。

4-2.「WAN側詳細設定」画面(つづき)

■Windows Messengerの制限について

〈制限〉

◎通信相手もUPnP対応ルータを使用しているか、グローバルIPアドレスが割り当てられている必要があります。

◎Messengerでの音声チャットなどは、プロバイダーや回線接続業者から割り当てられるIPアドレスがプライベートIPアドレスの場合、使用できません。

◎静的マスカレードで使用しているポートが多い場合、Messengerの起動が遅かったり音声チャット等が利用できないことがあります。

〈再起動が必要な場合〉

下記のような原因でMessengerが使用できなくなったときは、Messengerを完全に終了してからもう一度起動してください。

◎Messengerを起動させた状態でポートマッピングの有効期間を経過したとき

◎Messenger起動後にNATおよび静的マスカレードの設定を変更したとき

◎パソコンがスリープ状態になったとき

4-2.「WAN側詳細設定」画面(つづき)

■PPPoE詳細設定

「PPPoE」/「PPPoE複数固定IP」で使用するとき設定します。

WAN側設定
- WAN側設定
- WAN側詳細設定
- アドレス変換設定
- IPフィルタ設定

WAN側詳細設定
インターネット接続に関する詳細設定を行います。

登録　取消　登録して再起動　UPnP設定は再起動後に有効になります。

PPPoE詳細設定		
接続先選択	①	WAN01 選択
接続設定	②	○手動 ○自動 ◉常時
自動切断タイマ	③	10 分 自動接続時のみ有効です。0に設定するとOFFになります。
MSS制限値	④	1322
ACネーム	⑤	
サービスネーム	⑥	

※回線種別を「DHCP」に設定したときは、表示されません。

〈登録〉ボタン ……………………

「WAN側詳細設定」画面で変更した内容を画面上で確定するボタンです。
[UPnP設定]項目(☞P148)以外の設定内容が有効になります。
※[UPnP設定]項目の変更内容は、画面上で確定されるだけですので、〈登録して再起動〉をクリックするまで有効になりません。

〈取消〉ボタン ……………………

「WAN側詳細設定」画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

〈登録して再起動〉ボタン ……

本製品を再起動して、「WAN側詳細設定」画面で変更したすべての設定内容が有効になります。

4

①接続先選択 ……………………

詳細設定する接続先名を選択します。
選択したら、〈選択〉をクリックします。
「WAN側設定」画面の[回線設定]項目および[接続設定]項目で登録した接続先ごとの設定を詳細にできます。

②接続設定 ………………………

回線への接続方法を選択します。　　　　(出荷時の設定：常時)
◎手動：「WAN側設定」画面の〈接続〉/〈切断〉ボタンで、回線を強制的に接続/切断します。
◎自動：パソコンからホームページやメールを見る操作を行うだけで、自動的に接続します。
◎常時：常時接続します。
本製品で指定した接続先(WAN側)と常に接続状態を保持します。
SIPサーバを使用するときなどは、「常時」を設定します。

4-2.「WAN側詳細設定」画面

■PPPoE詳細設定(つづき)

WAN側設定
- WAN側設定
- WAN側詳細設定
- アドレス変換設定
- IPフィルタ設定

WAN側詳細設定

インターネット接続に関する詳細設定を行います。

登録 取消 登録して再起動 UPnP設定は再起動後に有効になります。

PPPoE詳細設定		
接続先選択	①	WAN01 選択
接続設定	②	○手動 ○自動 ◉常時
自動切断タイマ	③	10 分 自動接続時のみ有効です。0に設定するとOFFになります。
MSS制限値	④	1322
ACネーム	⑤	
サービスネーム	⑥	

※回線種別を「DHCP」に設定したときは、表示されません。

③自動切断タイマ ……………

[接続設定](②)欄で「自動」を設定している場合、WAN側への送出パケットがなくなってから回線を切断するまでの時間を分で入力します。 (出荷時の設定：10)
設定できる範囲は、「0(自動切断しない)〜65535(分)」です。

④MSS制限値 …………………

プロバイダーから指定されている場合に限り、WAN側回線への最大有効データ長を数字で指定します。 (出荷時の設定：1322)
設定できる範囲は、「536〜1452(バイト)」です。
MSS値とは、受信できる最大セグメント数のことです。
一般に、MSS値は、フラグメントが発生しない範囲で大きいほど良いとされています。
しかし、[PPPoE]回線のMTUは、通常のEthernetのMTU(1500バイト)より小さいため、MSS値が大きくなりすぎると、パケットがインターネット上を通過しないことがありますので、ご注意ください。

⑤ACネーム……………………

プロバイダーから指定されている場合に限り、指定のアクセスコンセントレーター名を入力します。

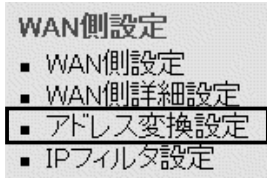
⑥サービスネーム ……………

プロバイダーから指定されている場合に限り、指定のサービスネームを入力します。

4-3.「アドレス変換設定」画面

■アドレス変換設定

アドレス変換機能を設定します。

WAN側設定
- WAN側設定
- WAN側詳細設定
- アドレス変換設定
- IPフィルタ設定

アドレス変換設定
静的マスカレードと静的NATの設定を行います。

登録　取消

アドレス変換設定		
アドレス変換	①	○しない ⦿する
DMZホスト IPアドレス	②	
PPTPパススルーを使用	③	○しない ⦿する

〈登録〉ボタン ……………………　「アドレス変換設定」画面で変更したすべての設定内容が有効になります。

〈取消〉ボタン ……………………　「アドレス変換設定」画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

①アドレス変換 ………………　静的マスカレード機能、静的NAT機能を使用して、指定したグローバルアドレスをプライベートアドレスに変換するかしないかを選択します。　(出荷時の設定：する)

②DMZホストIPアドレス……　DMZホスト機能(非武装セグメント)を使用するホストのIPアドレスを入力します。
DMZホスト機能を使うと、WAN(インターネット)側から発信されたすべてのIPフレームを、LAN側に存在する特定IPアドレスへ転送できます。
転送することにより、本製品とLANケーブルで接続されたパソコンでWWWサーバを運用したり、ネットワーク対戦ゲームなどが行えますが、セキュリティー上問題となることがありますのでご使用には十分ご注意ください。

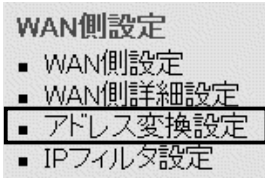
③PPTPパススルーを使用 …　自宅のパソコンなどから、インターネット経由で社内LANの仮想プライベートネットワーク(VPN)サーバにアクセスするとき設定します。　(出荷時の設定：する)
PPTPクライアントからのパケットをWAN側に転送するかしないかの設定です。

※使用例については、本書8-3章を参考にパソコンを設定してください。

4

4-3.「アドレス変換設定」画面

■静的マスカレードテーブル設定　IPマスカレード変換を静的に行う設定です。

WAN側設定
- WAN側設定
- WAN側詳細設定
- アドレス変換設定
- IPフィルタ設定

静的マスカレードテーブル 設定

登録の追加

ローカルIP	プロトコル	ポート	開始ポート	終了ポート	
	TCP	指定			追加

現在の登録

ローカルIP	プロトコル	開始ポート	終了ポート	

マスカレードIP(ルータグローバルIP)に対して、アクセスしてきたパケットをプロトコルにより判定し、ここで指定したプライベートIPアドレスを割り当てたローカル端末へアドレス変換します。
最大32個のマスカレードテーブルを設定できます。

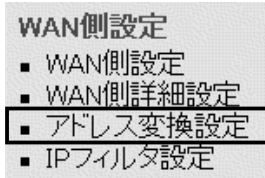
◎ローカルIP：プライベートIPアドレスを入力します。
◎プロトコル：TCP、UDP、TCP/UDP、GREから選択します。
◎ポート　　：選択したプロトコルに対するポートを数字で指定するときは、「指定」を選択します。
数字で指定しない場合は、ニーモニック(DNS、Finger、FTP、Gopher、NEWS、POP3、SMTP、Telnet、Web、Whois)から選択します。
◎開始ポート：プロトコルに対する開始ポート番号を入力します。
◎終了ポート：プロトコルに対する終了ポート番号を入力します。
※入力後は〈追加〉をクリックして、[現在の登録]欄に登録されたことを確認してください。

■DMZホスト機能と静的マスカレード機能の違い

DMZホスト機能	静的マスカレード機能
プロトコルやポート番号の指定が不要。	プロトコルやポート番号の指定が必要。
転送先として指定できるホストのIPアドレスは、1つだけである。	異なるプロトコルやポート番号ごとに、複数の転送先を設定できる。
転送先の変更が容易にできる。	転送先は、プロトコルやポート番号ごとに指定されているため、変更が複雑である。
転送先に指定したホストについては、セキュリティーが低下する。	静的マスカレードテーブルに登録していないプロトコルやポート番号は、遮断される。

4-3.「アドレス変換設定」画面

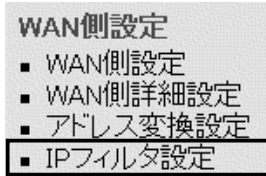
■静的NATテーブル設定

WAN側設定
- WAN側設定
- WAN側詳細設定
- アドレス変換設定
- IPフィルタ設定

グローバルとプライベートのIPアドレス変換を行う設定です。

静的NATテーブル 設定			
登録の追加			
グローバルIP	−	ローカルIP	
	−		追加
現在の登録			
グローバルIP	−	ローカルIP	

プロバイダーおよび回線接続業者との契約で、複数のグローバルIPアドレスを取得した場合に、ローカルIPアドレスに1対1で変換させるためのテーブル設定です。
最大32個のNATテーブルを設定できます。
◎グローバルIP：指定されたグローバルIPアドレスを入力します。
◎ローカルIP　：任意のプライベートIPアドレスを入力します。
※入力後は〈追加〉をクリックして、[現在の登録]欄に登録されたことを確認してください。

4

4-4.「IPフィルタ設定」画面

■ 不正アクセス検知機能設定

WAN側回線から本製品に不正な攻撃を受けたことを検知してIPフィルターの手前で阻止する機能を設定します。

WAN側設定
- WAN側設定
- WAN側詳細設定
- アドレス変換設定
- IPフィルタ設定

IPフィルタ設定
IPフィルタの設定を行います。

登録 取消

不正アクセス検知機能設定		
不正アクセス検知機能を使用	①	◉しない ○する
検知結果を出力	②	○しない ◉する
検知時間	③	1 分
検知回数	④	100 回

〈登録〉ボタン ………………… 「IPフィルタ設定」画面で変更したすべての設定内容が有効になります。

〈取消〉ボタン ………………… 「Pフィルタ設定」画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

①不正アクセス検知機能を使用

不正アクセス検知機能を使用するかしないかを選択します。
(出荷時の設定：しない)
検知できる内容は以下の通りです。

◎IP Spoofing ：偽りのLAN側アドレスでパケットを受けたとき

◎Land attack ：始点IPアドレスと終点IPアドレスが同じパケットを受けたとき

◎TCP Syn Flooding ：設定した[検知時間]以内に設定した[検知回数]より多い接続要求(SYN)を受けたとき

◎Tiny Fragmenting ：Tiny fragment attack(RFC 1858で定義)を受けたとき

◎Source Routing ：Loose routing IP optを検出したとき
Loose source routing headerを受けたとき
Strict routing IP optを検出したとき
Strict source routing headerを受けたとき

4-4.「IPフィルタ設定」画面

■不正アクセス検知機能設定(つづき)

WAN側設定
- WAN側設定
- WAN側詳細設定
- アドレス変換設定
- IPフィルタ設定

IPフィルタ設定
IPフィルタの設定を行います。

登録　取消

不正アクセス検知機能設定		
不正アクセス検知機能を使用	①	⊙しない ○する
検知結果を出力	②	○しない ⊙する
検知時間	③	1 分
検知回数	④	100 回

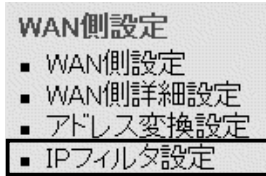
②検知結果を出力 ……………　不正アクセスを検知したとき、検知結果を「情報表示」メニューの「通信記録」画面に表示するかしないかを選択します。
(出荷時の設定：する)
※このときの「通信記録」画面表示例は、6-2章をご覧ください。

③検知時間 ………………………　「TCP Syn Flooding」を検知する時間を設定します。
設定できる範囲は、「1～60(分)」です。　(出荷時の設定：1)

④検知回数 ………………………　「TCP Syn Flooding」を検知する回数を設定します。
[検知時間](③)欄で設定した時間内に設定回数以上のアクセスを検知すると、不正アクセスと判断します。
設定できる範囲は、「5～999(回)」です。　(出荷時の設定：100)

4-4.「IPフィルタ設定」画面

■IPフィルタ設定

WAN側設定
- WAN側設定
- WAN側詳細設定
- アドレス変換設定
- IPフィルタ設定

特定条件を満たす内部または外部からのパケットを通過させたり、通過を阻止させるフィルターの設定です。

IPフィルタ設定 [追加]		
番号	①	[ ]
フィルタ方向	②	○WAN側から ◉LAN側から ○両方
フィルタ方法	③	◉遮断 ○透過
プロトコル	④	[すべて] 指定時: [ ]
発信元ポート番号	⑤	[すべて] 指定時: [ ] ～ [ ]
宛先ポート番号	⑥	[すべて] 指定時: [ ] ～ [ ]
発信元IPアドレス	⑦	[ ] ～ [ ]
宛先IPアドレス	⑧	[ ] ～ [ ]

①番号 ……………………………
最大64件のフィルターを登録できます。
設定できる範囲は、「1～64」です。
フィルターを登録すると、本製品がパケットを受信または送信するごとに、[現在の登録]項目(☞P161)に表示されたフィルターと比較します。
[番号]欄では、フィルターを比較する順位を指定します。
フィルターを複数設定しているときは、番号の小さい順番に比較を開始します。
フィルターの条件に一致した時点で、それ以降の識別番号のフィルターは比較しません。
〈追加〉ボタン
この項目で新規作成、または編集した内容をフィルターとして[現在の登録]項目に登録するボタンです。
※フィルター条件は、1つ以上指定してください。
※番号が指定されていないときは、登録できません。

②フィルタ方向 …………………
パケットの通信方向で、WAN側から本製品に対して、フィルターの対象となる方向を設定します。
以下の中から選択してください。
◎WAN側から：WAN側から本製品が受信するIPパケットに対して、フィルタリング処理をします。
※フィルタリング処理は、アドレス変換のあとにします。
◎LAN側から：本製品からWAN側に送信するIPパケットに対して、フィルタリング処理をします。
※フィルタリング処理は、アドレス変換の前にします。
◎両方：本製品からWAN側に送信、およびWAN側から受信する両方のIPパケットに対して、フィルタリング処理をします。

4-4.「IPフィルタ設定」画面

■IPフィルタ設定(つづき)

WAN側設定
- WAN側設定
- WAN側詳細設定
- アドレス変換設定
- IPフィルタ設定

IPフィルタ設定 追加		
番号	①	
フィルタ方向	②	○WAN側から ◉LAN側から ○両方
フィルタ方法	③	◉遮断 ○透過
プロトコル	④	すべて 指定時:
発信元ポート番号	⑤	すべて 指定時: 〜
宛先ポート番号	⑥	すべて 指定時: 〜
発信元IPアドレス	⑦	〜
宛先IPアドレス	⑧	〜

③フィルタ方法 ………………… フィルタリングの方法は、以下の2通りから選択します。

◎遮断　：フィルタリングの条件に一致した場合、そのパケットをすべて破棄します。

◎透過　：フィルタリングの条件に一致した場合、そのパケットをすべて通過させます。

④プロトコル …………………… フィルタリングの対象となるパケットのトランスポート層プロトコルを選ぶ項目です。

◎指定　：右のテキストボックスに、IP層ヘッダーに含まれる上位層プロトコル番号を入力します。
プロトコル番号は、10進数で0〜255までの半角数字を入力してください。

◎すべて　：すべてのプロトコルの条件に一致します。

◎TCP　：TCPプロトコルの条件だけに一致します。

◎TCP_FIN　：TCP_FIN/RSTのパケットが処理の対象になります。

◎TCP_EST：TCP_SYNフラグのパケットが処理の対象になります。

◎UDP　：UDPプロトコルの条件だけに一致します。

◎ICMP　：ICMPプロトコルの条件だけに一致します。

◎GRE　：GREプロトコルの条件だけに一致します。

4-4.「IPフィルタ設定」画面

■IPフィルタ設定(つづき)

WAN側設定
■ WAN側設定
■ WAN側詳細設定
■ アドレス変換設定
■ IPフィルタ設定

IPフィルタ設定 追加		
番号	①	
フィルタ方向	②	○WAN側から ◉LAN側から ○両方
フィルタ方法	③	◉遮断 ○透過
プロトコル	④	すべて 指定時:
発信元ポート番号	⑤	すべて 指定時: ～
宛先ポート番号	⑥	すべて 指定時: ～
発信元IPアドレス	⑦	～
宛先IPアドレス	⑧	～

⑤発信元ポート番号 …………

フィルタリングの対象となる発信元のTCP/UDPポート番号を指定する項目です。数字で指定するときは、「指定」を選択して、番号を始点から終点まで連続で入力します。
設定できる範囲は、10進数で「1～65535」までの半角数字です。
また、特定のポートだけを指定するときは、始点だけ、または始点/終点に同一の番号を入力してください。
数字で指定しない場合は、「すべて」、またはニーモニック(DNS、Finger、FTP、Gopher、NEWS、POP3、SMTP、Telnet、Web、Whois)から選択します。

⑥宛先ポート番号 ……………

フィルタリングの対象となる宛先のTCP/UDPポート番号を指定する項目です。
数字で指定するときは、「指定」を選択して、番号を始点から終点まで連続で入力します。
設定できる範囲は、10進数で「1～65535」までの半角数字です。
また、特定のポートだけを指定するときは、始点だけ、または始点/終点に同一の番号を入力してください。
数字で指定しない場合は、「すべて」、またはニーモニック(DNS、Finger、FTP、Gopher、NEWS、POP3、SMTP、Telnet、Web、Whois)から選択します。

⑦発信元IPアドレス …………

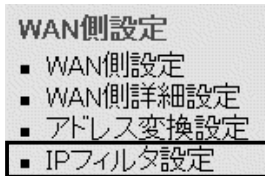
発信元ホストのIPアドレスを設定することにより、特定のホストからのパケットをフィルタリングします。
何も入力しない場合は、すべてのアドレスを対象とします。
発信元ホストのIPアドレスを始点から終点まで連続で入力します。
また、特定の発信元ホストだけを指定するときは、始点だけ入力してください。

⑧宛先IPアドレス ……………

宛先ホストのIPアドレスを設定することにより、特定のホストに対するパケットをフィルタリングします。
始点に何も入力しない場合は、すべてのアドレスを対象とします。
宛先ホストのIPアドレスを始点から終点まで連続で入力します。
また、特定の宛先ホストだけを指定するときは、始点だけ入力してください。

4-4.「IPフィルタ設定」画面(つづき)

■現在の登録

WAN側設定
- WAN側設定
- WAN側詳細設定
- アドレス変換設定
- IPフィルタ設定

現在の登録

		番号	方向	方法	プロトコル	発信元ポート番号	宛先ポート番号	発信元IPアドレス	宛先IPアドレス
編集	削除	57	WAN側から	透過	TCP	20	*	*	*
編集	削除	58	WAN側から	遮断	TCP_EST	*	*	*	*
編集	削除	59	両方	遮断	ALL	135	*	*	*
編集	削除	60	両方	遮断	ALL	*	135	*	*
編集	削除	61	両方	遮断	ALL	445	*	*	*
編集	削除	62	両方	遮断	ALL	*	445	*	*
編集	削除	63	両方	遮断	TCP	*	137 - 139	*	*
編集	削除	64	両方	遮断	UDP	137 - 139	137 - 139	*	*

現在登録されているIPフィルターを表示します。

【出荷時、登録されているフィルターについて】

◎57番　　：FTPをデフォルトで通過させる
◎58番　　：WAN側からの不正パケット防止
◎59〜64番：Windowsのアプリケーションを外部からリモートコントロールされる危険性を防止

〈編集〉ボタン

〈編集〉ボタンの右の欄に表示されたIPフィルターを編集するボタンです。
編集する欄の〈編集〉ボタンをクリックすると、その内容を[IPフィルタ設定]項目の各欄に表示します。

〈削除〉ボタン

〈削除〉をクリックすると、その右の欄に表示されたIPフィルターが削除されます。

4

「システム設定」メニュー

第5章

**この章では、
「システム設定」メニューで表示される設定画面について説明します。**

5-1.「本体管理設定」画面

■管理者ID設定

本製品の設定画面へのアクセスをIDとパスワードで制限するときの設定です。

システム設定
- 本体管理設定
- 時計設定
- SYSLOG設定
- SNMP設定
- ダイナミックDNS設定
- WEBページ設定

本体管理設定

管理者IDなどの設定を行います。

登録 取消

管理者ID設定		
管理者ID	①	
管理者パスワード	②	
パスワードの確認入力	③	

〈登録〉ボタン ……………………

「本体管理設定」画面で変更したすべての設定内容が有効になります。

〈取消〉ボタン ……………………

「本体管理設定」画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

①管理者ID ………………………

本製品の設定画面へのアクセスを制限する場合に、管理者としての名前を、大文字/小文字の区別に注意して、任意の英数字、半角31(全角15)文字以内で入力します。　(入力例：ap5100voip)
[管理者ID]を設定すると、次回のアクセスからユーザー名の入力を求められますので、そこに[管理者ID]を入力します。

②管理者パスワード …………

[管理者ID]に対するパスワードを設定する場合、大文字/小文字の区別に注意して、任意の英数字、半角31文字以内で入力します。
入力した文字は、すべて「＊(アスタリスク)」で表示されます。
(表示例：＊＊＊＊)
[管理者パスワード]を設定すると、次回のアクセスからパスワードの入力を求められますので、そこに[管理者パスワード]を入力します。

③パスワードの確認入力 ……

確認のために、パスワードを再入力します。　(表示例：＊＊＊＊)

5-1.「本体管理設定」画面(つづき)

■管理者IPアドレス

システム設定
- 本体管理設定
- 時計設定
- SYSLOG設定
- SNMP設定
- ダイナミックDNS設定
- WEBページ設定

本製品の設定画面へのアクセスをIPアドレスで制限するときの設定です。

管理者IPアドレス	
管理者IP1	
管理者IP2	
管理者IP3	

本製品の設定画面へのアクセスを制限する場合に、管理者が本製品のLAN側からアクセスする端末のIPアドレスを3台まで登録できます。　(入力例：192.168.0.5)

※[管理者IP]を設定すると、次回のアクセスからIPアドレスが登録された端末以外は、本製品の設定画面にアクセスできなくなります。

※設定しない(空白の)場合は、本製品のLAN側のすべての端末から設定画面にアクセスできます。

※本製品のWANからのアクセスについては、出荷時に登録しているIPフィルターとステルスモードの設定によって遮断されています。

■認証回数制限機能

システム設定
- 本体管理設定
- 時計設定
- SYSLOG設定
- SNMP設定
- ダイナミックDNS設定
- WEBページ設定

管理者IDを設定している場合に、本製品の設定画面へのアクセスを認証するときの設定です。

認証回数制限機能	
認証回数制限機能を使用	○しない ◉する

設定画面および「サービスメニュー」(N900iLご利用設定ガイド☞3章)への認証回数を制限する機能を使用するかしないか設定します。　(出荷時の設定：する)

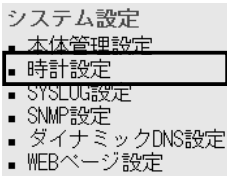
※一定時間内に連続して認証に失敗すると、その端末(IPアドレス)からのアクセスに3分間「403 Forbidden」を返して制限します。

※CGI認証IDでも有効です。

5-2.「時計設定」画面

■内部時計設定

本製品の内部時計を設定します。

システム設定
- 本体管理設定
- 時計設定
- SYSLOG設定
- SNMP設定
- ダイナミックDNS設定
- WEBページ設定

時計設定
本体の内部時計の設定を行います。

登録 取消

内部時計設定						
本体の時刻 ①	2003年	01月	01日	02時	14分	③
設定する時刻 ②	2004 年	12 月	03 日	18 時	31 分	時刻設定

〈登録〉ボタン …………………… [内部時計設定]以外の「時計設定」画面にある項目で変更したすべての設定内容が有効になります。

〈取消〉ボタン …………………… 「時計設定」画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお、〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

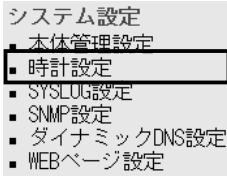
①本体の時刻 …………………… 本製品に設定されている時刻を表示します。

②設定する時刻 ……………… 本製品の設定画面にアクセスしたときの時刻を、最初に表示します。
※〈取消〉ボタンをクリックすると、空白になります。
WWWブラウザの〈更新〉ボタンをクリックすると、パソコンの時計設定を取得して表示します。

③時刻設定 …………………… [設定する時刻](②)欄に表示された時刻を本製品に設定するボタンです。
時刻を正確に設定するときは、本製品の設定画面に再度アクセスしなおすか、WWWブラウザの〈更新〉ボタンをクリックしてから、〈時刻設定〉ボタンをクリックしてください。

5-2.「時計設定」画面(つづき)

■自動時計設定

システム設定
- 本体管理設定
- 時計設定
- SYSLOG設定
- SNMP設定
- ダイナミックDNS設定
- WEBページ設定

本製品の内部時計を自動設定するとき、アクセスするタイムサーバの設定です。

自動時計設定		
自動時計設定を使用	①	○しない ◉する
NTPサーバ1　IPアドレス	②	133.100.9.2
NTPサーバ2　IPアドレス	③	
アクセス時間間隔	④	1 日
前回アクセス日時	⑤	----/--/-- --:--
次回アクセス日時	⑥	2003/01/02 00:01

①自動時計設定を使用 ……… インターネット上に存在するタイムサーバに日時の問い合わせをし、内部時計を自動設定します。　(出荷時の設定：する)

②NTPサーバ1 IPアドレス … 最初にアクセスするタイムサーバのIPアドレスを入力します。
(出荷時の設定：133.100.9.2)

③NTPサーバ2 IPアドレス … [NTPサーバ1 IPアドレス]の次にアクセスさせるタイムサーバがあるときは、そのIPアドレスを入力します。
返答がないときは、再度[NTPサーバ1 IPアドレス]で設定したタイムサーバにアクセスし、それでも接続できないときは、アクセスを中止します。

④アクセス時間間隔 ………… タイムサーバにアクセスする間隔を日で設定します。
設定できる範囲は、「0～99(日)」です。　(出荷時の設定：1)
「0」を設定したときは、タイムサーバにアクセスをしません。
回線に手動で接続したとき、前回アクセスした日から設定した日数が経過しているときは、接続時にタイムサーバにアクセスします。
回線への常時接続を設定しているときは、設定した日数にしたがってアクセスします。

⑤前回アクセス日時 ………… タイムサーバにアクセスした日時を表示します。

⑥次回アクセス日時 ………… タイムサーバにアクセスする予定日時を、[前回アクセス日時]欄と[アクセス時間間隔]欄で設定された日数より算出して表示します。

5-2.「時計設定」画面(つづき)

■接続制限設定

システム設定
- 本体管理設定
- 時計設定
- SYSLOG設定
- SNMP設定
- ダイナミックDNS設定
- WEBページ設定

本製品に無線で接続するパソコンからのアクセスを制限します。

接続制限設定

制限時間	有効曜日						
	日	月	火	水	木	金	土
00 : 00 ～ 00 : 00	□	□	□	□	□	□	□
00 : 00 ～ 00 : 00	□	□	□	□	□	□	□
00 : 00 ～ 00 : 00	□	□	□	□	□	□	□
00 : 00 ～ 00 : 00	□	□	□	□	□	□	□
00 : 00 ～ 00 : 00	□	□	□	□	□	□	□
00 : 00 ～ 00 : 00	□	□	□	□	□	□	□
00 : 00 ～ 00 : 00	□	□	□	□	□	□	□
00 : 00 ～ 00 : 00	□	□	□	□	□	□	□
00 : 00 ～ 00 : 00	□	□	□	□	□	□	□
00 : 00 ～ 00 : 00	□	□	□	□	□	□	□
00 : 00 ～ 00 : 00	□	□	□	□	□	□	□
00 : 00 ～ 00 : 00	□	□	□	□	□	□	□

時間の入力は、24時間制でします。
指定する曜日のチェックボックスをクリックして、チェックマークを入れます。
入力後は、〈登録〉をクリックします。
停電などに備えて、自動時計設定機能を併せてご使用になることをおすすめします。
※曜日を指定しないときは、機能しません。
※1つの登録で2日間にわたるような登録はできません。
※「本体管理設定」画面で、端末のIPアドレスを[管理者IP設定]項目に登録している場合、そのIPアドレスが設定された端末からは、接続制限設定に関係なくいつでもアクセスできます。

⚠警告

接続制限設定の前に、管理者IPアドレスを設定しておくことをおすすめします。

[管理者IPアドレス]項目(☞5-1章)を設定しない状態で、接続制限設定を使用すると、その制限時間帯は、本製品に無線で接続するすべての端末と通信できなくなります。

5-3.「SYSLOG設定」画面

■SYSLOG設定

システム設定
- 本体管理設定
- 時計設定
- SYSLOG設定
- SNMP設定
- ダイナミックDNS設定
- WEBページ設定

指定したホストアドレスにログ情報などを出力する設定をします。

SYSLOG設定
指定したホストアドレスにログ情報などを出力する設定を行います。
SYSLOG機能を利用してファイルとして一括管理ができます。

[登録] [取消]

SYSLOG設定		
DEBUGを使用	①	◉しない ○する
INFOを使用	②	◉しない ○する
NOTICEを使用	③	○しない ◉する
ホストアドレス	④	
ファシリティ	⑤	1

〈登録〉ボタン ……………………　「SYSLOG設定」画面で変更したすべての設定内容が有効になります。

〈取消〉ボタン ……………………　「SYSLOG設定」画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

①DEBUGを使用 ……………　各種デバッグ情報をSYSLOGに出力するかしないかを選択します。　(出荷時の設定：しない)

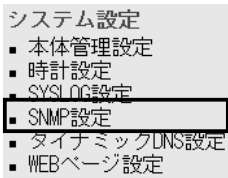
②INFOを使用 ……………………　INFOタイプのメッセージをSYSLOGに出力するかしないかを選択します。　(出荷時の設定：しない)

③NOTICEを使用 ……………　NOTICEタイプのメッセージをSYSLOGに出力するかしないかを選択します。　(出荷時の設定：する)

④ホストアドレス ……………　SYSLOG機能を使用する場合、SYSLOGを受けるホストのアドレスを入力します。
ホストはSYSLOGサーバ機能に対応している必要があります。

⑤ファシリティ ………………　SYSLOGのファシリティを入力します。　(出荷時の設定：1)
設定できる範囲は、「0～23」です。
通常「1」を使用します。

5-4.「SNMP設定」画面

■SNMP設定

TCP/IPネットワークにおいて、ネットワーク上の各ホストから自動的に情報を収集してネットワーク管理するとき設定します。

システム設定
- 本体管理設定
- 時計設定
- SYSLOG設定
- SNMP設定
- ダイナミックDNS設定
- WEBページ設定

SNMP設定
SNMP機能に関する設定を行います。

登録　取消

SNMP設定		
SNMPを使用	①	○しない ◉する
コミュニティID(GET)	②	public
コミュニティID(SET)	③	private

〈登録〉ボタン …………………… 「SNMP設定」画面で変更したすべての設定内容が有効になります。

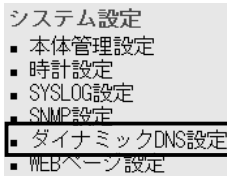
〈取消〉ボタン …………………… 「SNMP設定」画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

①SNMPを使用 ……………… SNMP機能を使用するかしないかを選択します。
(出荷時の設定：する)

②コミュニティID(GET) …… 本製品の設定情報をSNMP管理ツール側から読み出すことを許可するIDを設定します。　(出荷時の設定：public)
入力は、半角31文字以内の英数字で入力します。

③コミュニティID(SET) …… 本製品の設定情報をSNMP管理ツール側から変更することを許可するIDを設定します。　(出荷時の設定：private)
入力は、半角31文字以内の英数字で入力します。

5-5.「ダイナミックDNS設定」画面

■登録状況

ダイナミックDNSの自動更新機能を使用時、自動更新状況を表示します。

システム設定
- 本体管理設定
- 時計設定
- SYSLOG設定
- SNMP設定
- ダイナミックDNS設定
- WEBページ設定

「Peer to Peer」でIP電話するときやWeb公開するとき、便利な機能です。

ダイナミックDNS設定
ダイナミックDNSサーバに現在のIPアドレスを自動登録するための設定を行いま

登録状況

	①	設定1 接続	設定2 接続
起動時刻	②	2005/05/11 19:19	----/--/-- --:--
登録状態	③	IPアドレスを更新しました 更新	未登録
ホストアドレス	④	telephone.icom.co.jp	
IPアドレス	⑤	192.168.63.129	

①設定1/設定2 ………………… ダイナミックDNSサーバを設定した方の〈接続〉ボタンをクリックすると、本製品に設定されたWAN側IPアドレスを、[ダイナミックDNSサーバ]欄で選択したダイナミックDNSサーバに送信します。

②起動時刻 ……………………… ご契約のプロバイダーや回線接続業者から本製品に自動配布されるIPアドレスの変更を、ご利用のダイナミックDNSサーバに自動アップデート(更新)されたときの時刻を表示します。

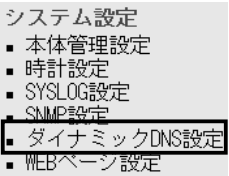
③登録状態 ……………………… 自動アップデートが正常に行われたときは、「IPアドレスを更新しました」と表示されます。
※[登録状況]項目に表示される内容を更新するときは、〈更新〉ボタンをクリックするまで内容は更新されません。
〈更新〉ボタンは、[ダイナミック設定(1)/(2)]項目の[自動更新を使用]欄で、「する」を設定したとき表示します。
※「回線に接続していません」/「ダイナミックDNSサーバにアクセスできませんでした」/「ダイナミックDNSサーバにログインできませんでした」/「ダイナミックDNSサーバからエラーが返されました」/「ダイナミックDNSサーバが選択されていません」/「DNS解決に失敗しました」などが表示されたときは、ご利用になるダイナミックDNSサーバからの情報が、[ダイナミックDNS設定]項目の各欄に正しく設定されているかを確認してください。

④ホストアドレス …………… ダイナミックDNSサーバに登録されているホスト名([ダイナミックDNS設定]項目(☞P173)の[ホスト名]欄と[ドメイン]欄に入力した内容)を表示します。
※登録したホスト名が「icomphone」で、登録したドメインが「icom.co.jp」の場合は、「icomphone.icom.co.jp」と表示されます。

⑤IPアドレス ………………… 現在、ダイナミックDNSサーバに登録されているグローバルIPアドレスを表示します。

5-5.「ダイナミックDNS設定」画面(つづき)

■[ダイナミックDNS設定(1)/ダイナミックDNS設定(2)]

システム設定
- 本体管理設定
- 時計設定
- SYSLOG設定
- SNMP設定
- ダイナミックDNS設定
- WEBページ設定

※「Peer to Peer」でIP電話するときやWeb公開するとき、便利な機能です。
※[ダイナミックDNS設定(1)]項目と[ダイナミックDNS設定(2)]項目は、同じため、[ダイナミックDNS設定(1)]項目の画面を例に説明します。

ダイナミックDNSサービスから取得したドメインと本製品のWAN側IPアドレスの関連付けを登録および更新についての設定です。

登録　取消

ダイナミックDNS設定(1)			
自動更新を使用	①	⊙しない　○する	
定期更新間隔	②	10 日	
登録するIPアドレス	③	⊙WAN　○LOCAL	
ダイナミックDNSサーバ	④	設定なし	
ホスト名	⑤		登録したURLが「test.example.com」の場合「test」がホスト名、「example.com」がドメインとなります。
ドメイン	⑥		
ユーザID	⑦		
パスワード	⑧		
接続状態	⑨	⊙オンライン　○オフライン	

〈登録〉ボタン ……………………
「ダイナミックDNS設定(1)」画面で変更したすべての設定内容が有効になります。

〈取消〉ボタン ……………………
「ダイナミックDNS設定」画面の設定内容を変更したとき、変更前の状態に戻すボタンです。
なお〈登録〉をクリックすると、変更前の状態には戻りません。

①自動更新を使用 ……………
本製品のWAN側(ご契約のプロバイダーや回線接続業者から本製品に自動配布される)IPアドレスが変更されたらすぐに、ダイナミックDNSサーバへの登録を自動で更新するかしないかを選択します。　(出荷時の設定：しない)
※自動更新に失敗した場合は、その後、1時間ごとに自動更新をします。
※「しない」を設定したときは、[定期更新間隔](②)欄も無効になります。

②定期更新間隔 ………………
ダイナミックDNSサーバへの登録を定期的に行う間隔を設定します。　(出荷時の設定：10)
設定できる範囲は、「0～99(日)」です。
※ダイナミックDNSの自動更新間隔を、「0」に設定したときは、ダイナミックDNSの自動更新機能だけが動作します。
※ご利用になるダイナミックDNSサーバによっては、一定期間更新がないと、取得したドメインが無効になるため、定期的に更新することで防止できます。

5-5.「ダイナミックDNS設定」画面(つづき)

■[ダイナミックDNS設定(1)/ダイナミックDNS設定(2)]

システム設定
- 本体管理設定
- 時計設定
- SYSLOG設定
- SNMP設定
- ダイナミックDNS設定
- WEBページ設定

「Peer to Peer」でIP電話するときやWeb公開するとき、便利な機能です。

登録　取消

ダイナミックDNS設定(1)		
自動更新を使用	①	◉しない　○する
定期更新間隔	②	10 日
登録するIPアドレス	③	◉WAN　○LOCAL
ダイナミックDNSサーバ	④	設定なし
ホスト名	⑤	登録したURLが「test.example.com」の場合「test」がホスト名、「example.com」がドメインとなります。
ドメイン	⑥	
ユーザID	⑦	
パスワード	⑧	
接続状態	⑨	◉オンライン　○オフライン

③登録するIPアドレス ………　ダイナミックDNSサーバに登録するIPアドレスを本製品のWAN側IPアドレスにするか、LOCAL(LAN)側IPアドレスにするかを選択します。
LOCAL側を設定したときは、本製品を再起動したときIPアドレスを更新します。　(出荷時の設定：WAN)

④ダイナミックDNSサーバ …　ご利用になるダイナミックDNSサーバを選択します。
(出荷時の設定：設定なし)
ご利用いただけるのは、下記のサーバです。
◎ieServer　◎Dynamic Do!.jp
◎Zenno.Com　◎Earth Dynamic System
◎DynDNS.org(英語)

⑤ホスト名 ………………………　ご利用になるダイナミックDNSサイトから取得したホスト名を半角31文字以内で入力します。

⑥ドメイン ………………………　ご利用になるダイナミックDNSサイトから取得したドメインを半角31文字以内で入力します。

⑦ユーザID ………………………　ご利用になるダイナミックDNSサーバへ接続するためのユーザーIDを半角31文字以内で入力します。

⑧パスワード …………………　ご利用になるダイナミックDNSサーバへ接続するためのパスワードを半角31文字以内で入力します。
入力した文字はすべて「＊」で表示されます。
(入力例：icom / 表示例：＊＊＊＊)

⑨接続状態 ………………………　メンテナンスなどで、本製品を一時的に使用しない場合など、あらかじめ、ご利用になるダイナミックDNSサーバへ「オフライン」であることを通知するときに使用します。
(出荷時の設定：オンライン)

5-6.「WEBページ設定」画面

■ページ設定

システム設定
- 本体管理設定
- 時計設定
- SYSLOG設定
- SNMP設定
- ダイナミックDNS設定
- WEBページ設定

右斜め下に記載の画面に表示される内容が設定できます。
掲載例は、FOMA N900iLのWANブラウザから本製品のサービスメニューにアクセスしたときの例です。

FOMA N900iLのWANブラウザからアクセスするページについての設定です。

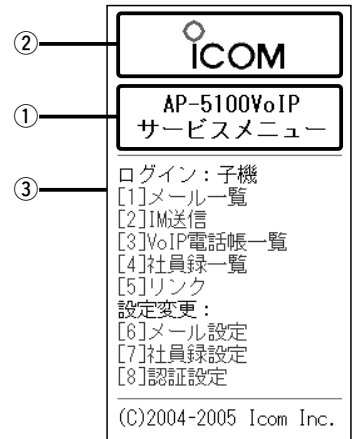
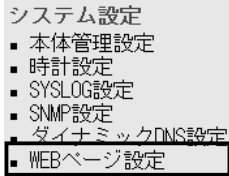
①タイトル ……………………… アクセスしたとき、最初に表示されるページのタイトル(表題)を設定します。
設定しないときは、タイトルを右の画面(①)のように表示します。

[本製品のページ]

②ロゴ画像 ……………………… アクセスしたとき、ロゴ(画像)を最初のページに表示するかしないかを設定します。
リンク先を設定しないときは、弊社のロゴを右上の画面(②)のように表示します。
表示させるときは、画像ファイルのリンク先を設定します。 (http://192.168.0.1/logo.gif)
※リンク先を設定している場合で、その画像を表示させないようにするときは、「表示なし」をクリックします。

③背景色 ……………………… アクセスするページの背景をお好みの色(白、青、黄、緑、桃)で表示する設定です。 (出荷時の設定：白)

5-6.「WEBページ設定」画面(つづき)

■リンク設定

システム設定
- 本体管理設定
- 時計設定
- SYSLOG設定
- SNMP設定
- ダイナミックDNS設定
- WEBページ設定

本製品のサービスメニューからよく利用するWEBページへのリンク先を設定します。

リンク先は、最大4件まで設定できます。

リンク設定

	②　名称	③　URL
リンク1		
リンク2		
リンク3		
リンク4		

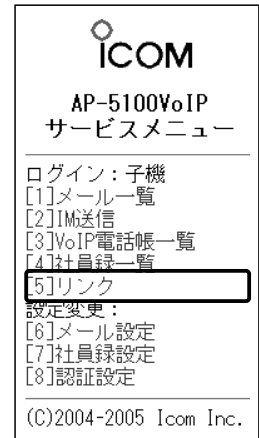
(①: リンク1～リンク4)

①**リンク1～リンク4**…………　リンク先の名称とURLを設定します。

②**名称**…………………………　リンク先に設定するURLについての名称を任意に設定します。
入力は、半角63(全角31)文字までです。
※右の画面から、「[5]リンク」を選択したとき、ここで設定した名称が表示されます。

③**URL**…………………………　リンク先のURLを設定します。
入力は、半角127文字までです。
※右上の画面で、「[5]リンク」を選択したとき、表示される名称(②)をクリックすると、ここで設定したWEBページを表示します。　(設定例：http://www.icom.co.jp/)

「情報表示」メニュー

第6章

この章では、
「情報表示」メニューで表示される設定画面について説明します。

6-1.「電話通信記録」画面

■電話通信記録

情報表示
- 電話通信記録
- 通信記録
- ネットワーク情報
- UPnP情報
- 簡易サーバ情報

加入電話およびIP電話の発信と着信履歴を表示します。

電話通信記録
電話回線およびVoIPの使用時刻および通信記録を表示します。

電話通信記録 クリア	
日付・時間	通信記録

〈クリア〉をクリックすると、履歴を消去できます。

6-2.「通信記録」画面

■通信記録

情報表示
- 電話通信記録
- 通信記録
- ネットワーク情報
- UPnP情報
- 簡易サーバ情報

WAN側回線の通信記録を表示します。

通信記録
WAN側回線の通信記録を表示します。

通信記録 クリア	
日付・時間	通信記録
09/11 11:42:47	DHCPC:BIND (My Address [172.20.252.227] : GW Address [172.20.0.1])
	Lease 1 day Lease 24 hour : Primary DNS [172.16.0.5]
09/11 11:42:39	DHCPC:RELEASE success
01/01 00:00:05	DHCPC:BIND (My Address [172.20.252.227] : GW Address [172.20.0.1])
	Lease 1 day Lease 24 hour : Primary DNS [172.16.0.5]

〈クリア〉をクリックすると、履歴を消去できます。

【不正アクセス検知時の通信記録表示例】

通信記録 クリア	
日付・時間	通信記録
12/11 11:36:17	TCP Syn Flooding: 172.20.252.210->172.20.101.51 TCP[6]:src=1784,dst=80
01/01 03:35:44	TCP Syn Flooding: 172.20.252.169->172.20.101.51 TCP[6]:src=2460,dst=80
01/01 03:34:00	DHCPC:RELEASE success
01/01 03:29:16	TCP Syn Flooding: 172.20.252.169->172.20.252.94 TCP[6]:src=2178,dst=80
01/01 03:28:25	TCP Syn Flooding: 172.20.252.210->172.20.252.94 TCP[6]:src=1464,dst=80
01/01 03:22:03	TCP Syn Flooding: 172.20.252.169->172.20.252.94 TCP[6]:src=2114,dst=80
01/01 03:19:05	TCP Syn Flooding: 172.20.252.169->172.20.252.94 TCP[6]:src=1863,dst=80

6-3.「ネットワーク情報」画面

■ネットワーク インターフェイス リスト

本製品のインターフェイスに対する[IPアドレス]と[サブネットマスク]を表示します。

情報表示
- 電話通信記録
- 通信記録
- ネットワーク情報
- UPnP情報
- 簡易サーバ情報

ネットワーク情報
ネットワークインターフェースリストと本体MACアドレスを表示します。

ネットワーク インターフェース リスト		
インターフェース	IPアドレス	サブネットマスク
local	192.168.0.1	255.255.255.0
wan	192.168.63.11	255.255.255.0

6-3.「ネットワーク情報」画面(つづき)

■ブリッジポート情報

情報表示
- 電話通信記録
- 通信記録
- ネットワーク情報
- UPnP情報
- 簡易サーバ情報

本製品のポートごとに、ブリッジ通信の状況とパケットの数を表示します。

ブリッジポート情報		
ポート	通信情報	
Ethernet ①	状況	通信中
	送信パケット数	220
	受信パケット数	851
IEEE802.11g ②	状況	通信中
	送信パケット数	624
	受信パケット数	0
IEEE802.11a ③	状況	通信中
	送信パケット数	624
	受信パケット数	0
Wireless Bridge 00-90-C7-88-0A-5D ④	状況	通信中
	送信パケット数	624
	受信パケット数	0

①Ethernet ……………………… [LAN]ポートの通信状況と、そのときの送信と受信のパケット数を表示します。

②IEEE802.11g …………… 2.4GHz無線LANポートの通信状況と、そのときの送信と受信のパケット数を表示します。

③IEEE802.11a …………… 5.2GHz無線LANポートの通信状況と、そのときの送信と受信のパケット数を表示します。

④Wireless Bridge (相手のBSSID) ………… 無線AP間通信の相手を本製品に登録(☞3-6章)したとき、登録された相手ごとに、そのときの送信と受信のパケット数を表示します。

■本体MACアドレス

情報表示
- 電話通信記録
- 通信記録
- ネットワーク情報
- UPnP情報
- 簡易サーバ情報

本製品のMACアドレスを表示します。

※このMACアドレスは、本製品の底面パネルに貼られているシリアルシールにも12桁で記載されています。

本体MACアドレス
00-90-C7-FF-FF-FF

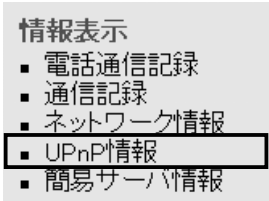
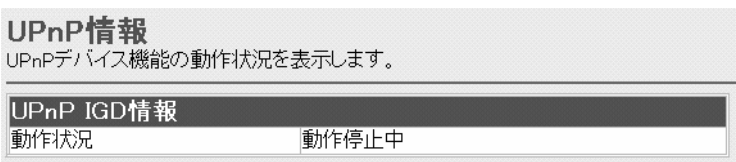
6

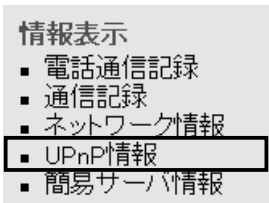
6-4.「UPnP情報」画面

■UPnP IGD情報

UPnPデバイス機能の動作状況を表示します。

情報表示
- 電話通信記録
- 通信記録
- ネットワーク情報
- UPnP情報
- 簡易サーバ情報

UPnP情報
UPnPデバイス機能の動作状況を表示します。

UPnP IGD情報	
動作状況	動作停止中

動作状況 ………………………… UPnPデバイス機能の動作状況を、「動作中」、「動作停止中」のどちらかで表示します。

■UPnP IGDポートマッピングテーブル

UPnPデバイス機能のポートマッピングテーブルの内容を一覧表示します。

情報表示
- 電話通信記録
- 通信記録
- ネットワーク情報
- UPnP情報
- 簡易サーバ情報

UPnP IGD ポートマッピングテーブル

①ホストIP	②WAN側ポート	③ローカルIP	④LAN側ポート	⑤プロトコル

①**ホストIP** ……………………… リモートホストのIPアドレスを表示します。リモートホストが指定されていない場合は、「＊」を表示します。

②**WAN側ポート**……………… WAN側のポート番号を表示します。

③**ローカルIP** ………………… ローカルホストのIPアドレスを表示します。

④**LAN側ポート** ……………… LAN側のポート番号を表示します。

⑤**プロトコル** ………………… プロトコルを表示します。

6-5.「簡易サーバ情報」画面

■子機内線アドレス表示

簡易中継サーバを使用時、簡易中継サーバ子機のIPアドレスと、その子機に接続された電話機の内線番号を表示します。

情報表示
- 電話通信記録
- 通信記録
- ネットワーク情報
- UPnP情報
- 簡易サーバ情報

簡易中継サーバ情報表示
レジストしている端末の内線番号とIPアドレスを表示します。

子機内線アドレス表示

	① 内線番号	② アドレス
01	100	192.168.0.5
02	200	
03		
04		
05		
06		
07		
08		
09		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		
17		
18		

①内線番号 ……………………… 「電話設定」メニューの「簡易サーバ設定」画面にある[子機内線設定]項目の[内線番号]欄に登録された内線番号を表示します。

②アドレス ……………………… 簡易中継サーバ子機に登録されているSIPサーバに接続しているとき、そのIPアドレスを表示します。
※[02]欄に表示された内線番号「200」の簡易中継サーバ子機は、現在SIPサーバに接続されていないことを意味します。

6

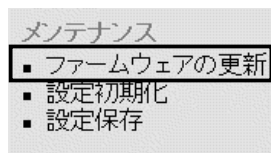
「メンテナンス」メニュー

第7章

この章では、
「メンテナンス」メニューで表示される設定画面について説明します。

7-1.「ファームウェアの更新」画面

■ファームウェアオンライン更新

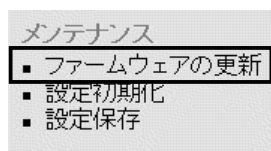
メンテナンス
■ ファームウェアの更新
■ 設定初期化
■ 設定保存

ファームウェアをオンラインでバージョンアップするとき使用します。

ファームウェアの更新
ファームウェアの更新を行います。

ファームウェアオンライン更新
ファームウェアの情報を表示　表示

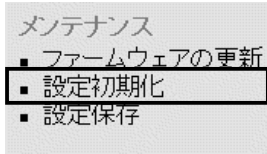
ファームウェアの情報を表示 ……………………………… 〈表示〉ボタンでファームウェアサーバに接続し、最新のファームウェア情報を表示します。

■ファームウェアファイルを指定

メンテナンス
■ ファームウェアの更新
■ 設定初期化
■ 設定保存

パソコンに保存しているファイルを指定してファームウェアをバージョンアップするとき使用します。

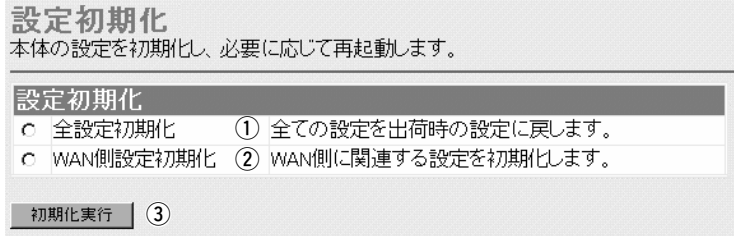
①パソコンに保存している本製品のファームウェアファイル(拡張子：dat)を、[ファームウェアファイルを指定]項目のテキストボックスに直接入力するか、〈参照...〉ボタンをクリックして、指定します。
②〈書き込み〉ボタンをクリックします。
●更新を開始すると、「ファームウェア更新中」と表示されます。

7-2.「設定初期化」画面

■設定初期化

選択した初期化条件で、本製品の設定内容を初期化します。

メンテナンス
- ファームウェアの更新
- 設定初期化
- 設定保存

設定初期化
本体の設定を初期化し、必要に応じて再起動します。

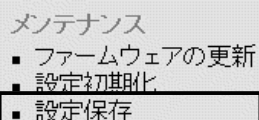
設定初期化		
○ 全設定初期化	①	全ての設定を出荷時の設定に戻します。
○ WAN側設定初期化	②	WAN側に関連する設定を初期化します。

初期化実行 ③

①**全設定初期化** ……………… 本製品に設定されたすべての内容を出荷時の状態に戻します。

②**WAN側設定初期化**………… 以下の3つの画面だけを出荷時の状態に戻します。
「WAN側設定」、「WAN側詳細設定」、「アドレス変換設定」

③**〈初期化実行〉ボタン**……… 選択された[初期化条件]にしたがって、初期化を実行します。

7-3.「設定保存」画面

■設定の保存と書き込み

本製品の設定内容を保存したり、保存した設定ファイルを本製品に書き込んだりします。

メンテナンス
- ファームウェアの更新
- 設定初期化
- 設定保存

設定保存
全設定内容を保存することができます。

設定の保存と書き込み		
保存したファイルを書き込む	①	参照... 書き込む
ファイルに保存する	②	ファイルに保存 savedata.savで保存されます。

①保存したファイルを書き込む ……………………

[ファイルに保存する](②)欄の操作で保存した設定ファイル(拡張子：.sav)内容を本製品に書き込むとき使用します。

設定ファイルの保存先をテキストボックスに直接入力するか、〈参照...〉ボタンをクリックします。

右上の画面から目的の設定ファイルをクリックして、〈開く(O)〉をクリックします。
テキストボックスに保存先を指定後、〈書き込み〉ボタンをクリックすると、本製品にその設定内容を書き込みます。
書き込む前の設定内容は、消去されますのでご注意ください。
※市販のソフトウェアなどで編集したものは、誤動作の原因になりますので、本製品に登録しないでください。

②ファイルに保存する ………

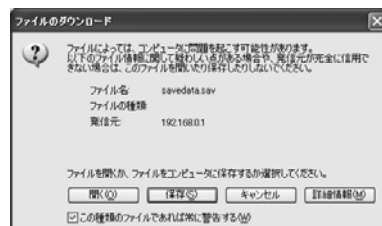
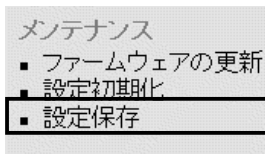
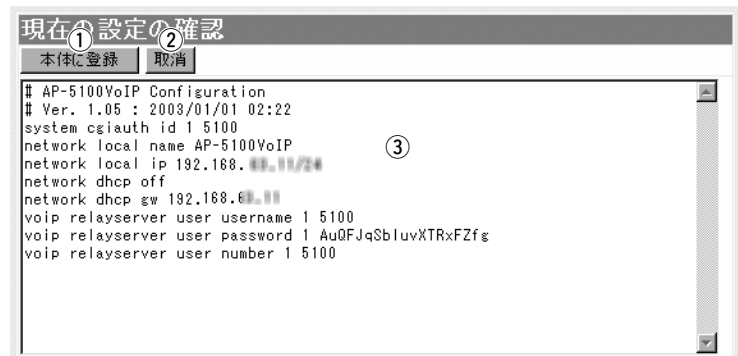
本製品すべての設定内容をパソコンに保存することで、本製品の設定をバックアップすることができます。

[設定の保存と書き込み]項目で[ファイルに保存]をクリックすると表示される右の画面から〈保存(S)〉をクリックすると、設定ファイルを保存できます。

設定ファイルのファイル形式(拡張子)は、「.sav」です。
保存したファイルは、[保存したファイルを書き込む](①)欄の操作で、本製品自身や本製品を使用する別の相手に書き込みできます。
※「VoIP電話帳」画面(☞1-8章)に登録された内容についても保存されます。

7-3.「設定保存」画面(つづき)

■現在の設定の確認

メンテナンス
- ファームウェアの更新
- 設定初期化
- 設定保存

現在の基本的な設定と変更されている設定を表示します。

①〈**本体に登録**〉**ボタン**　……　「内容表示」(③)部に表示された内容を、本製品に書き込みます。
※[設定の保存と書き込み]項目(☞P186)の「ファイルに保存」をクリックして保存した設定ファイル(拡張子：.sav)は、このボタンを使用して書き込みできません。

②〈**取消**〉**ボタン**　……………　「内容表示」(③)部に表示された内容を変更したとき、変更を取り消して、このファイルを最初に開いたときの内容に戻します。

③「**内容表示**」**部**　………………　基本的な設定と初期値から変更された設定を表示します。
この画面内容をパソコンに保存するときは、[設定の保存と書き込み]項目(☞P186)を使用してください。
※各画面で設定されたパスワードやキージェネレーター(無線通信用暗号鍵の生成元文字列)の内容は、暗号化されて表示されます。そのため、保存された設定ファイルよりこれらの情報が外部に漏れることはありません。

第8章 ご参考に

この章では、
Telnetによる接続、PPTPパススルーで使用するパソコンの設定などについて説明します。

8-1.複数固定IPアドレスサービスを使うには

ご契約の回線接続業者、またはプロバイダーがこのサービスを提供している場合、このサービスをご契約になると、回線接続業者、またはプロバイダーから利用可能な複数のグローバル固定IPアドレスを指定されます。

これらのグローバル固定IPアドレスは、本製品の回線種別を「PPPoE複数固定IP」(4-1章☞「■回線種別」)に変更することで、本製品のLANケーブルに接続されたパソコン(LAN側)に直接設定して利用できます。

また、本製品のDHCPサーバ機能などで、自動割り当てされたプライベートアドレスのパソコンと混在した環境でご利用いただけます。

■グローバル固定IPアドレスの使いかた

ご契約の回線接続業者、またはプロバイダーから8個のグローバル固定IPアドレスを指定された場合を例に、その使いかたを説明します。

◎割り当てられた指定の8個：172.16.0.48 ～172.16.0.55
◎サブネットマスク　　　　：255.255.255.248
◎ネットワークIPアドレス　：172.16.0.48(使用できません)
◎ブロードキャストアドレス：172.16.0.55(使用できません)
◎172.16.0.49(WAN側IPアドレスとして本製品に設定)
◎172.16.0.50(本製品に接続するパソコンに使用可能)
◎172.16.0.51(本製品に接続するパソコンに使用可能)
◎172.16.0.52(本製品に接続するパソコンに使用可能)
◎172.16.0.53(本製品に接続するパソコンに使用可能)
◎172.16.0.54(本製品に接続するパソコンに使用可能)

※指定以外のグローバルIPアドレスを使用することはできません。
また、連続で指定された複数のグローバル固定IPアドレスのうち、最初(ネットワークアドレス)と最後(ブロードキャストアドレス)は、ネットワーク上でホストに割り当てて使用できない規則になっています。

8-2.Telnetによる接続

Telnetによる接続方法とオンラインヘルプの見かたについて説明します。

ご使用のOSやTelnetクライアントが異なるときは、それぞれの使用方法をご確認ください。

■Windows XP/Windows 2000の場合

①Windowsを起動します。
②[スタート]メニューから[ファイル名を指定して実行]を選択します。
名前欄に「Telnet.exe」と入力し、〈OK〉をクリックします。
③Telnetクライアントが起動しますので、下記のように指定します。
Microsoft Telnet>open 本製品のIPアドレス
(出荷時の設定：192.168.0.1)
④[User]と[Password]が要求されます。
本製品の「本体管理設定」画面(☞5-1章)で設定した[管理者ID]と[管理者パスワード]を入力してログインしてください。
※初期値では[User]、[Password]ともに設定されていませんから、何も入力しないで[Enter]キーを押してください。
⑤ログインメッセージ(Welcome to AP-5100VoIP!)が表示されます。

■Windows 98/98 SE/Meの場合

①Windowsを起動します。
②[スタート]メニューから[ファイル名を指定して実行]を選択します。
名前欄に「Telnet.exe」と入力し、〈OK〉をクリックします。
③Telnetクライアントが起動しますので、メニューバーから[接続]→[リモートシステム]を選択します。
④[接続]ダイアログボックスが表示されます。
ホスト名、ポート、ターミナルの種類を下記のように選択して、〈接続(C)〉ボタンをクリックします。
ホスト名：本製品のIPアドレス(出荷時の設定：192.168.0.1)
ポート　：telnet(23)
ターミナルの種類：vt100
⑤[User]と[Password]が要求されます。
本製品の「本体管理設定」画面(☞5-1章)で設定した[管理者ID]と[管理者パスワード]を入力してログインしてください。
※初期値では[User]、[Password]ともに設定されていませんから、何も入力しないで[Enter]キーを押してください。
⑥ログインメッセージ(Welcome to AP-5100VoIP!)が表示されます。

8-2.Telnetによる接続(つづき)

■[CONSOLE]ポートを使用する

本製品の[CONSOLE]ポートとパソコンの[COM]ポートを弊社別売品のケーブル(OPC-1402)で接続すると、ターミナルソフトから設定できます。
パソコンの[COM]ポートは、下記の値に設定すると使用できます。

[接続方法]の選択：OPC-1402を接続している[COM]ポートの番号を指定します。
通信速度：115200(ビット/秒)
データビット：8
パリティ：なし
ストップビット：1
フロー制御：なし

※設定後、何も入力せずに[Enter]キーを押すと、「AP-5100VoIP#」と表示されます。

8-2.Telnetによる接続(つづき)

■オンラインヘルプ

オンラインで、コマンドリファレンスを参照することができます。

◎コマンド一覧 ………………

[Tab]キーを押すと、使用できるコマンドの一覧が表示されます。
コマンド名の入力に続いて[Tab]キーを押すと、サブコマンドの一覧が表示されます。

◎コマンドヘルプ ……………

コマンドの意味を知りたい時は、コマンド名の入力に続いて[?]キーを押すとコマンドのヘルプが表示されます。

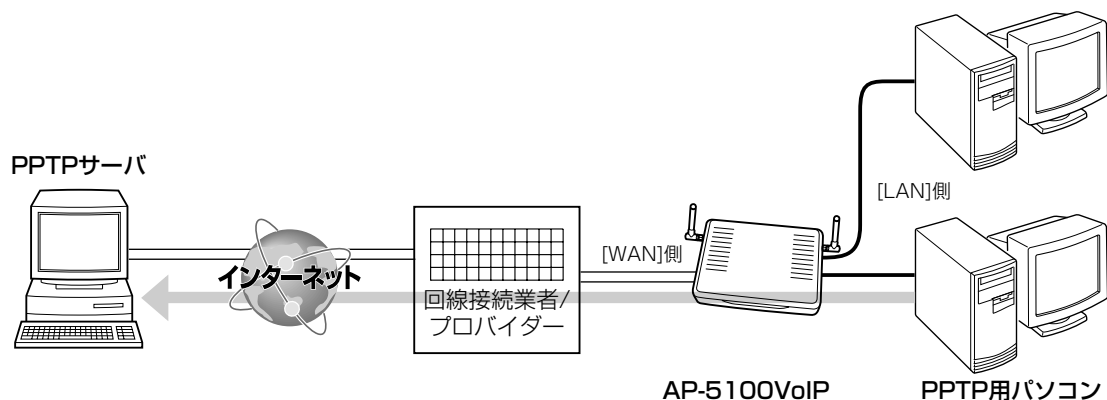
◎コマンド名の補完 …………

コマンド名を先頭から数文字入力し[Tab]キーを押すと、コマンド名が補完されます。
入力した文字に続くコマンドが一つしか無いときは、コマンド名を最後まで補完します。

　例) cl[Tab]→clear

複数のコマンドがあるときは、同じ文字列の所までを補完します。
さらに[Tab]キーを押すと、コマンドの候補を表示します。

　例) r[Tab]→re
　　　re[Tab]→restart　remote
　　　res[Tab]→restart

8-3.PPTPパススルーで使用するパソコンの設定

■Windows XPをクライアントに使用する場合

〈PPTP用のパソコン設定例〉

ご契約のプロバイダーを介して、インターネットで会社のネットワークに接続するような場合の設定例です。

◎Windows XPの場合

〈設定の手順〉

①設定に使用するパソコンを起動します。

②「ログオン」画面が表示されたら、管理者のユーザー名でログオンします。

③起動したら、マウスを〈スタート〉→[コントロールパネル(C)]の順に操作します。

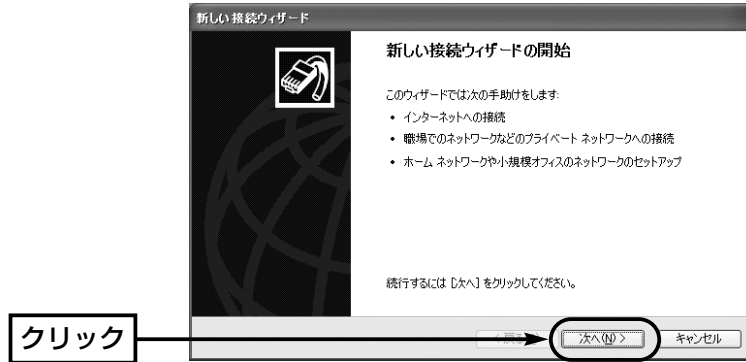
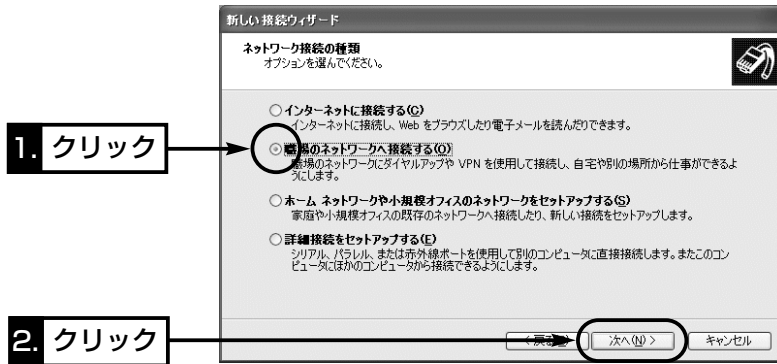
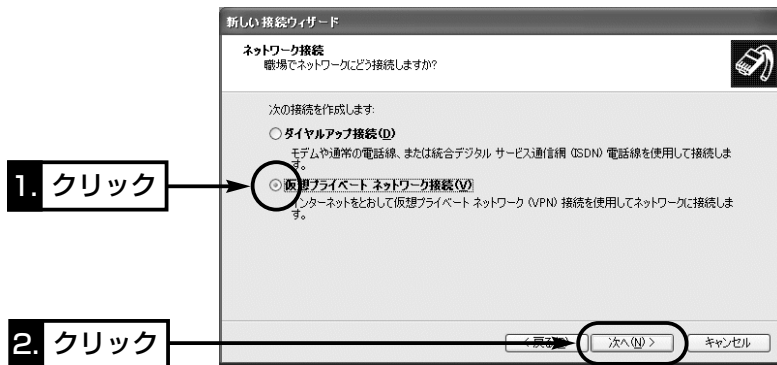
④コントロールパネルから、[ネットワークとインターネット接続]をクリックします。

⑤[ネットワーク接続]アイコンをクリックします。(下図)

⑥[新しい接続を作成する]をクリックします。(下図)

8-3.PPTPパススルーで使用するパソコンの設定
■Windows XPをクライアントに使用する場合
〈PPTP用のパソコン設定例〉
◎Windows XPの場合

〈設定の手順〉(つづき)

⑦〈次へ(N)〉をクリックします。

⑧[職場のネットワークへ接続する(O)]のラジオボタンをクリックして、〈次へ(N)〉をクリックします。

⑨[仮想プライベート ネットワーク接続(V)]のラジオボタンをクリックして、〈次へ(N)〉をクリックします。

8

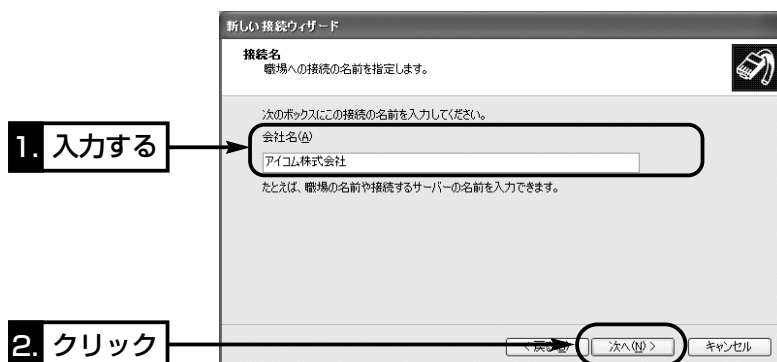
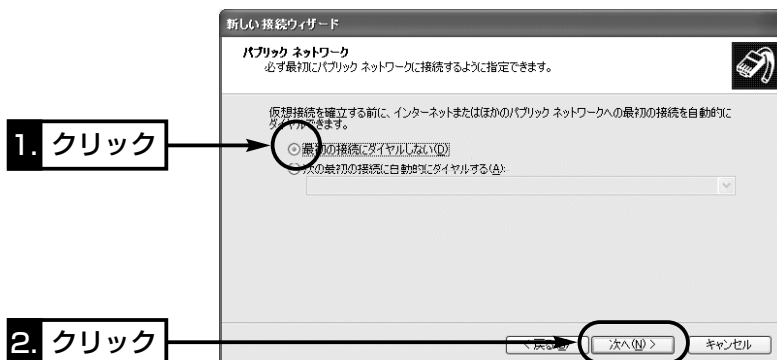
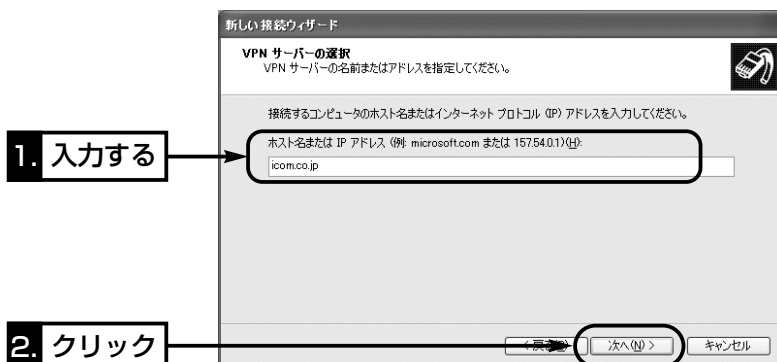
8-3.PPTPパススルーで使用するパソコンの設定

■Windows XPをクライアントに使用する場合

〈PPTP用のパソコン設定例〉

◎Windows XPの場合

〈設定の手順〉(つづき)

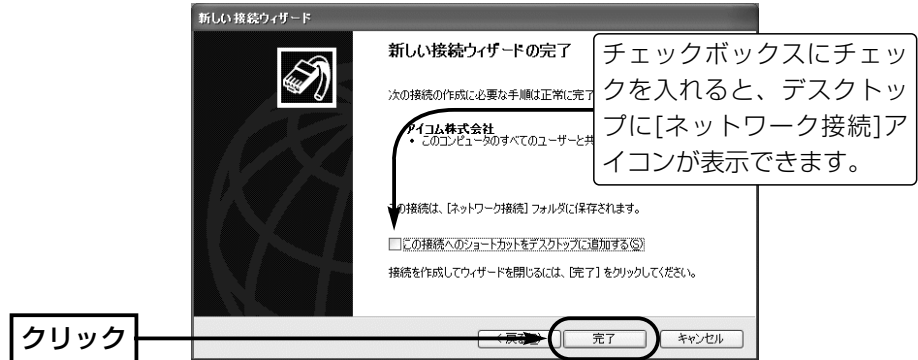
⑩接続先名を[会社名(A)]のテキストボックスに入力して、〈次へ(N)〉をクリックします。

⑪次の画面が表示されたときは、[最初の接続にダイヤルしない(D)]をクリックして、〈次へ(N)〉をクリックします。

⑫ネットワーク管理者から指定された接続先のホスト名、またはIPアドレスを入力して、〈次へ(N)〉をクリックします。

8-3.PPTPパススルーで使用するパソコンの設定

■Windows XPをクライアントに使用する場合

〈PPTP用のパソコン設定例〉

◎Windows XPの場合

〈設定の手順〉(つづき)

⑬〈完了〉をクリックします。

⑭PPTPサーバに設定された[ユーザー名(U)]と[パスワード(P)]を入力して、〈接続(C)〉をクリックします。

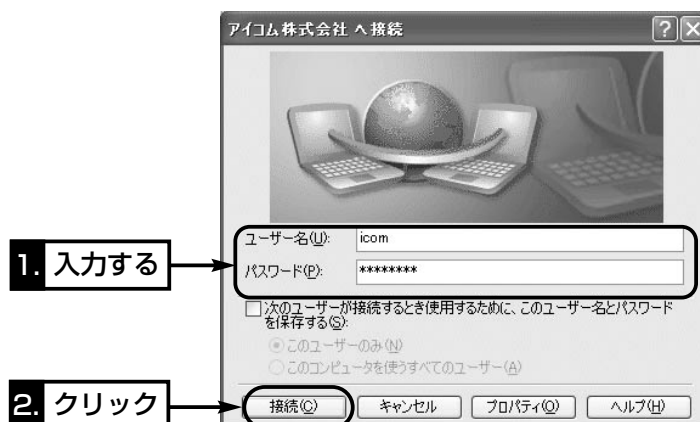
※上記画面で〈キャンセル〉をクリックした場合の接続方法は、次ページで説明しています。

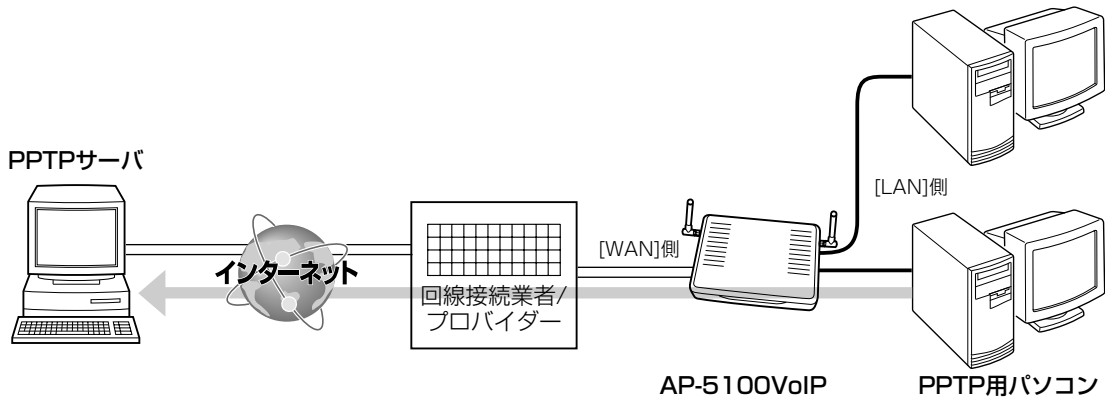
8

8-3.PPTPパススルーで使用するパソコンの設定
■Windows XPをクライアントに使用する場合
〈PPTP用のパソコン設定例〉
◎Windows XPの場合(つづき)

〈設定後、接続するには〉

①〈スタート〉→[コントロールパネル(C)]の順に操作します。
②コントロールパネルから、[ネットワークとインターネット接続]をクリックします。
③[ネットワーク接続]アイコンをクリックします。
④仮想プライベート ネットワークにあるアイコンをクリックします。

⑤PPTPサーバに設定された[ユーザー名(U)]と[パスワード(P)]を入力して、〈接続(C)〉をクリックします。

8-3.PPTPパススルーで使用するパソコンの設定(つづき)

■Windows 2000をクライアントに使用する場合

〈PPTP用のパソコン設定例〉

◎Windows 2000の場合

ご契約のプロバイダーを介して、インターネットで会社のネットワークに接続するような場合の設定例です。

〈設定の手順〉

①マウスを〈スタート〉→[設定(S)]→[ネットワークとダイヤルアップ接続(N)]の順番に操作して、[新しい接続の作成]をクリックします。

②〈次へ(N)〉をクリックします。

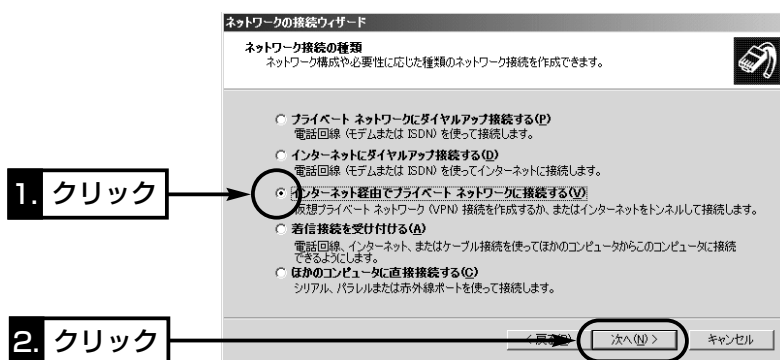
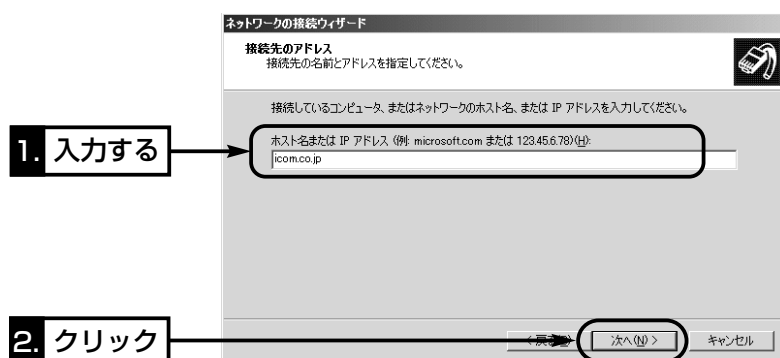
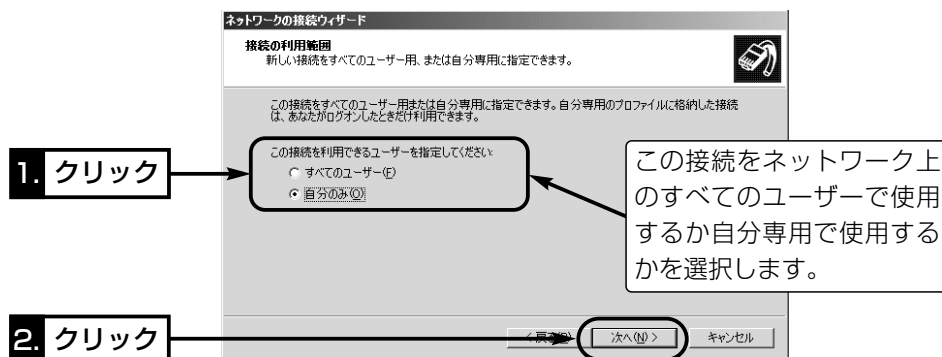
8-3.PPTPパススルーで使用するパソコンの設定

■Windows 2000をクライアントに使用する場合

〈PPTP用のパソコン設定例〉

◎Windows 2000の場合

〈設定の手順〉(つづき)

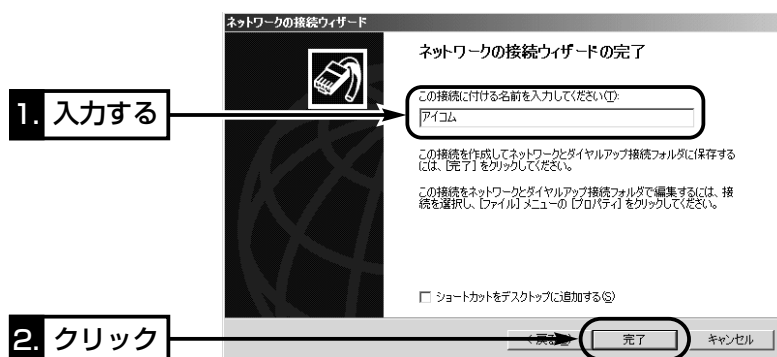
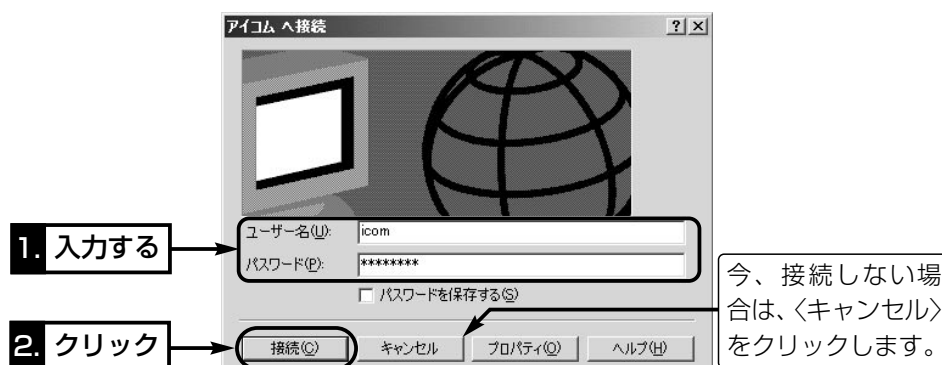
③[インターネット経由でプライベート ネットワークに接続する(V)]のラジオボタンをクリックして、〈次へ(N)〉をクリックします。

④ネットワーク管理者から指定された接続先のホスト名、またはIPアドレスを入力して、〈次へ(N)〉をクリックします。

⑤使用目的に該当する(例：自分のみ(C))ラジオボタンをクリックしてから、〈次へ(N)〉をクリックします。

8-3.PPTPパススルーで使用するパソコンの設定

■Windows 2000をクライアントに使用する場合

〈PPTP用のパソコン設定例〉

◎Windows　2000の場合

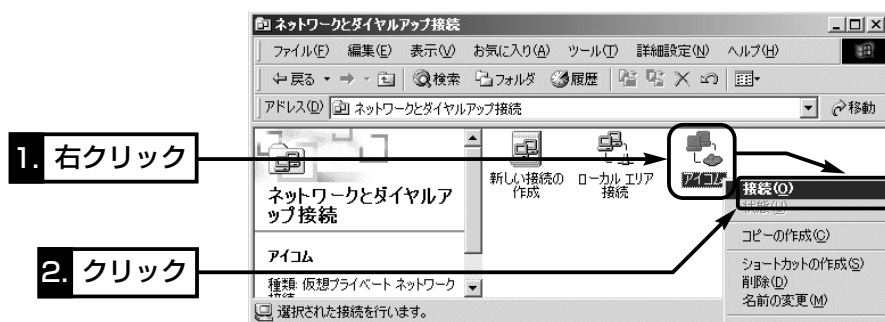
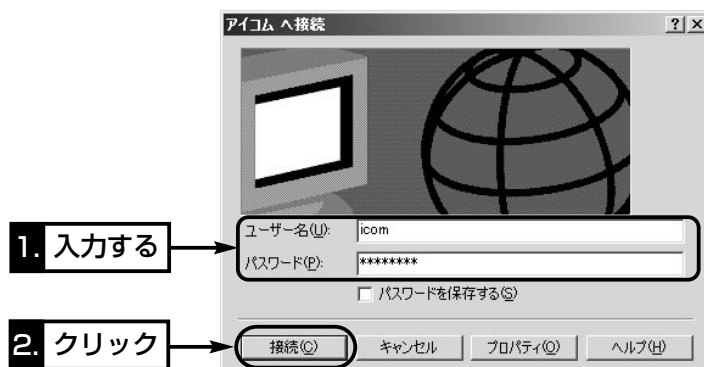
〈設定の手順〉(つづき)

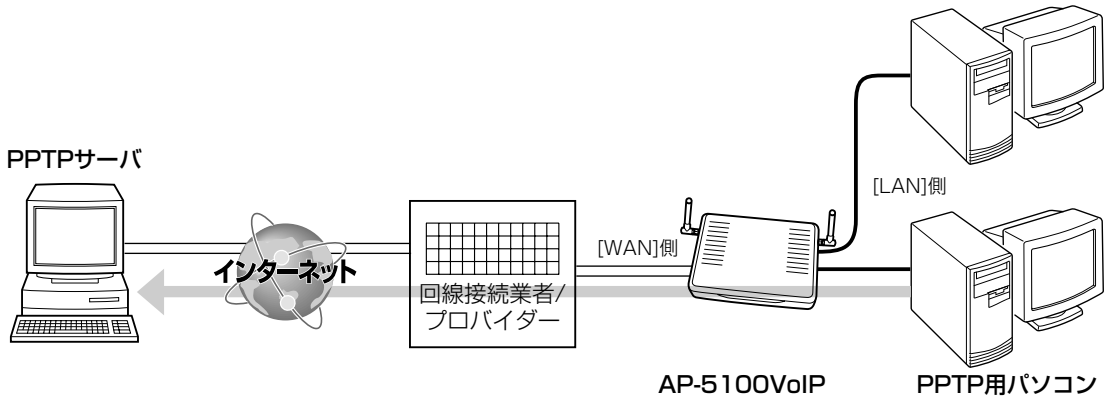
⑥あとでわかるように、任意で接続先名を入力して、〈次へ(N)〉をクリックします。

⑦PPTPサーバに設定された[ユーザー名(U)]と[パスワード(P)]を入力して、〈接続(C)〉をクリックします。

※上記画面で〈キャンセル〉をクリックした場合の接続方法は、次ページで説明しています。

8-3.PPTPパススルーで使用するパソコンの設定
■Windows 2000をクライアントに使用する場合
〈PPTP用のパソコン設定例〉
◎Windows 2000の場合(つづき)

〈設定後、接続するには〉

①マウスを〈スタート〉→[設定(S)]→[ネットワークとダイヤルアップ接続(N)]の順番に操作します。

②新しく作成されたアイコンを右クリックして、[接続(C)]をクリックします。

③PPTPサーバに設定された[ユーザー名(U)]と[パスワード(P)]を入力して、〈接続(C)〉をクリックします。

8-3.PPTPパススルーで使用するパソコンの設定(つづき)

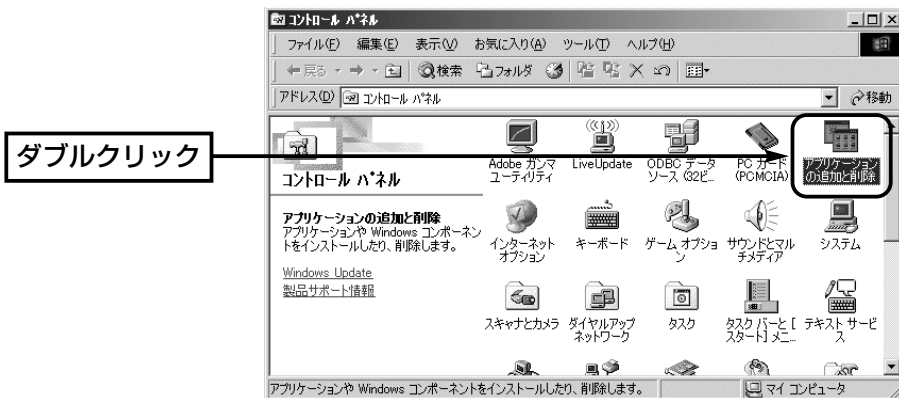
■Windows Meをクライアントに使用する場合

〈PPTP用のパソコン設定例〉

◎Windows Meの場合

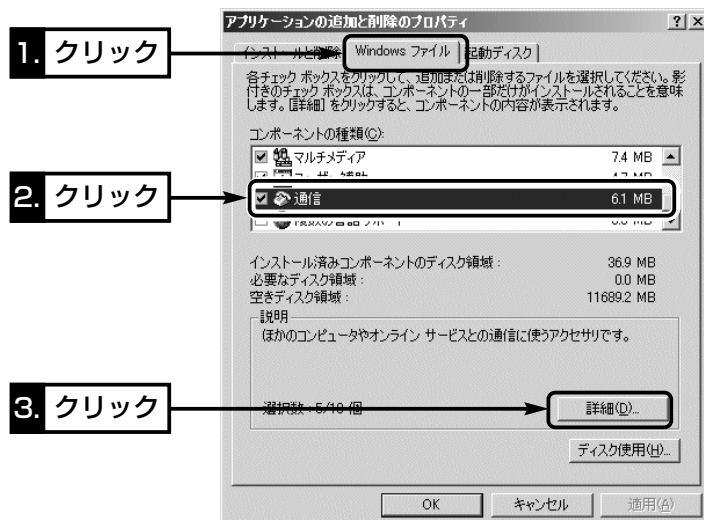
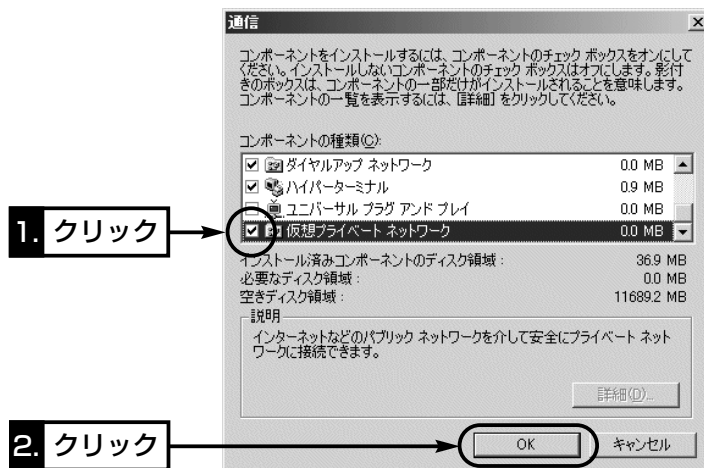
ご契約のプロバイダーを介して、インターネットで会社のネットワークに接続するような場合の設定例です。

〈設定の手順〉

①マウスを〈スタート〉→[設定(S)]→[コントロールパネル(C)]の順番に操作します。

②[アプリケーションの追加と削除]をダブルクリックします。

8-3.PPTPパススルーで使用するパソコンの設定
■Windows Meをクライアントに使用する場合
〈PPTP用のパソコン設定例〉
◎Windows Meの場合

〈設定の手順〉(つづき)

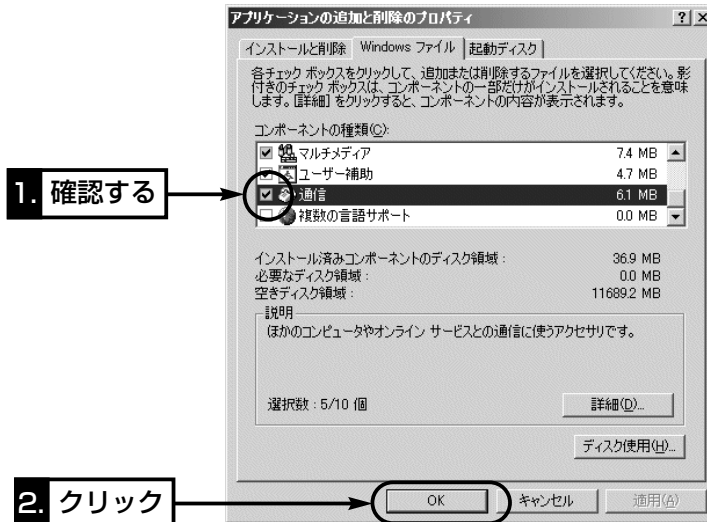
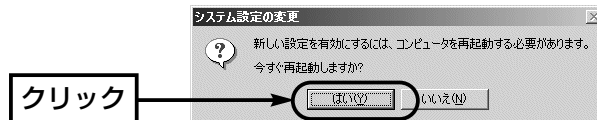
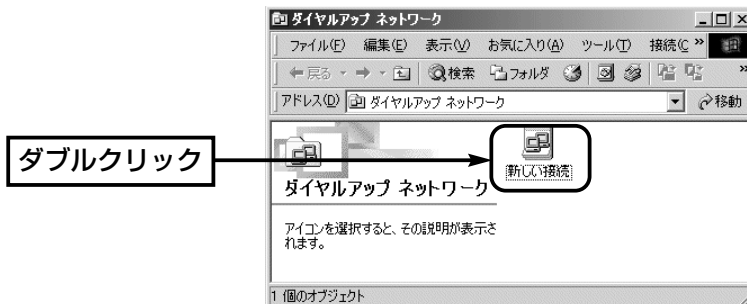
③[Windows ファイル]タブ→[通信]→〈詳細(D)〉の順にクリックします。

④[仮想プライベート ネットワーク]のチェックボックスにチェックを入れてから、〈OK〉をクリックします。

8-3.PPTPパススルーで使用するパソコンの設定

■Windows Meをクライアントに使用する場合

〈PPTP用のパソコン設定例〉

◎Windows Meの場合

〈設定の手順〉(つづき)

⑤[通信]にチェックマークが入っていることを確認して、〈OK〉をクリックします。

⑥〈はい(Y)〉をクリックします。
●パソコンが再起動します。

⑦マウスを〈スタート〉→[設定(S)]→[ネットワークとダイヤルアップ接続(N)]の順番に操作して、[新しい接続]をダブルクリックします。

8-3.PPTPパススルーで使用するパソコンの設定

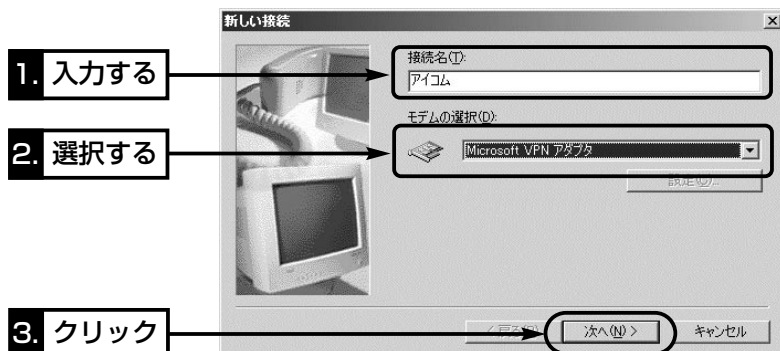
■Windows Meをクライアントに使用する場合

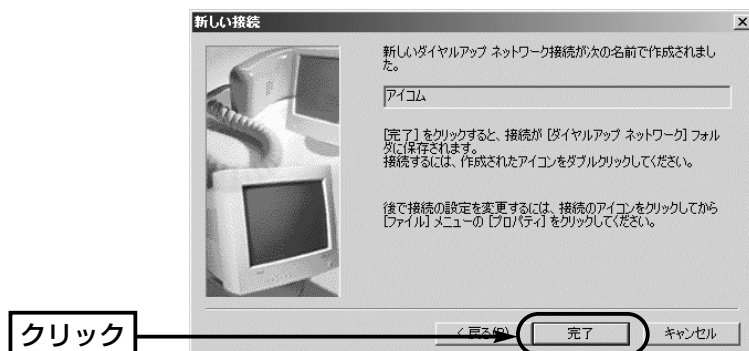
〈PPTP用のパソコン設定例〉

◎Windows Meの場合

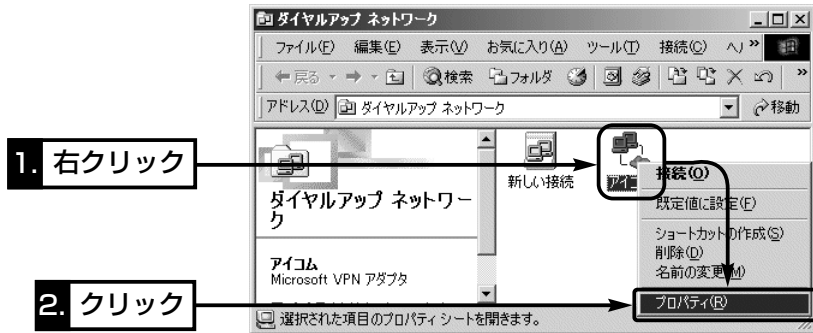
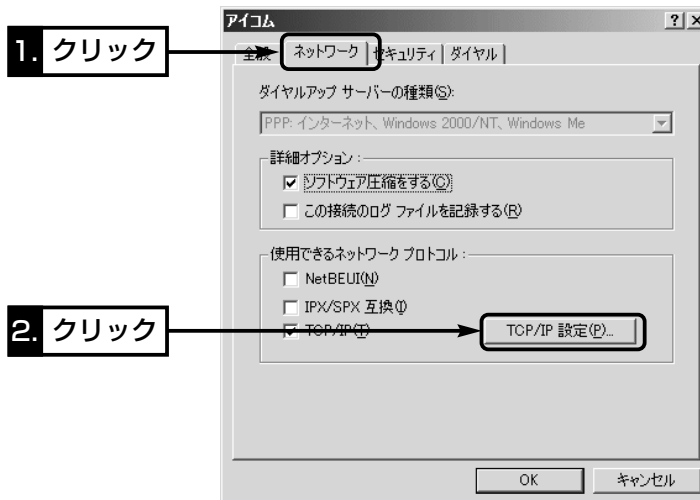
〈設定の手順〉(つづき)

⑧[接続名(T)]には、あとでわかるように、任意で接続先名を入力します。

⑨[モデムの選択(D)]から、「Microsoft VPN アダプタ」を選択して、〈次へ(N)〉をクリックします。

⑩ネットワーク管理者から指定された接続先のホスト名、またはIPアドレスを入力して、〈次へ(N)〉をクリックします。

⑪〈完了〉をクリックします。

8-3.PPTPパススルーで使用するパソコンの設定
■Windows Meをクライアントに使用する場合
〈PPTP用のパソコン設定例〉
◎Windows Meの場合

〈設定の手順〉(つづき)

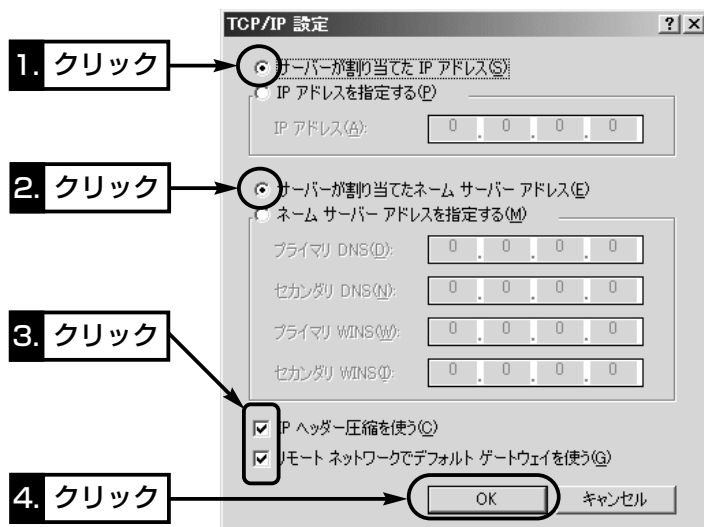
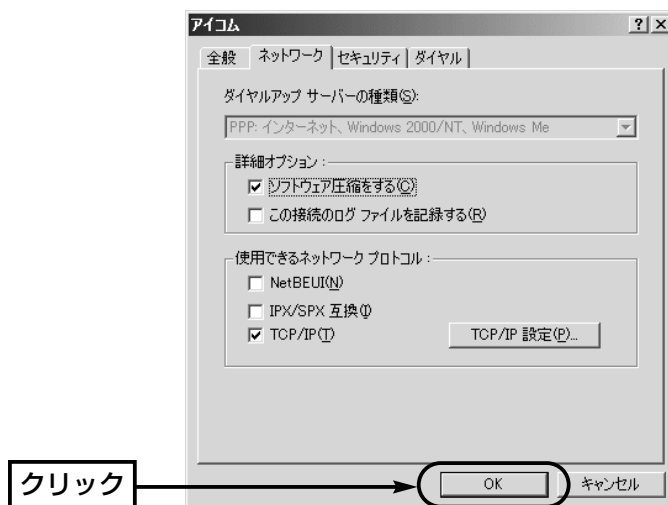
⑫新しく作成されたアイコンを右クリックして、[プロパティ(R)]をクリックします。

⑬[ネットワーク]タブ→〈TCP/IP 設定(P)...〉の順にクリックします。

8-3.PPTPパススルーで使用するパソコンの設定

■Windows Meをクライアントに使用する場合

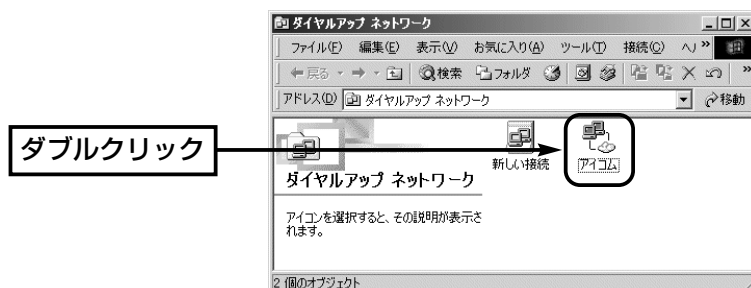
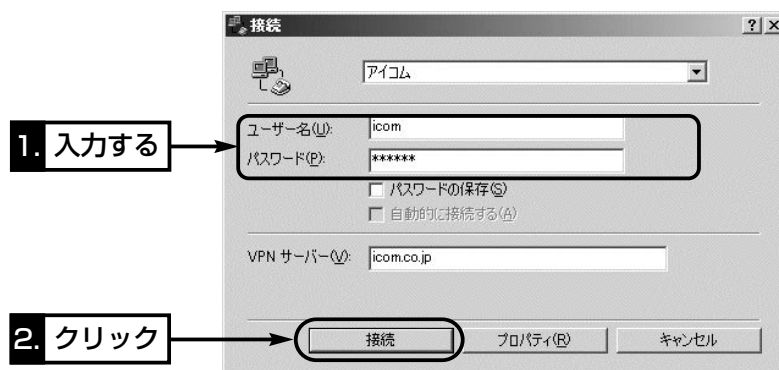
〈PPTP用のパソコン設定例〉

◎Windows Meの場合

〈設定の手順〉(つづき)

⑭ラジオボタンとチェックボックスをクリックして、下記の画面の状態にして、〈OK〉をクリックします。

⑮〈OK〉をクリックします。

8-3.PPTPパススルーで使用するパソコンの設定
■Windows Meをクライアントに使用する場合
〈PPTP用のパソコン設定例〉
◎Windows Meの場合(つづき)

〈接続の手順〉

①マウスを〈スタート〉→[設定(S)]→[ダイヤルアップネットワーク(N)]の順番に操作します。
②新しく作成されたアイコンをダブルクリックします。

③PPTPサーバに設定された[ユーザー名(U)]と[パスワード(P)]を入力して、〈接続〉をクリックします。

8-4.NTTフレッツ・スクウェアに接続するには

■NTT東日本でご契約の場合

〈本製品の設定手順〉

1.「WAN側設定」メニューで、NTT東日本フレッツ·スクウェアへの接続先を設定します。
※接続先を追加する場合は、[回線設定]項目の右にある〈▼〉をクリックして、「追加」を選択してください。
2.**「フレッツスクウェア」**を[接続先名]欄に入力します。
3.**「guest@flets」**(半角文字)を[ユーザID]欄に入力します。
4.**「guest」**(半角文字)を[パスワード]欄に入力します。
5.〈登録〉をクリックします。
6.「WAN側設定」メニューの「WAN側詳細設定」画面にある[PPPoE詳細設定]項目で、[接続先選択]欄から「フレッツ·スクウェア」を選択します。
7.〈選択〉をクリックします。
8.**「＊.flets」**を[宛先ドメイン]欄に入力します。
9.〈登録〉をクリックします。
10.「WAN側設定」メニューの「WAN側設定」画面にある[接続状況]項目で、第2セッションの列にある[接続先の選択]欄から「フレッツ·スクウェア」を選択します。
11.第1セッションの列にある[接続先の選択]欄には、通常インターネットへ接続するのに使用する接続先名を選択します。
12.第1セッションと第2セッションの〈切断〉をクリックして、回線を切断します。
13.「ネットワーク設定」メニューの「ルーティング設定」画面にある[スタティックルーティング設定]項目で、下記のルーティングテーブルを作成します。(合計9行)
※合計9行の[経路]欄は、すべてに「フレッツ·スクウェア」を選択してください。
※合計9行の[ゲートウェイ]欄は、すべて何も入力しないでください。
※合計9行の[メトリック]欄は、すべてに「1」(半角)を入力してください。

〈宛先〉	〈サブネットマスク〉
220.210.194.0	255.255.255.128
220.210.195.0	255.255.255.192
220.210.195.64	255.255.255.192
220.210.198.0	255.255.255.192
220.210.199.0	255.255.255.224
220.210.198.128	255.255.255.192
220.210.197.128	255.255.255.128
220.210.199.128	255.255.255.240
220.210.199.160	255.255.255.240

(2005年1月現在)

8-4.NTTフレッツ·スクウェアに接続するには

■NTT東日本でご契約の場合

〈本製品の設定手順〉（つづき）

14.「WAN側設定」画面にある[接続状況]項目で、第1セッションと第2セッションの[接続先の選択]欄の右にある〈接続〉をクリックします。
※すでに接続されている場合は、操作の必要はありません。

15.インターネットへの接続(第1セッション側)を確認します。
(例：http://www.icom.co.jp/)

16.WWWブラウザのアドレスバーに下記のアドレスを入力して、NTTフレッツ·スクウェア(第2セッション側)への接続を確認します。

http://www.flets/

【スタティックルーティングの設定について】

NTT東日本のフレッツ·スクウェアをご利用になる場合、ルーティングテーブルに設定するアドレスは、変更になることがあります。
変更された場合、ルーティングテーブルの設定を変更してください。
変更しない場合は、NTT東日本のフレッツ·スクウェアのホームページにアクセスできません。
ルーティングテーブルに設定するアドレスについては、NTT東日本のフレッツ·スクウェアに接続してから、「http://flets.com/square/routing.html」(2005年1月現在)でご確認ください。

【NTT東日本のフレッツ･スクウェアを第2セッションで利用できないときは？】

「WAN側設定」メニューの「WAN側設定」画面にある[接続状況]項目で、第1セッションの列にある[接続先の選択]欄で「フレッツ·スクウェア」を指定すると、ルーティングテーブルの設定をしなくても、**「http://www.flets/」**にアクセスできます。
この状態で、「http://flets.com/square/routing.html」(2005年1月現在)にアクセスして、ルーティングテーブルに設定するアドレスの最新情報をご確認ください。

8-4.NTTフレッツ·スクウェアに接続するには(つづき)

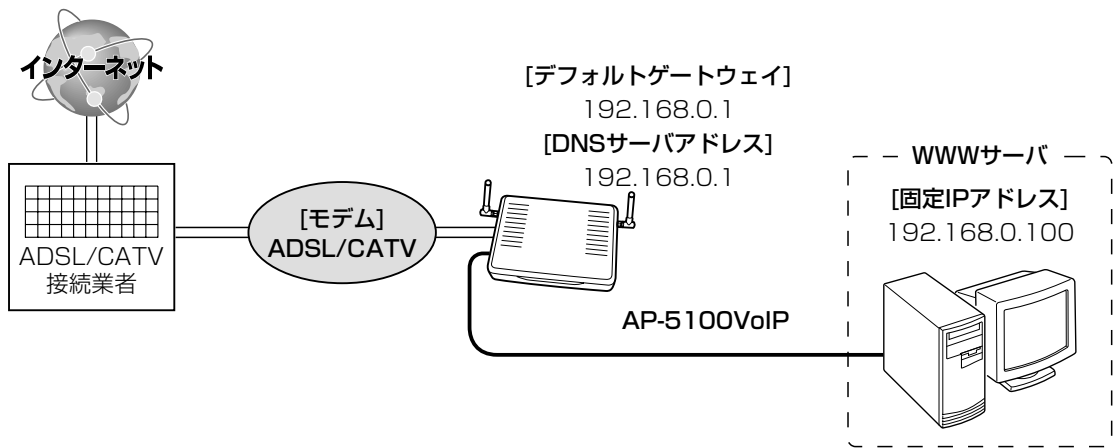
■NTT西日本でご契約の場合

〈本製品の設定手順〉

1.「WAN側設定」メニューで、NTT西日本フレッツ·スクウェアへの接続先を設定します。
※接続先を追加する場合は、[回線設定]項目の右にある〈▼〉をクリックして、「追加」を選択してください。
2.**「フレッツスクウェア」**を[接続先名]欄に入力します。
3.**「flets@flets」**(半角文字)を[ユーザID]欄に入力します。
4.**「flets」**(半角文字)を[パスワード]欄に入力します。
5.〈登録〉をクリックします。
6.「WAN側設定」メニューの「WAN側詳細設定」画面にある[PPPoE詳細設定]項目で、[接続先選択]欄から「フレッツ·スクウェア」を選択します。
7.〈選択〉をクリックします。
8.**「*.flets」**を[宛先ドメイン]欄に入力します。
9.〈登録〉をクリックします。
10.「WAN側設定」メニューの「WAN側設定」画面にある[接続状況]項目で、第2セッションの列にある[接続先の選択]欄から「フレッツ·スクウェア」を選択します。
11.第1セッションの列にある[接続先の選択]欄には、通常インターネットへ接続するのに使用する接続先名を選択します。
12.第1セッションと第2セッションの〈切断〉をクリックして、回線を切断します。
13.「WAN側設定」画面にある[接続状況]項目で、第1セッションと第2セッションの[接続先の選択]欄の右にある〈接続〉をクリックします。
※すでに接続されている場合は、操作の必要はありません。
14.インターネットへの接続(第1セッション側)を確認します。
(例：http://www.icom.co.jp/)
15.WWWブラウザのアドレスバーに下記のアドレスを入力して、NTTフレッツ·スクウェア(第2セッション側)への接続を確認します。

http://www.flets/

8-5.Web公開の設定例

本製品を使用してWebサーバを公開するための準備と本製品の設定例を、下記の図を例に説明します。

1.WWWサーバの設定

①WWWサーバとして使用するパソコンのIPアドレスがDHCPサーバから自動的に取得する設定になっている場合は、[TCP/IP]のプロパティで、IPアドレスを固定(例：192.168.0.100)します。

②「デフォルトゲートウェイ」と「DNSサーバアドレス」は、本製品に出荷時設定された値(192.168.0.1)を使用すると仮定しますので、それらも併せて設定します。

③設定後、このパソコンからインターネットに接続できることを確認します。

8-5.Web公開の設定例(つづき)

2.Web公開の設定

①本製品の設定画面にアクセスして、「WAN側設定」メニューの「アドレス変換」をクリックします。
- 「アドレス変換設定」画面を表示します。

②パソコンの固定IPアドレス(例：192.168.0.100)を[静的マスカレード設定]項目の[登録の追加]-[ローカルIP]欄に入力します。
③指定するプロトコルは「TCP」で、[静的マスカレード設定]項目の[登録の追加]-[プロトコル]欄で選択します。
④指定するポートは「Web(80番)」で、[静的マスカレード設定]項目の[登録の追加]-[ポート]欄で選択します。
⑤〈追加〉をクリックします。

⑥「WAN側設定」メニューの「IPフィルタ」をクリックします。
- 「IPフィルタ設定」画面を表示します。

⑦「56」を[IPフィルタ設定]項目の[番号]欄に入力します。
⑧指定するフィルタ方向は「WAN側から」で、[IPフィルタ設定]項目の[フィルタ方向]欄で選択します。
⑨指定するフィルタ方法は「透過」で、[IPフィルタ設定]項目の[フィルタ方法]欄で選択します。
⑩指定するプロトコルは「TCP」で、[IPフィルタ設定]項目の[プロトコル]欄で選択します。
⑪指定する宛先ポート番号は「Web」(80)で、[IPフィルタ設定]項目の[宛先ポート番号]欄で選択します。 (☞次ページへつづく)

8-5.Web公開の設定例
2. Web公開の設定(つづき)

⑫宛先IPアドレスは、パソコンの固定IPアドレス(例：192.168.0.100)で、[IPフィルタ設定]項目の[宛先IPアドレス]欄に入力します。
⑬〈追加〉をクリックします。

⑭設定した内容を[現在の登録]項目で確認できたら設定完了です。

現在の登録

		番号	方向	方法	プロトコル	発信元ポート番号	宛先ポート番号	発信元IPアドレス	宛先IPアドレス
編集	削除	56	WAN側から	透過	TCP	*	web	*	192.168.0.100
編集	削除	57	WAN側から	透過	TCP	20	*	*	*
編集	削除	58	WAN側から	遮断	TCP_EST	*	*	*	*
編集	削除	59	両方	遮断	すべて	135	*	*	*
編集	削除	60	両方	遮断	すべて	*	135	*	*
編集	削除	61	両方	遮断	すべて	445	*	*	*
編集	削除	62	両方	遮断	すべて	*	445	*	*
編集	削除	63	両方	遮断	TCP	*	137 - 139	*	*
編集	削除	64	両方	遮断	UDP	137 - 139	137 - 139	*	*

【ご参考に】
グローバルアドレスでのホームページ公開を確認するときは、本製品のWAN側から行ってください。

8

◆ダイヤル操作について

必ず、受話器から聞こえる発信音を確認してから、電話機のダイヤルを操作してください。
なお、受話器を上げてから、電話機の電話帳機能、ワンタッチダイヤル機能や短縮ダイヤル機能を利用してダイヤルされる場合は、登録電話番号の始めにポーズ(ダイヤルを開始するまでの待ち時間)を設定いただくことにより、間違い電話などの防止になります。ポーズの設定時間を変更する方法にいては、電話機の取扱説明書でご確認いただくか、お買い求めの販売店などにお問い合わせください。